第５章　遺物

第１節　遺構出土遺物（図版第36～54、第42～76図）

１　住居出土遺物

SH １・２出土遺物（第 42 図１～５）

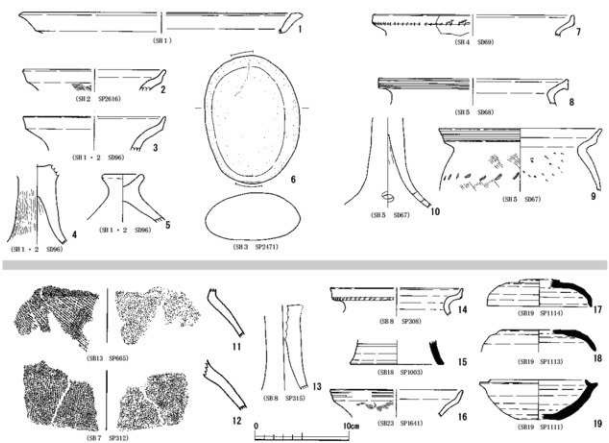
SH １内からは、弥生土器の高坏の口縁部片（第 42 図１）が出土している。口縁端部に平坦面をつくるものである。

SH １・２の SD96 から、弥生土器の壺の口縁部片（第 42 図３）と考えられるものと、弥生土器の高坏の脚部上半（第 42 図４）、蓋のつまみ部分（第 42 図５）が出土している。３は開いた頸部から有段となる口縁部である。４は SD ２から出土した高坏の脚部と同じように単純に「ハ」の字に開く、有段とはならないタイプのものと考えられる。

SH ２の SP2616 からも、第 42 図３と類似した口縁部（第 42 図２）が出土している。ここでは壺の口縁部として図化したが、先のものと比較すると頸部の立ち上がりの器壁が、壺の頸部とするにはやや厚い。台付の器種の脚台の可能性はあるが、本遺跡周辺ではこのような脚台となる事例は少ない。

SH ３出土遺物（第 42 図６）

SH ３の SP2471 から、磨石類が１点出土した。両端に敲打痕が認められる。磨痕は明らかでない。



第42図　遺物実測図１（縮尺1/4）

SH ４出土遺物（第 42 図７）

SH ４の SD69 から、弥生土器の甕の口縁部片（第 42 図７）が出土している。受口状口縁で、立ち上がりに刺突列点文を加える。

SH ５出土遺物（第 42 図８～ 10）

SH ５の SD67 から、弥生土器の有段口縁甕の口縁部から胴部上半（第 42 図９）が出土している。有段の立ち上がりは明確で、外に開いて立ち上がる。胴部上半にはヘラの刺突列点文がめぐる。SD67 からは高坏の脚部上半（第 42 図 10）も出土している。SH ２の高坏と同じように、「ハ」の字に開くタイプであろう。

SH ５の SD68 からは有段口縁甕の口縁部片（第 42 図８）が出土している。口縁の立ち上がりがほとんどなく、有段口縁としては型式的に古いタイプである。

２　掘立柱建物出土遺物

掘立柱建物の柱穴からは、微細片ながらも土器が僅かに出土している。器形が把握できるものを中心に、図化を試みた。しかしながら、異なる時代の土器が混在して出土する例もあるため、提示した土器資料が掘立柱建物の帰属時期を示すものとは一概には言い切れないことを断っておく。

SB ７出土遺物（第 42 図 12、第 43 図１）

第 42 図 12 は、SP312 から出土した土師器の甕頸部片である。外面がタテハケ調整である。なお、図示しなかったが、別の柱穴からは回転ヘラ切り痕を持つ須恵器無台坏の微細な底部片が出土している。

第 43 図１は、SP318 から出土した柱根である。芯持ち材を用いており、横断面が略円形を呈する。基底面には、左側より斜めに切り込まれた加工痕を残す。

SB ８出土遺物（第 42 図 13・14）

第 42 図 13 は、SP315 から出土した高坏の脚部上半である。表面が赤味の強い色調で、本遺跡の弥生土器の高坏の色調とは全く異なる。器壁もかなり厚く、胎土も異なる。表面の磨滅が著しく、調整が全く不明で時期の判別ができない。

第 42 図 14 は、SP308 から出土した弥生土器の受口状口縁甕の口縁部である。口縁端部が内傾し、立ち上がりに刺突列点文を加える。

SB13 出土遺物（第 42 図 11）

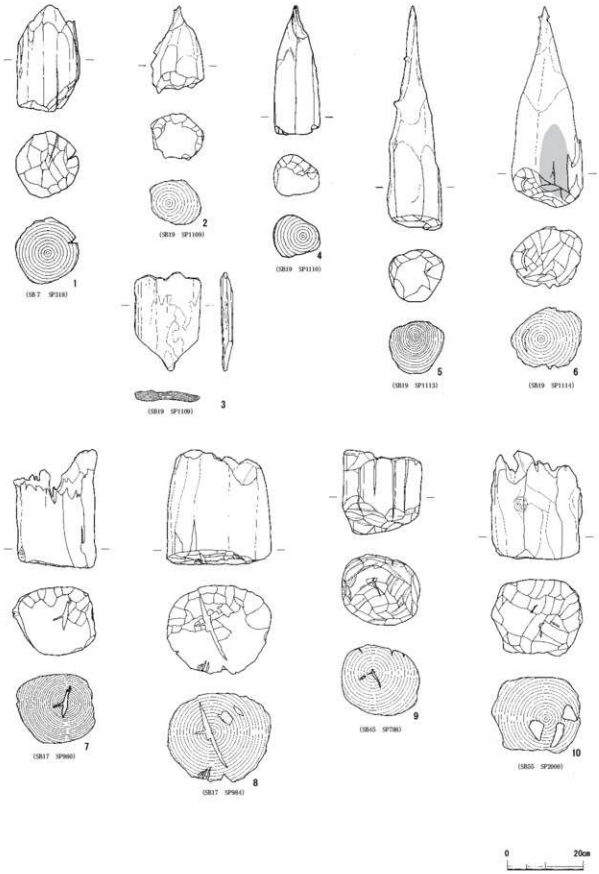
第 42 図 11 は、SP665 から出土した土師器の甕頸部片である。外面がナナメのハケ調整で、その上に僅かに残る頸部への立ち上がりにはヨコナデ調整を施す。11 と SB ７出土の第 42 図 12 の甕は口縁部等明確な時期を示す部分はないが、SD ２で出土している弥生土器の胎土とは全く異質なものである。周辺での類例や器壁の厚み、長胴ではなく、やや丸くなると考えられる器形等から、古墳時代終末期も含めた古代前半の非ロクロ成形の土師器の甕であると考えられる。

SB17 出土遺物（第 43 図７・８）

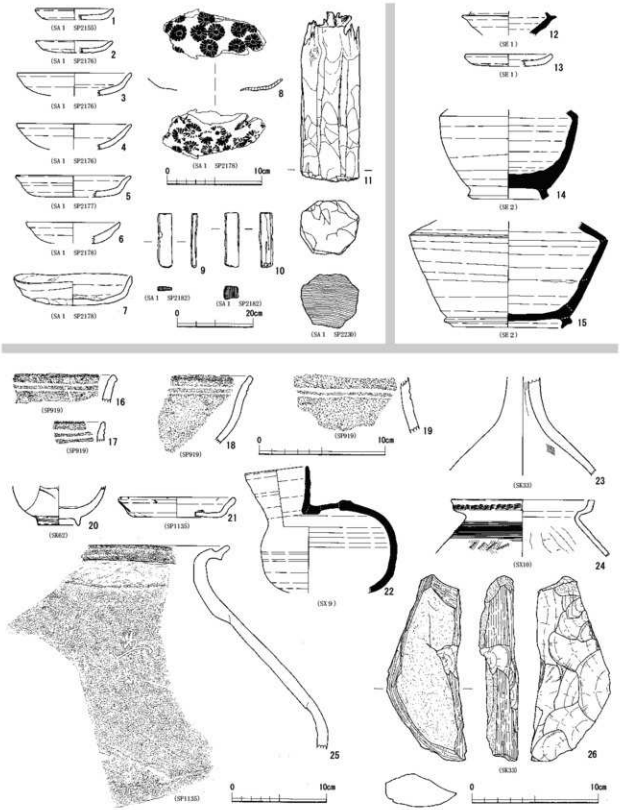
第 43 図７・８は、SP980・984 から出土した柱根である。７は芯持ち材を用いており、横断面は略方形を呈する。８も芯持ち材を用いており、横断面は楕円形を呈する。両者ともに、基底面は平坦に整えている。

SB18 出土遺物（第 42 図 15）

第 42 図 15 は、SP1003 から出土した須恵器片である。端面が平坦となることから、壺等の脚台の一部である可能性が高い。



第43図　遺物実測図２（縮尺1/10）



第44図　遺物実測図3（縮尺　1～8・12～15・20～25：1/4、9～11：1/10、16～19・26：1/3）

SB19 出土遺物（第42図17～19、第43図2～6）

第42図19はSP1111から出土した須恵器の坏身、第42図17はSP1114から、第42図18はSP1113から各々出土した須恵器の坏蓋である。坏身・坏蓋ともに「坏H」とされる7世紀代のものである。

第43図2・4～6は、SP1109・1110・1113・1114から出土した柱根である。いずれも芯持ち材を用いている。横断面は、不整な扇形を呈する。2・4・5は基底面を平坦に整えるが、6は左右より斜めに切り込まれており、尖り気味となる。

第43図3は、SP1109から出土した礎板である。平面形は五角形を呈し、下端は左右両側面から斜めに切り落とされている。

SB23 出土遺物（第42図16）

第42図16はSP1641から出土した弥生土器の壺の口縁部である。開いた頸部から有段となって立ち上がる。器台の受け部に多いタイプであるが、器台とするには器壁が薄く、口径も小さいので壺と判断して復元した。

SB45 出土遺物（第43図9）

第43図9は、SP788から出土した柱根である。芯持ち材を用いており、横断面は略方形を呈する。基底面には、周囲より斜めに切り込まれた加工痕が明瞭に残る。

SB55 出土遺物（第43図10）

第43図10は、SP2000から出土した柱根である。芯持ち材を用いており、横断面が略六角形を呈する。基底面には、周囲より切り込まれた加工痕が明瞭に残る。

3　柵列出土遺物

SA 1出土遺物（第44図1～11）

SA 1を構成するSP2155・2176・2177・2178から、土師皿・漆器・木製品および柱根が出土した。

土師皿は、大皿と小皿が存在する。第44図1・2は、口径8㎝前後をはかる小皿である。体部は、平底の底部から見込みを押さえて短く立ち上がる。このため身の作りは浅い。第44図3・4・6・7は、口径10～12㎝前後をはかる土師皿の大皿である。体部は、丸味を帯びた底部から見込みを押さえて、外傾しながら立ち上がる。口縁部下外面にはマワシナデを施すが、マワシナデの強弱により見込みが折れるものと緩やかなものとがある。第44図5は口径12㎝前後をはかる大皿で、口縁部下外面の強いマワシナデのため体部中程で外折する。若狭地域では土師皿の編年が確立されていないため、永平寺町諏訪間興行寺遺跡の分類・編年案に参照すると、いずれも13世紀半ばから後半に属する。

第44図8は漆器である。底部を中心とした小片である。腐朽のため木胎が僅かしか遺存していないうえに、器形に歪みが生じており器種を明確に特定できないが、底面が広く作られていることから皿の可能性がある。内外面には黒漆地に朱漆で型押しの菊花文を施す。内面は4単位の菊花文を菱形状に配して1組とし、それを器面に展開させている。外面は朱漆が剥落しているため明確ではないが、菊花文を重複して密に配する。

第44図9・10は小型の板材である。第44図11は柱根である。芯去り材を用いており、横断面は略八角形を呈する。基底面は、平坦に整えられている。風蝕により不明瞭ではあるが、表面にはチョウナ痕と推定される加工痕が認められる。

4　井戸出土遺物

SE 1出土遺物（第44図12・13）

SE 1からは、須恵器の坏身が1点と土師皿が1点出土している。第44図12の坏は特徴的な口縁端部を欠くものの立ち上がりは明瞭で、「坏H」と呼ばれる7世紀代のものである。第44図13の土師皿は、体部が平底の底部から見込みを押さえて短く立ち上がる小皿である。SA 1出土の小皿と同時期と考えら

れ、13 世紀半ばから後半に属する。

SE ２出土遺物（第 44 図 14・15）

SE ２からは、長頸壺と考えられる高台が付く胴部下半（第 44 図 14）と、広口の壺と考えられる高台が付く胴部下半（第 44 図 15）の、２点が出土している。14 は大きさの割に底部の器壁が厚く、全体にやぼったい感じがする。15 は屈曲する胴部の最大径の上に沈線をめぐらす

５　土坑・柱穴出土遺物

SK33 出土遺物（第 44 図 23・26）

第 44 図 23 は、「ハ」の字に開く弥生土器の高坏の脚部上半である。摺近くまであるが、円形の孔の部分は残っていない。

第 44 図 26 は、ガラス質安山岩製の石核である。角礫の母岩から節理に沿って剥離した板状剥片を素材とする。側面の自然面を打面、腹面を作業面とし、背面は全面自然面に覆われている。

SK62 出土遺物（第 44 図 20）

第 44 図 20 は、肥前系磁器の染付椀である。呉須にて、内面見込みと高台外面には２条の界線を、体部外面には草花文を描く。細片のため明確ではないが 18 世紀前半頃に属すると推定される。

SX ９出土遺物（第 44 図 22）

第 44 図 22 は、須恵器の平瓶である。底部を欠くが、ほぼ全形がわかるまでに復元できた。丸く器高が高く、小さめのものである。胴部天井部のロクロ成形の穴を粘土の円盤で塞ぎ、その脇に小さな円形浮文を貼り付ける。

SX10 出土遺物（第 44 図 24）

第 44 図 24 は弥生土器の甕であり、受口状口縁を呈する。口縁の立ち上がりに櫛描の刺突列点文をめぐらせ、胴部上半には櫛描直線文の直下にも櫛描の刺突列点文を加える。

SP919 出土遺物（第 44 図 16 ～ 19）

第 44 図 16 ～ 19 は、縄文土器である。16 ～ 18 は２条の沈線をめぐらすロ縁部片。16・17 は同一個体と考えられる。18 の沈線は 16・17 に比べ細く浅い。19 は２条の沈線をめぐらす胴部片である。

SP1135 出土遺物（第 44 図 21・25）

第 44 図 21 は土師皿である。口縁部下外面の強いマワシナデのため、体部の中程で外折する。第 44 図 25 は越前焼の甕である。口縁部が上方に立ち上がり、口縁端部内面に凹線をめぐらす。体部には、花押状の刻文を施す。いずれも 13 世紀後半に属する。

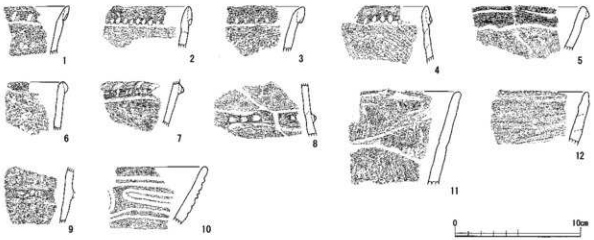
６　河川・溝出土遺物

SD １出土遺物（第 45 ～ 52 図）

縄文土器（第 45 図）

縄文時代晩期後葉に位置付けられる土器が少量出土した。出土地区は６区にまとまっている。いずれも小破片で、器形全体をうかがえる個体は認められない。

第 45 図１～８は突帯文土器の系譜で捉えられる資料である。いずれも深鉢とみられる。１～６は口縁部破片で、突帯は口縁端部に接する。突帯の形状には低平で幅広のもの（１～４）と断面半円形のもの（５・６）がある。前者は突帯というよりむしろ肥厚口縁と呼ぶべき形状を呈し、下端に沿って米粒状の刺突列を持つ。口縁端部は突帯上端と一体をなし、尖り気味である。一方、後者の突帯は刻みや刺突を持たず、口縁端部は丸味を帯びている。第 45 図７～９は頸胴部破片である。７・８は断面三角形



第45図　遺物実測図４（縮尺1/3）

状の突帯を施す。９は突帯が剥落しており、形状は不明。７の突帯には、垂直ないしやや右方向から施した断面Ｖ字の刻みが認められ、突帯の上方には整形時のものとみられる爪痕が残る。一方、８の突帯には、工具をねかせて右方向から押しつけることによりＤ字を呈する刻みを施している。９にもＤ字の刻みの痕跡が残る。これら突帯文土器の胎土は、概して径２㎜程度までの砂粒を多く含む。器面調整は３・４に突帯施文前の斜位条痕が確認できる。

第45図10は沈線で工字文状の文様を描出した浅鉢。大洞Ａ・Ａ’式に類似する。外面に赤彩の痕跡が残る。胎土は砂粒が少なくきめ細かい。

第45図11・12は無文深鉢である。11は外面に板状工具で縦位のナデを施し、内面は横位条痕後にナデを施している。12は内外面に幅広の横位条痕を施す。胎土は突帯文土器と同様に砂粒を多く含むが、雲母を多量に含む点で異なっている。

須恵器（第46～48図）

SD１からは、須恵器が大量に出土している。このため、墨書土器等の特殊な土器以外は、口径等の遺存状況が良いものを対象に図化した。出土した須恵器は、６世紀代にまで遡るものが一部見られるが、主体となるのは７世紀前半から８世紀前半を中心とした時期のものである。また、９世紀代まで下ると考えられるものは、墨書土器として提示した２点以外は図化できていない。

また、円面硯も越前地域や周辺での事例等から、SD２で主体となる古代後半の墨書土器と同じく９世紀初頭を中心とする時期のものではなく、８世紀前半のものである可能性が高い。ここでは坏蓋・坏身・堤瓶・甕・壺・高坏・鉢・甕等の順に、特殊な土器以外はまとめて説明していく。なお、坏以下、壺・鉢・甕等の器種名、坏身の細分類名は奈良文化財研究所による平城宮跡の調査報告を参考にした。

更に、須恵器の時期等については、越前地域と若狭地域では様相が異なると考えられるが、若狭地域では同時期のまとまった資料の報告がないこともあり、越前地域の茱山崎遺跡・今市岩畑遺跡および乗兼・坪江遺跡等の同時期と考えられる遺跡の類例を参考にし、『シンポジウム　北陸古代土器研究の現状と課題』の田嶋編年で補足した。

図化した器種の内訳は、坏蓋は22点（第46図１～15・48～54）、坏身は33点（第46図16～47・55）、甕は２点（第47図８・９）、皿は１点（第46図56）、瓶・壺は８点（第47図１・６・７・10、第48図４～７）、高坏は４点（第47図２～５）、鉢は２点（第47図11、第48図８）、甕は６点（第47図

12 ～ 14、第 48 図１～３）、円面硯の１点（第 46 図 57）の合計 79 点である。

①坏蓋（第 46 図１～ 15・48 ～ 54）

坏蓋はつまみのあるもの（第 46 図 48 ～ 54）と、つまみの無いもの（第 46 図１～ 15）がある。坏蓋でも高台坏に伴うと思われるものはいずれもつまみが付くか、付くと思われるものである。丸く器高の高い天井部に、口縁端部が立って面をつくるもの（第 46 図 48 ～ 51）、やや低くなるもの（第 46 図 52）、器高は高いが天井部が平坦で、口縁内面に小さいかえりがあるもの（第 46 図 53）、そして器高が低く扁平なもの（第 46 図 54）の４タイプがある。最後の扁平なタイプは外面の天井部に「黒」または「田」にもう１字が加わる墨書の一部が残る。つまみの無い蓋には口縁端部が屈曲して段となるもの（第 46 図１～３）３点と、屈曲しないでそのまま口縁となるものがある。後者は口縁がやや開くもの（第 46 図４～６）と、口縁が直立するもの（第 46 図７～ 15）の２つのタイプがあり、口縁が直立するタイプは口径が小さくなる。

②坏身（第 46 図 16 ～ 47・55）

坏には、無台坏と有台坏がある。無台坏は口縁の立ち上がりが明確で、完全な平底になるものは少なく、丸味のある底部のものが多い。比較的直線的に立ち上がるもの（第 46 図 16 ～ 21）と、立ち上がりは明瞭ながら丸く大きく外反し全体に丸みのある器形となるもの（第 46 図 22 ～ 26）の、２タイプに分類できる。無台坏でヘラの線刻があるものはこの前者のタイプで、底部外面に「＋」または「×」印のヘラ描があるもの（第 46 図 47）、底部内面に「－」印のヘラ描があるもの（第 46 図 55）である。また、平底がやや明瞭なもの（第 46 図 27 ～ 29）は、口縁端部がやや内傾するのが特徴となっている。底部を欠く深い身の坏（第 46 図 30）は高坏の可能性もある。口径の小さい平底は「坏G」と分類されているもの（第 46 図 31・32）であろう。口縁にかえりがついて立ち上がる「坏H」とされるもの（第 46 図 33 ～ 36）は、集落遺跡での出土例が少なく、主に群集墳等に供献されている事例が多いものである。ただし若狭地域の群集墳でいくつか確認されている宝珠型のつまみを持つ坏蓋は、本遺跡では確認されていない。坏蓋には口縁部のみからの復元し図化しているものもあるので、存在していた可能性もある。しかし、いわゆる「坏H」に宝珠のつまみを持つ坏蓋が伴う事例は、敦賀も含めた若狭湾沿岸の遺跡、特に集落遺跡では極端に少ないとの指摘もある。また口縁が屈曲して段となる坏蓋に対する杯身には「坏H」とされるもの（第 46 図 34・35）が対応するとも考えられるが、若狭地域周辺での事例からは無台坏（例えば第 46 図 16 ～ 21 等）の可能性も考えられている。

有台坏は、貼り付けられた高台から丸みを持ってから立ち上がり直線的に開くもの（第 46 図 37・38・40・42 ～ 45 等）が多いが、やや丸みのある立ち上がりのもの（第 46 図 39・41）もある。全体に開きが浅い割には器高が高い。

③皿（第 46 図 56）

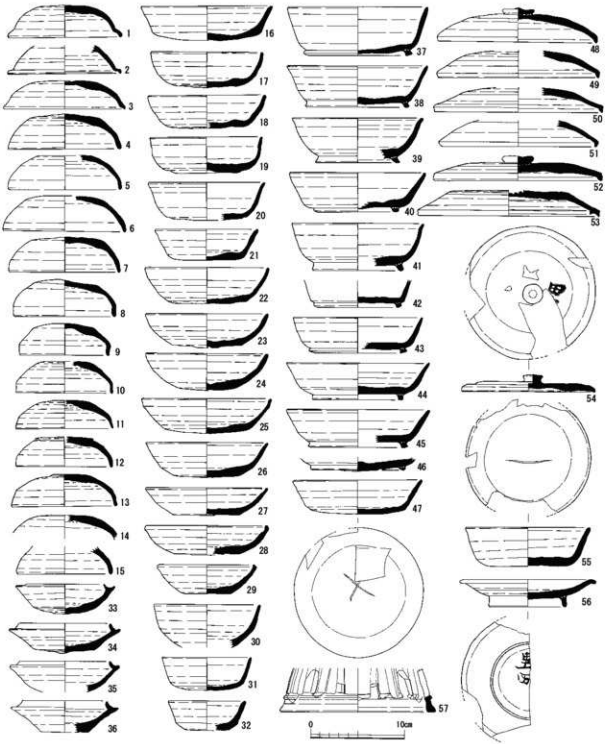
皿で図化できたのが１点ある（第 46 図 56）。高台が付くもので、底部外面の高台の内側に「黒田」の墨書が残る。

④甕（第 47 図８・９）

甕は口縁部を欠く頸部以下の胴部（第 47 図９）と、口径がやや大きいが、伸びる頸部に密なカキ目があることから甕の口縁と推定したもの（第 47 図８）の２点である。

⑤瓶・壺（第 47 図１・６・７・10、第 48 図４～７）

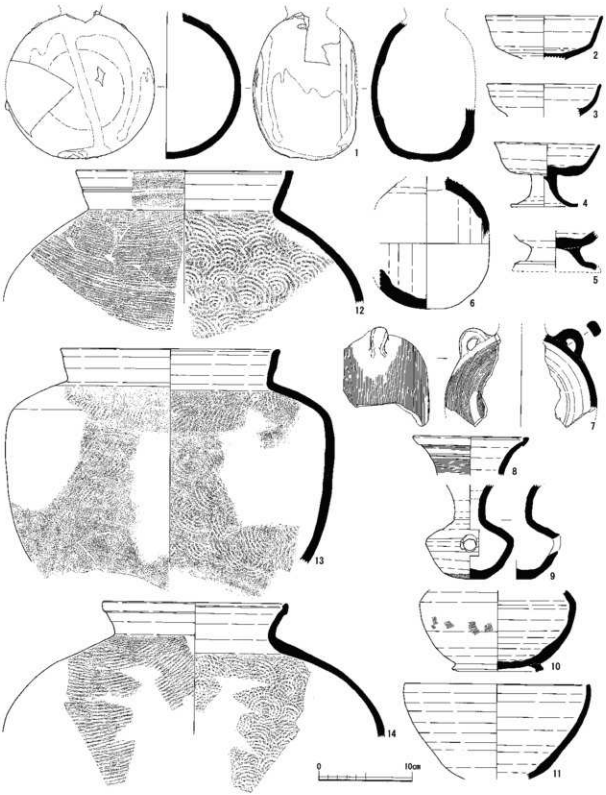
瓶類には提瓶と横瓶に平瓶がある。提瓶はいずれも口縁部を欠く、胴部のみの３点である。円環状の



第46図　遺物実測図５（縮尺1/4）

把手があるもの（第47図７）、把手が形骸化して小さなボタン状になったもの（第47図１）、破損のため把手の有無が不明でやや胴部の形状が球形に近いもの（第47図６）がある。横瓶は口縁部周辺のみの残りであるが、小さい口径に頸部も短く、胴部の開きが大きくなるもの（第48図４）である。有段で丸みのある口縁が特徴である。平瓶はいずれも口縁部を欠くもの（第48図５・６）であるが、全体に丸みのある胴部となりそうである。

壺は高台の付く胴部下半のみのもの（第47図10）と、口縁部と底部を欠く、胴部中ほどのもの（第

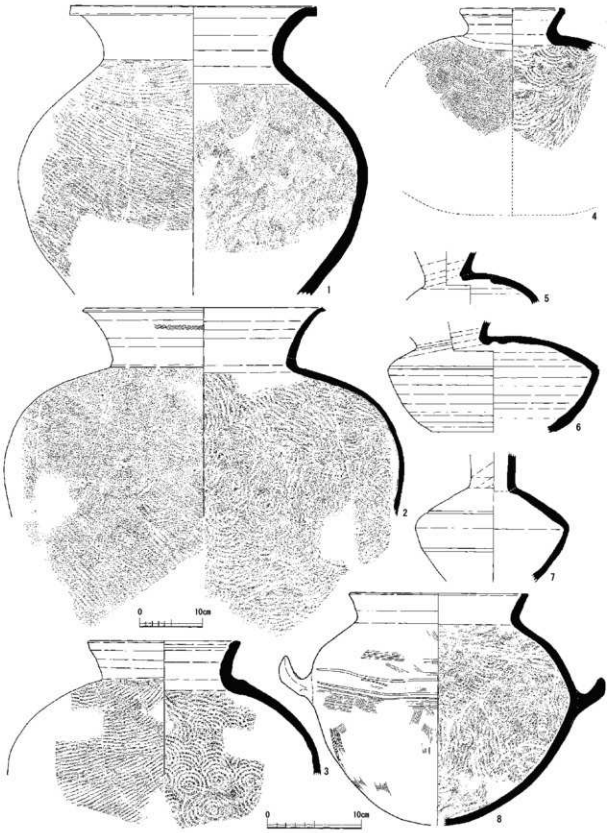


第47図　遺物実測図6（縮尺1/4）

48図7）である。いずれも同じように長頸壺と呼ばれるものであろう。

⑥高坏（第47図　2～5）

高坏は無台坏に脚が付くもので、完形に復元できたもの（第47図4）は、筒状に伸びた脚が「ハ」



第48図　遺物実測図7（縮尺　1・3～8：1/4、2：1/6）

の字状に開いて、端部となる。脚部分のみ残されたものには脚端部で一度段を作るようなもの（第47

図５）もある。この他に明らかな無台坏や、高坏として復元した先の個体（第 47 図４）との比較から、高坏の坏部と判断したもの（第 47 図２・３）が２点ある。

⑦鉢（第 47 図 11、第 48 図８）

鉢には底部を欠く鉄鉢に近い器形のもの（第 47 図 11）があるが、鉄鉢の特徴である口縁が内傾、または内湾せずにほぼ直立し、端部を平坦としている。このような器形の鉢は周辺での類例が見当たらないが、これを鉄鉢の器形として分類することはできないであろう。この他に甕のような器形に把手が付くもの（第 48 図８）がある。把手が付く以外は次に説明する甕にほぼ類似する器形と調整である。

⑧甕（第 47 図 12 ～ 14、第 48 図１～３）

甕はいずれも底部を欠いた６点を図化した。口縁部から胴部上半だけ図化した状態であるが、大きさ、形状ともに個体差が大きい。特に口縁部については、胴部に比して小さめで外に開き、口縁端部を丸くするもの（第 47 図 13、第 48 図３）、同じく口縁端部を押えて平坦とするもの（第 47 図 12）、そして外側に張り付けて有段にするもの（第 47 図 14）、大きく外反する口縁部に垂直な平坦面をつくるもの（第 48 図１）、斜めに平坦面をつくるもの（第 48 図２）等、個々に異なる。胴部も全体に丸みのあるもの（第 47 図 12・14、第 48 図１・３）と肩が張るもの（第 47 図 13）がある。胴部の調整も外面のタタキを一部ナデ消すもの（第 48 図２）、タタキの後カキ目で一部消すもの（第 47 図 14、第 48 図１）、全体に消すもの（第 47 図 12）、そしてタタキを全く消さないでおくもの（第 48 図３）があり、内面は当て具の青海波文をナデ消すもの（第 48 図１）は１点で、残りの５点はほぼ全体に残す。

⑨その他（第 46 図 57）

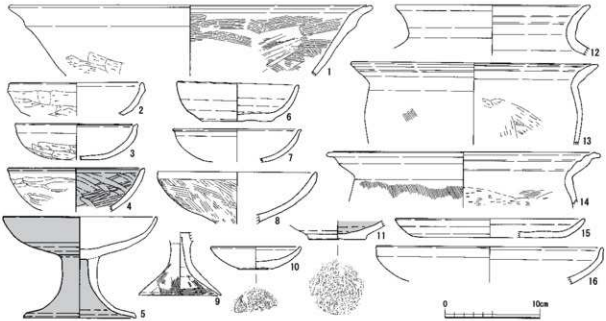
この他に特殊な器種として、透脚の円面硯がある（第 46 図 57）。「ハ」の字に開く脚端部のみの出土で、研面は残されていない。透部分の間隔が狭く、脚の数も多く復元されることから円面硯の分類では古いものであろう。

土師器（第 49・50 図）

須恵器と同時期の土師器は、須恵器で図化できたほどの点数は無い。製塩土器・移動式置竈を除けば、椀や高坏に煮沸具の甕等の須恵器と同時期と考えられるものから、時代が異なる可能性のものも含めても 16 点（第 49 図１～ 16）しかない。これは須恵器ほど土師器の遺存状況が良くなく、図化に耐えるまでに復元できるものが少ないこともあるが、出土する全体量も確かに少ないように感じられる。これらには弥生土器、もしくは古墳時代前半の古式土師器の可能性を残すものも３点（第 49 図８・９・16）あるが、SD ２で図化したように、明らかに弥生土器と考えられる器形ではなかった。なお、出土量が僅少であるため、ここで提示したい。

最初に高坏と考えられる３点について説明しておく。高坏の脚とされるもの（第 49 図９）は脚が単純に「ハ」の字に開き、弥生土器または古式土師器では一般的な器形となるものである。坏部の２点は、口縁端部をヨコナデ調整でつまみ上げる（第 49 図８）か、更に伸ばして立ち上げるもの（第 49 図 16）で、周辺の弥生土器の高坏には類例のないものである。前者は口径が 16.8 ㎝と小さく、後者は 24.0 ㎝とやや大きい。後者は胎土からは弥生土器の可能性があるものの、前者の口径が小さいものと脚部の９についても、古代の土器の調整では例外となるハケ調整であることが問題である。むしろ、古墳時代前期後半から中頃の土師器である可能性が最も高い。しかし、同時代の土器が明確ではないのでここで取り上げた。今後の検討では、古代の土師器でなくなる可能性が高いと考えられる。

古代の土師器についても、須恵器と同じく器種毎に概説する。



第49図　遺物実測図８（縮尺1/4）

①甕（第 49 図 12 ～ 14）

甕は頸部から丸く立ち上がる口縁のもの（第 49 図 12）と、口縁内面が波打つように段々となる青野型甕が２点（第 49 図 13・14）ある。前者の丸く立ち上がる口縁の内面にも弱い段々が僅かに残されているが、他の２点ほどは明確ではない。いずれも口縁部付近のみの図化で、胴部等全体が不明なため他の事例との比較は難しい。

②鉢（第 49 図１）

鉢は１点のみ（第 49 図１）の図化である。胴部から大きく開き、明確な頸部の屈曲がなく、そのまま外反する口縁となる。

③椀（第 49 図２～４・６・７）

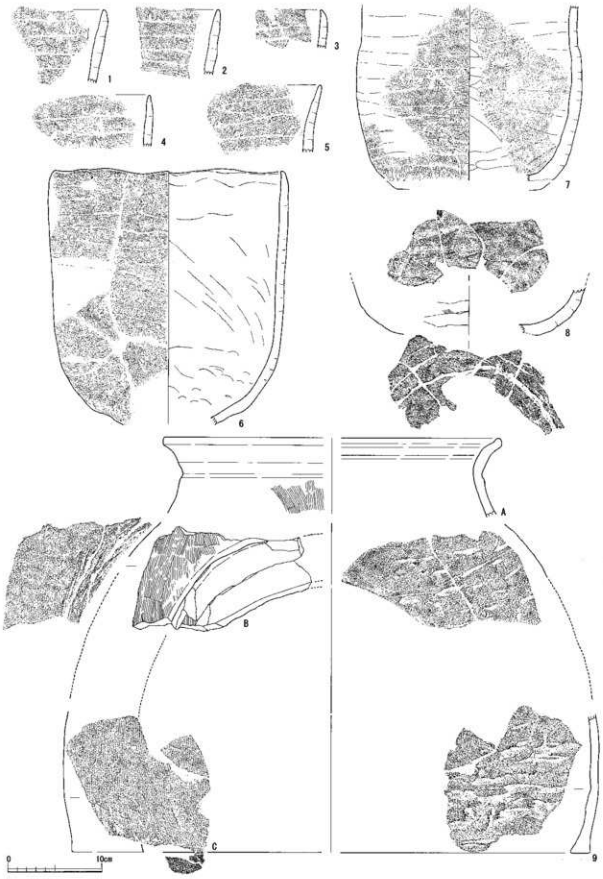
椀は５点ある。平底に復元したもの（第 49 図６）はロクロ成形である。底部が完全に残っていないため確実ではないが、丸底の底部となりそうなものは、底部をヘラ削りとするもの（第 49 図２・３）と、内外面をミガキ調整するもの（第 49 図４）の２種類ある。また、口縁の端部が小さく屈曲して外反するもの（第 49 図７）は、遺存の状況が良くないので調整は明確ではないが、後者のミガキ調整と考えられる。

④高坏（第 49 図５）

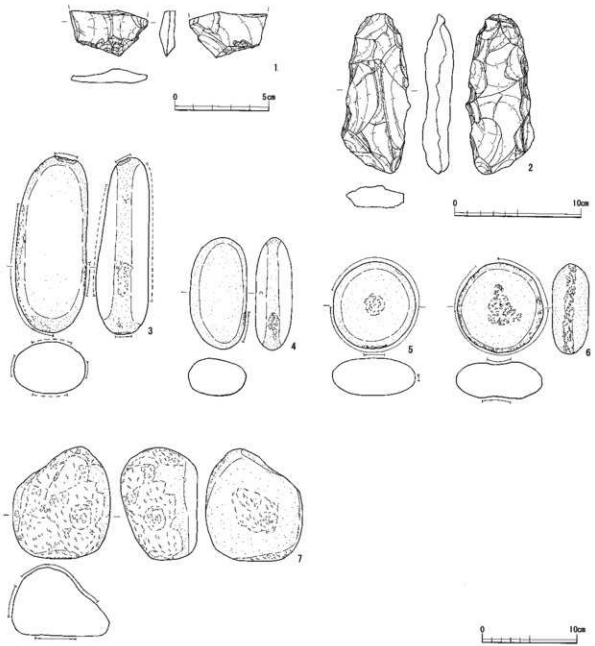
高坏は外面全面と脚部内面を黒色処理されたもの（第 49 図５）がある。椀と同じような丸い坏部から棒状に伸びた脚が外反する。

⑤製塩土器（第 50 図１～８）

本遺跡は海浜部からは山越えで４kmほど離れた内陸部に位置するが、製塩土器が一定量出土している。製塩土器は大量に出土する製塩遺跡でも器形がわかるまで復元できる個体は少ないが、本遺跡ではそれほど多くはない出土量ながらも、底部の中央を欠くだけの状態で復元できたものがある。ここでは特徴的な口縁部と、その底部のいくつかを図化した。口縁部は、いずれもその先端を先細りさせるものである。また、口縁端部が内傾するもの（第 50 図１・３・４）と、口縁部全体が外反するもの（第 50 図５）があるが、土器製作時の焼き歪みの可能性もある。最初に述べたように図上で底部の一部を欠くまでに



第50図　遺物実測図９（縮尺1/4）



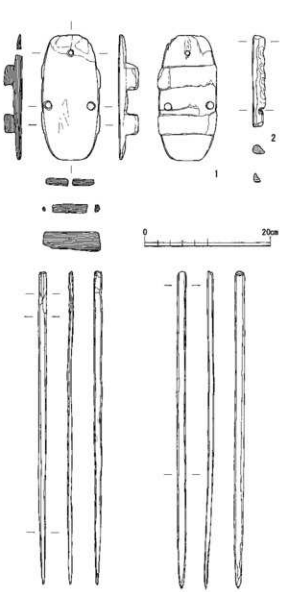
第51図　遺物実測図10（縮尺　1：1/2、2：1/3、3～7：1/4）

復元したもの（第50図6）は、完全な平底ではないが、自立が可能な安定したような丸底から直立して胴部となり、そのままロ縁となる。口縁端部は先細りする。底部のみ復元したもの（第50図8）からも、明らかに平底ではなく、安定した丸底であることが判断できる。口縁部も底部の中央も欠き、胴部のみの復元のもの（第50図7）も、胴部から底部へ変化する部分が残り、こちらからも同様の底部であることがうかがえる。

ここで図化した土器の特徴はやや厚手の器壁ではあるが、輪積みされる粘土帯の幅が、これまで確認されているものより狭く2cm前後である。また丸底から平底へ移行する状況がうかがえる。

⑥移動式置竈（第50図9）

土製品として移動式の置竈の各部位が出土している。この中で3点の破片が胎土や色調が類似することから同一個体と判断し、1個体として復元した。竈の口縁部分（第50図9A）は残存部分が少ないた



第52図　遺物実測図11
（縮尺1・2：1/6、3・4：1/10）

め口径は確定できないが、35 cm前後になると思われる。口縁内面が段状を呈するもので、いわゆる青野型甕に伴うものである。底が貼り付く窓の上部（第50図9B）は、その窓の部分が直立したところから湾曲して、天井に近くなる部分と考えられる。この庇の存在で、移動式置竈であると判断した。竈本体の裾の部分（第50図9C）は端部を厚くし、幅広の接地面を持つ。竈本体は外面をタテハケ、内面に輪積み痕を明瞭に残すものの、ヨコ方向のケズリを粗く行う。なお、この復元案については、小浜市木崎遺跡で出土しているものを参考にした。

⑦その他（第49図10・11・15）

その他として、糸切りの底部の皿（第49図10）、生焼けの須恵器であろう皿（第49図15）等がある。また、糸切りの底部のみであるが、SD 2で出土した古代の須恵器と同じような時期となる土師器の椀と考えられるもの（第49図11）がある。

石器（第51図）

打製石斧1点、二次加工のある剥片2点、磨石類6点、石皿類2点が出土している。いずれも縄文・弥生時代の所産と考えられるが、個々の時期比定は困難である。

第51図1は二次加工のある剥片である。欠損しており元来の形状は不明。板状剥片の縁辺に階段状の細かい剥離痕がある。第51図2は短冊形の打製石斧である。刃部は偏刃をなし、刃縁は摩耗している。側辺は片側（左正面図の左側）のみ基部近くまで摩耗している。第51図3～7は磨石類である。3を除いて明確な磨痕は認められないが、いずれも主面は摩耗している。3・4は棒状礫を利用したもので、端部や端部寄りの側辺に敲打痕を形成する。5・6は扁平な円礫を利用したもので、ほぼ全周にわたって敲打痕が認められる。主面中央部にも敲打痕があり、6では浅い凹みを形成する。7は歪な円礫を利用したもので、ほぼ全面に敲打痕が認められ、平坦面では中央部に浅い凹みを形成する。

木製品（第52図）

第52図1は、連歯式の下駄である。平面形は細長い撥形を呈し、鼻緒を通す径約1.1～1.5 cmの円孔（壺）を設ける。前壺は前歯と器体上端の間の、器体中軸線上に設ける。後壺は後歯よりも前に位置し、後歯に接して設ける。前壺の周囲は、履き込んで擦り減ったために浅く凹む。上端の左隅から右側縁に

かけて凹んでおり、その形状から推定すると右足に履かれていた下駄と考えられる。

第52図2は、火錐臼である。横断面が略三角形を呈し、器表面が摩耗しているため明確ではないが右側面の4箇所に径約1.5㎝をはかる炭化した凹みが遺存する。

第52図3・4は、横断面が楕円形もしくは隅丸長方形を呈する棒材であり、下端を削って鋭く仕上げる。杭として使用したものと推定される。

SD 2出土遺物（第53～75図）

縄文土器および弥生時代前・中期の土器（第53～56図）

5・6区の下層・最下層を中心にまとまって出土した。縄文時代晩期後葉に位置付けられる土器が主であるが、一部弥生時代前期・中期にまで下るものも含まれる。弥生土器に含まれる土器については、後述する弥生時代の中心となる後期の土器群とは時間的に隔絶し、かつ縄文時代晩期末との区分が不明確な資料も存在するため、関連性を考慮してここで提示して概説する。出土土器の大部分は小破片だが、器形を復元できた個体も数点ある。口縁部および有文の破片を中心に図示し、条痕調整のみの資料を含む無文の体部破片については、遺存状況の良好なものや特徴的なものを抽出して掲載した。

第53図、第54図1～12は突帯文土器ないしその系譜で捉えられるものである。大半は深鉢と考えられるが、口径の小さい口縁部（第53図22）は壺の可能性もある。

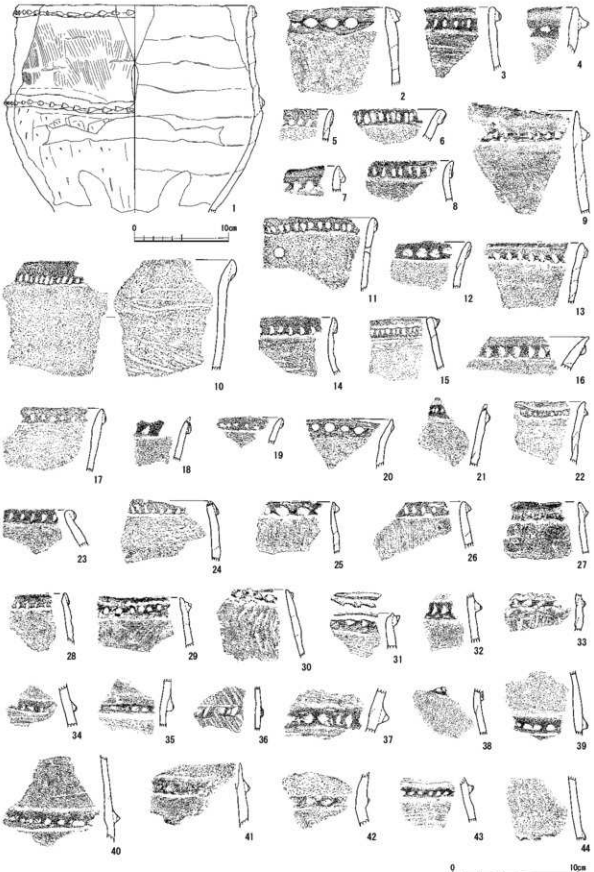
第53図は突帯に刻目や刺突を施すもので、1や2等のように断面三角形や半円形をなす突帯を貼り付け、ヘラ状工具でD字やO字の刻みを施すものと、10や11等のように突帯が低平かつ幅広のため肥厚口縁状を呈し、棒状工具や半截竹管状工具による刺突列を持つものがある。前者は1や胴部片（32～44）の存在から二条突帯となる可能性が高く、口縁端部の処理等も含め近畿地方の編年と対比すれば、突帯文土器の後半に位置づけられる。頭部外面に板状工具による縦位の擦痕を持つ例が多い。一方、後者は一条突帯が主となるようで、頭部外面は平滑なナデ調整である。内面もナデ調整が多いが、10のような条痕調整もある。これらの類例は、小浜市丸山河床遺跡や府中石田遺跡、京都府舞鶴市浦入遺跡等で出土しており、突帯文系土器の最末期と想定されている（伊藤2011）。

第54図1～12は無刻目の突帯を施すもので、1・2・4・6のように、口縁部に高く明瞭な断面三角形の突帯を持つ例が目立つ。1・2は口縁端部をつまんで外側に引き伸ばすように整形している。内外面はナデ調整を施しており、4の外面には先行する縦位条痕が確認できる。

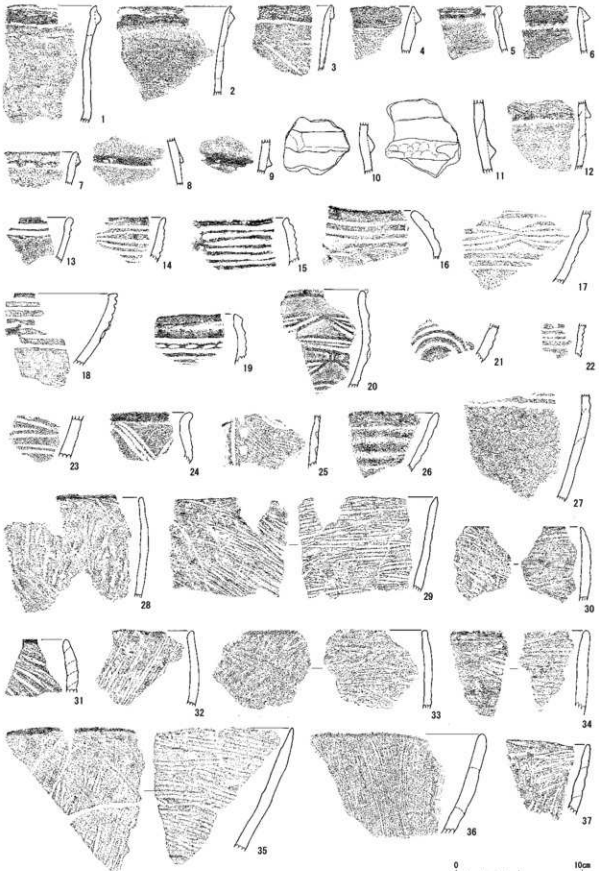
第54図13～27は沈線や浮線文で文様を描出する土器である。13は深鉢の口縁部で、二条の沈線を密接してめぐらす。14～17は平行沈線間に上下対向する三角形の陰刻を施して工字文状とする浅鉢で、陰刻に挟まれたレンズ状の陸部には沈線を充填する。嶺北地域で多くみられる広義の浮線文土器であり、18や19も同類であろう。一方、20は陽刻によって文様を描出した狭義の浮線文土器である。頭部に幅広の無文部、外反する口縁部にはいわゆる口外帯を有す。胴部文様は、上部が平らな凸レンズ状の浮文部を横位に連結し、上下2段で構成する。更に、その下位には同心円文あるいは渦巻文を配している。21は同一個体の胴部片である。

第54図28～37、第55図は無文土器もしくは無文部の破片で、多くに条痕調整が認められる。外面の条痕は、細く不揃いな縦位・斜位のものが多いが。口縁部内面では、二枚貝による横位条痕が目立つ（第54図29・30・33～35）。外面に縦位条痕を施した後、口縁部に横位や斜位のナデを施すもの（第55図1・9・10）もある。なお、縦位の羽状条痕を持つ例（第55図27）は、新相を呈する。

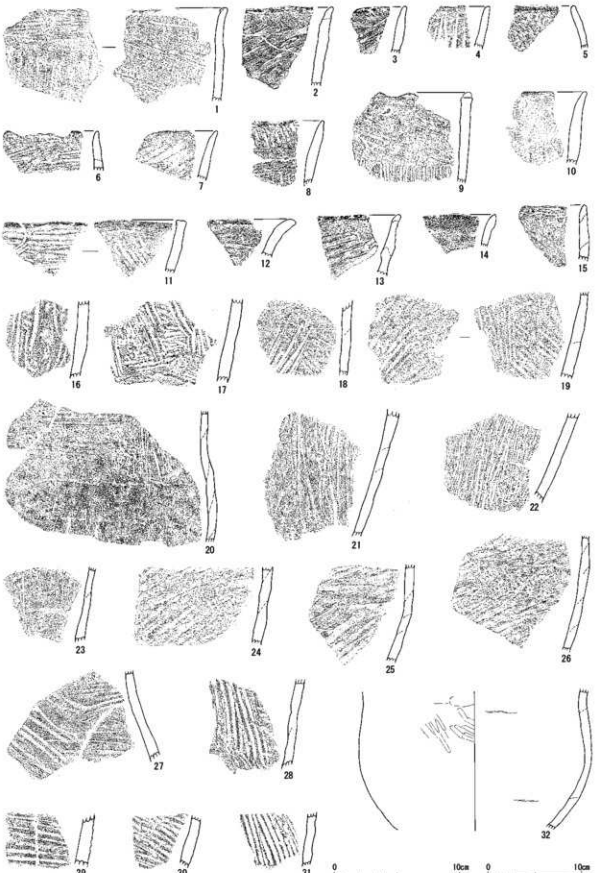
第56図1～6は同一個体とみられる壺形土器である。口縁部に太い突帯を貼り付け、大きな円形の



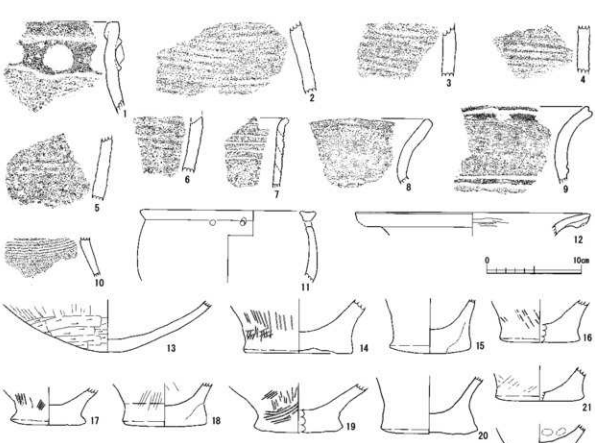
第53図　遺物実測図12（縮尺　1：1/4、2～44：1/3）



第54図　遺物実測図13（縮尺1/3）



第55図　遺物実測図14（縮尺　1～31：1/3、32：1/4）



第56図　遺物実測図15（縮尺　1～11・13～26：1/3、12：1/4）

押圧を加える。口縁端部は面取りがなされ、胴部には二枚貝による横位条痕が施されている。これらの特徴は東海地方で設定されている樫王式に類似する。第55図11も同類であろう。

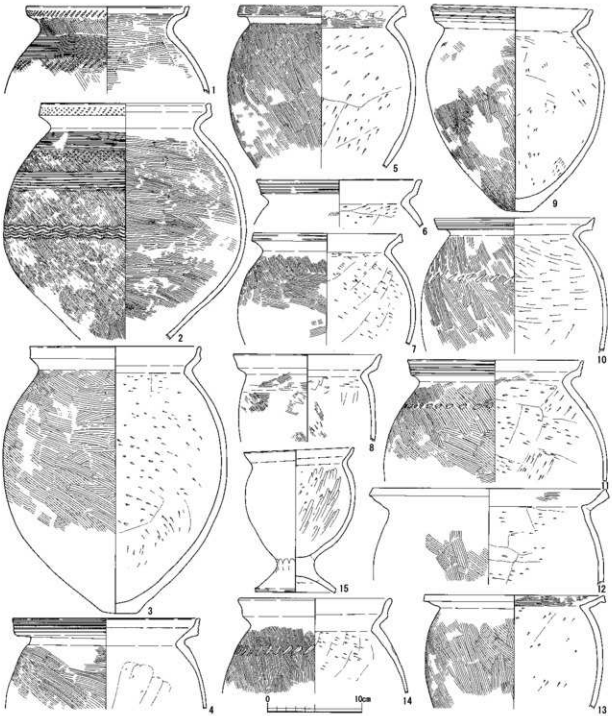
第56図7～12は弥生時代前～中期の遠賀川系および櫛描文系土器である。7は頸部に4条の沈線をめぐらす甕。9は口縁端部に沈線をもつ壺で、頸部は段を形成し、段の上位に沈線を一条めぐらす。

第56図13～26は底部破片である。丸底が1点のみ認められる（13）。底面はケズリ調整であるが、胴部側には縦位条痕が認められる。平底のものにも縦位や斜位の条痕が多く認められる。底側部の突出した例もある（17・19）。

弥生時代後期から古墳時代前期初頭の土器（第57～63図）

SD 2から出土した弥生土器は、後期が中心である。一部古墳時代前期初頭にまで降る可能性があるものもあるが、それ以降の古墳時代の土器は無いようである。

弥生時代後期の土器については、出土量が多量であるため器形がある程度復元できたものを主体に図化した。内訳は、甕形土器（以下、「甕」と省略）は24点（第57・58図）、壺形土器（以下、「壺」と省略）は41点（第59・60図）、高坏形土器（以下、「高坏」と省略）は27点（第61図、第63図15）、器台形土器（以下、「器台」と省略）は13点（第63図1～8・16～19・21）、台付も含めた鉢形土器（以下、「鉢」と省略）は38点（第62図、第63図9～14）、蓋形土器（以下、「蓋」と省略）は12点（第

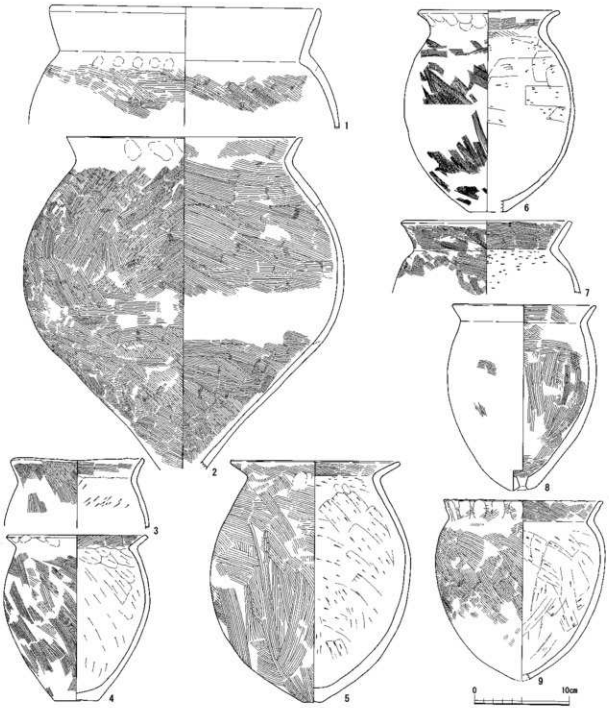


第57図　遺物実測図16（縮尺1/4）

63図23～34)、そして、器種は明確にできなかったが、脚台として2点（第63図20・22）の合計157点について図化した。以下、器種毎に概説する。

①甕（第57・58図）

甕としたものは22点（第57・58図）ある。弥生時代後期の若狭湾を中心とする、北陸地方から近畿地方北部にかけての日本海沿岸では、口縁が立ち上がる有段口縁が主体となる。口縁から底部まで復元できた事例から全体の器形を概観すると、器高は口径の1.2倍から1.5倍程度の倒卵形を呈する。胴部の最大径は中ほどからやや上位に位置し、口径よりも若干大きくなる。底部は自立が何とか可能なほど



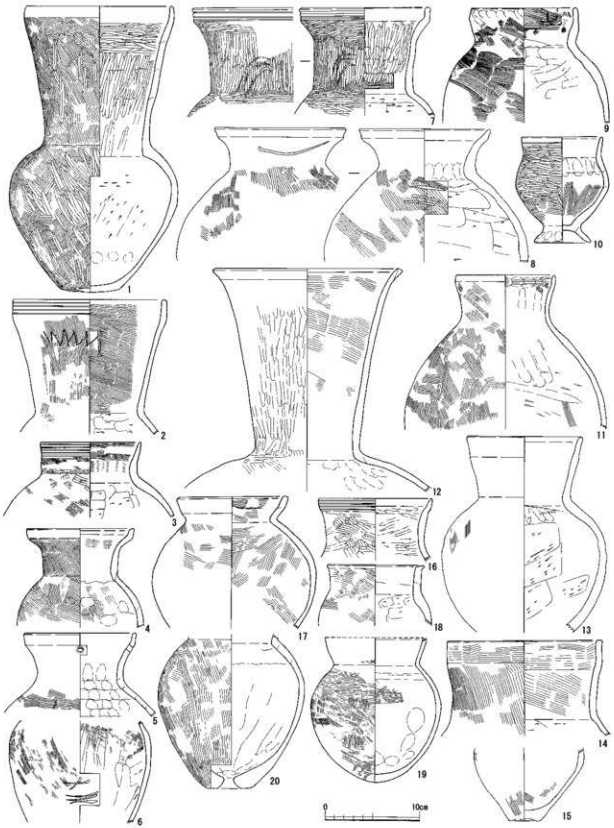
第58図　遺物実測図17（縮尺1/4）

に胴部に比して小さめである。胴部外面はタテからナナメのハケ調整、内面はケズリ調整が基本である。口縁がまだ立ち上がらずに面だけをつくるもの（第57図7・12・13）から、上端を摘み上げて僅かに立ち上げるもの（第57図10）、そして明確に口縁が有段となるもの（第57図3・4・6・8・9・11・14）まで、有段口縁の変化過程を示している。つまり、有段口縁の形状の違いから、出土土器には時間幅があると考えられる。口縁への施文には擬凹線があるもの（第57図4・6・7・9・10・11）と擬凹線が無くヨコナデ調整で無文のもの（第57図3・8・12・13・14）を基本とするが、1点のみ短い幅でヨコハケをめぐらせるもの（第57図5）がある。無文の口縁では、立ち上がった口縁の中ほどを強く押

さえて口縁を伸ばすのが特徴である。また、図化した以外の有段口縁も、ほとんどが立ち上がった口縁の先端を丸く収めている。北陸地方の弥生時代終末期の標式である月影式は、同じ有段口縁ながらも口縁の先端が外反もしくは先細りする特徴を有しており、本遺跡の特徴とは様相を異にしている。本遺跡のような特徴は西隣の丹後地域の特徴に似ており、このことから越前地域や更に北陸地方全体の影響よりも、丹後地域の影響を受けているものと思われる。口縁以外への施文は胴部上半にヘラ描の刺突列点文をめぐらせるもの（第 57 図 10・11・14）がある。また、有段口縁と同じように口縁部を上へ立ち上げる受口状口縁の甕が２点（第 57 図１・２）ある。若狭地域の南に接する滋賀県の近江地域で主体となる甕である。口縁部の立ち上った面に刺突列点文をめぐらし、頸部から胴部上半にかけては数段の櫛描直線文と口縁と同様の刺突列点文を加える。底部付近まで復元したもの（第 57 図２）では、胴部中ほどの最大径の位置に櫛描波状文もめぐらせる。胴部の調整は外面をナナメの、内面はヨコのハケ調整である。本来、北陸地方西端の若狭地域でも、弥生時代後期の口縁の形状は有段口縁が基本となっているが、「く」の字口縁の甕も多く復元できた。口縁の形状を「く」の字として一括りにしてもその形状には大きな変化がある。その最大の特徴である口縁から胴部の間にある頸部の屈曲も、明確に「く」の字に屈曲するもの（第 58 図１・４・５・７・９）が主体となるが、屈曲がややあまいもの（第 58 図２・３・８）や、丸い屈曲のもの（第 58 図６）等がある。また、この屈曲の形状に一部関係するかのように、口縁の開き具合も小さく垂直に近いもの（第 58 図１～３・８）がある。更にその口縁部の調整もハケ調整のもの（第 58 図３・５・７）やヨコナデ調整だけのもの（第 58 図１）、またはヨコナデ調整かハケ調整ののち指で押さえるもの（第 58 図４・６・９）まである。胴部の調整は９個体のうち、外面はハケ調整、内面はケズリ調整のものが６点(第 58 図３～７・９)、３点が外面と同じくハケ調整のもの(第 58 図１・２・８）である。底部は有段口縁と同じ、自立が可能か不可能かのぎりぎりのもの（第 58 図５・９）が一般的であると考えられているが、安定した平底（第 58 図４）や、底部に穿孔がある有孔のもの（第 58 図８）もある。つまり、単純な口縁形状の「く」の字甕でも、器形や調整において差異があり、個体差が認められる。これは越前地域の事例であるが、集落遺跡出土の甕の主体が「く」の字であった鯖江市長泉寺遺跡でも、同様の状況が確認されている。また平底を基本とするが、台付甕も１点復元している(第 57 図 15)。この台付甕は口径が 11.7 ㎝、器高も 15.4 ㎝と、図化できた甕の中では極端に小さい。口縁の形状も単純な「く」の字ではなく、やや有段口縁を意図したように内湾する。内面の調整もケズリではなくミガキ調整に近い。台付甕そのものが若狭地域はもちろん、北陸地方でも甕では数が少なく、珍しいものである。

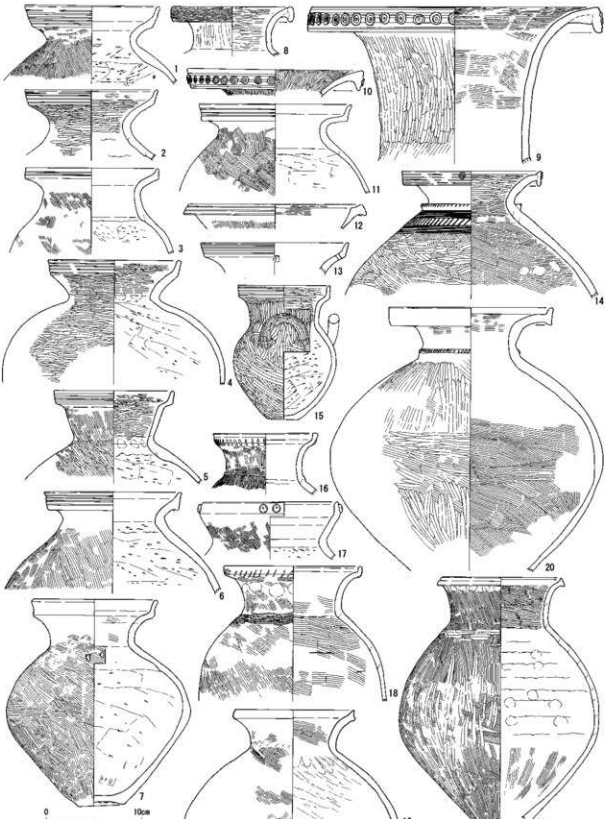
②壺（第 59・60 図）

壺は、口縁が頸部から直立してそのまま口縁端部となるものと、有段口縁を呈するものの２つのタイプに分類できるが、甕以上に個体差が大きい。前者には頸が長くなる長頸壺と頸部からそのまま口縁端部となる短頸のもの、またその中間的なものがある。短頸の壺は、内湾する口縁をその特徴として具える（第 59 図９・11）が、直立した口縁端部の上端面を押えて面をつくるもの（第 59 図 18）が１点図化している。長頸でも有段口縁となるもの（第 59 図４・７・８）は、北陸地方南西部でも越前地域に多く見られる。なお、このうちの２点にはヘラ描の記号文がある。１点は、弧を上にしたヘラ描の３重弧線を頸部の二方向に記すもの（第 59 図７）である。もう１点は、弧を下にしたヘラ描の弧線を頸部に、その反対の胴部上半に縦位の直線に３本の平行直線を重ねるヘラ描を記すもの（第 59 図８）である。畿内では有段の口縁ではなく、単純口縁の壺である長頸壺の頸部に記されるものが多いが、北陸地方では



第59図　遺物実測図18（縮尺1/4）

有段口縁となるものによく見られる。また口縁の有段が明確ではなく、有段口縁の特徴である擬凹線を施文するだけのもの（第59図2・3・16）や、小さく立ち上げて無文のもの（第59図4・5・8・14）、



第60図　遺物実測図19（縮尺1/4）

口縁部のヨコナデ調整で小さな屈曲の面をつくるもの（第59図1・9・11・13）がある。これらの壺は胴部が図化したものから判断すると、長胴となるもの（第59図6・15・20）が多い。また、胴部下半に

３本の横位のヘラ描が並ぶもの（第59図６）もある。底部は、穿孔があるもの（第59図20）は例外と考えられるが、基本的には小さいながらも平底になるもの（第59図15）と考えられる。

短頸の壺に脚台が付くもの（第59図10）は、他の壺より小さく、胴部外面をヨコミガキとするもので、こちらも珍しいタイプであろう。

有段口縁としたものは頸部の長さは様々であるが、屈曲は明瞭である。有段口縁にも擬凹線のあるもの（第60図１～６・11～15）と、無文のもの（第60図７・20）、小さくつまみ上げた無文の有段口縁に２個１対の円形浮文を四方向に貼り付けるもの（第60図17）がある。無文の有段口縁は中型であり、頸部に小さな盛り上がりの突帯をめぐらせる（第60図20）。このなかには口縁部の立ち上がりに孔をあけ、蓋とセットになると思われるもの（第60図13）や、胴部上半に把手を横位につけるもの（第60図15）もある。また有段口縁であるが、口縁端部に平坦面をつくるもの（第60図16・18）は、近江地域の受口状口縁の影響で、立ち上がる口縁の下端に櫛描やヘラ描の刺突列点文を加える。２点とも頸部に櫛描直線文をめぐらせ、受口状口縁の甕に類似する。明確な有段口縁にはならないで、口縁端部を僅かに上下に拡張するものも２点ある（第60図19・21）。

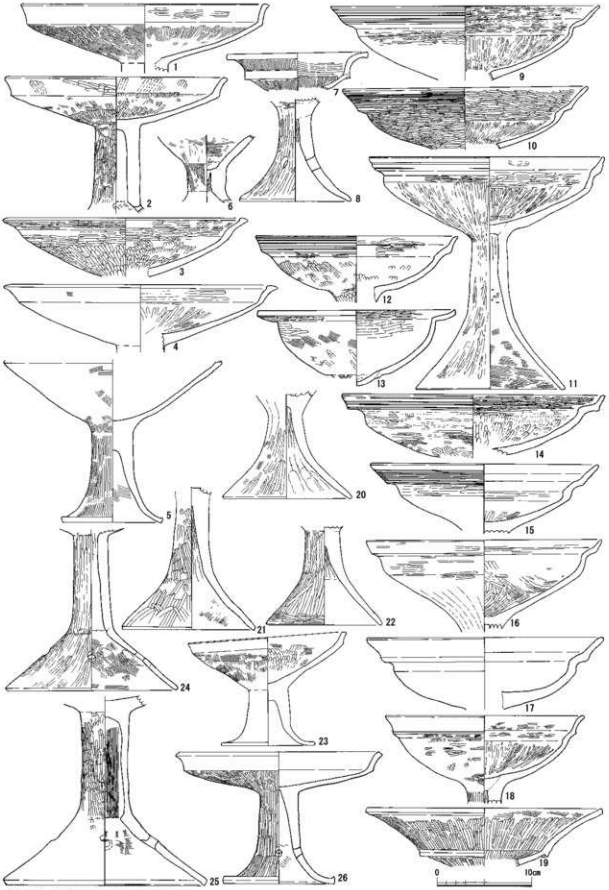
頸部が長く伸びる大型のもの（第60図９）は垂下する口縁に擬凹線をめぐらせ、円形浮文を全面に貼り付ける。この大型の壺は胎土が他の土器と明らかに異なり、大阪府の生駒山西麓産のものと考えられる。大型の壺には、前者のように口縁が垂下しないで、そのまま小さく開いて口縁端部となるもの（第59図12）もある。残存する部位から判断して、最大径が胴部上半になると思われる。

口径がやや小さい同じような口縁には、円形浮文を全面に貼り付けるもの（第60図10）や、櫛描波状文をめぐらせるもの（第60図８）もある。口縁を垂下するが頸部が長くならないもの（第60図14）はその垂下させた口縁に擬凹線を施し、一部に円形浮文を貼り付ける。頸部に刻みを加えた突帯をめぐらせ、その下に櫛描直線文、櫛描刺突列点文、更に櫛描直線文と密に施文する。東海地方から近江地域に類例の多いタイプの壺である。長胴の胴部が主体となるなかで、底部は無いが丸い胴部から屈曲した頸部がすぐに屈曲して内湾する口縁部となる壺（第59図17）と、丸底のもの（第59図19）は、その特徴から弥生時代に属するものではなく、古墳時代にまで下る可能性が高い。

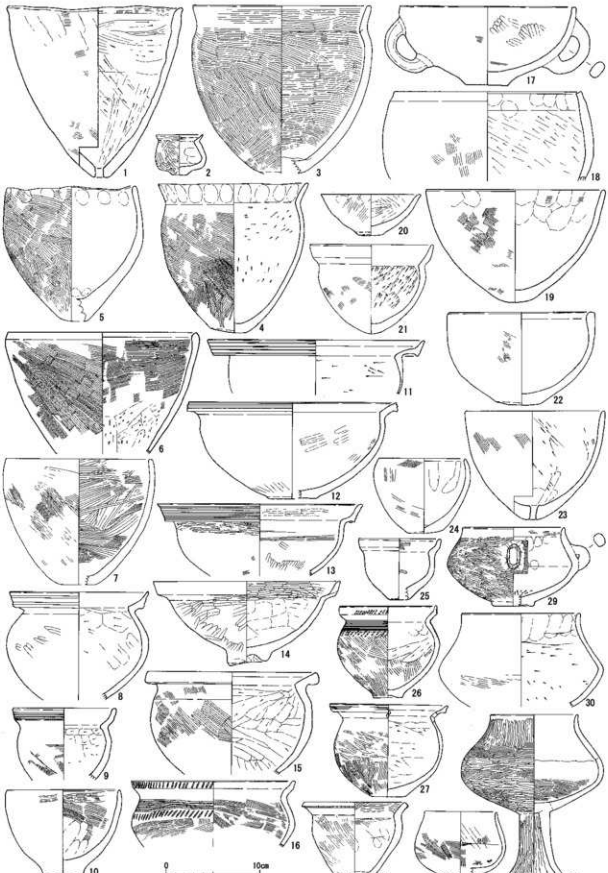
有段口縁の更に内側に平坦面のあるもの（第60図12）は、このような口縁の形状の壺は無く、有段口縁でも鉢となる可能性がある。

③高坏（第61図、第63図15）

高坏は坏部の口縁が直線的に立ち上がるものと、有段口縁となるものの、大きく２種類である。口縁がより直立に近く立ち上がるもの（第61図１・２・23・26）は、口縁端部に平坦面をつくる。外に開くものは、口縁端部の内面が肥厚するもの（第61図３）と、内外両面に肥厚するもの（第61図４）がある。有段口縁には甕・壺・鉢と同じく擬凹線のある有文のもの（第61図９～12・14・15）と、無文のもの（第61図16～18）、更に同じ坏部の形状で口縁が有段にならずに外に開くもの（第61図13）の３つに分類できる。口径が15㎝と小さいが、高坏と考えられるもの（第61図７）、坏部の立ち上がりに突帯をめぐらし、口縁が大きく開くもの（第61図19）等は１点ずつ図化できた。高坏の脚は、棒状に伸びた脚がそのまま「ハ」の字に外反するもの（第61図５・８・11・20～26）ばかりで、有段になるものは図化できなかった。ただし、脚の開きが大きいもの（第61図11・20～22・24・25）、太い棒状から小さく開くもの（第61図23）、開いた脚端部が上へ小さくはねて面をつくるもの（第61図26）等、脚部の形状に幾つか変化がある。残存状況が異なるので全てで確認できていないが、脚には円形の孔が



第61図　遺物実測図20（縮尺1/4）



第62図　遺物実測図21（縮尺1/4）

あるのが一般的で、確認できたものは四方向のもの（第 61 図 24 ～ 26）が多く、三方向のものは１点である（第 61 図８）。最も出土の多い中型の高坏の孔があく位置は越前地域の高坏と比べると、より下に位置するきらいがある。越前地域では棒状の脚から端部へ開く屈曲部付近に設けるものが多いが、若狭地域の事例は屈曲部より下の位置に設けるものが多い（第 61 図 24・25）。また、脚の棒状の長さも越前地域よりはやや長めで器高が高くなる。小型の高坏（第 63 図 15）は、台付鉢にも似るが、脚が長く伸びることから高坏とした。鉢と同じように椀状の坏部を呈する。

④器台（第 63 図１～８・16 ～ 19・21）

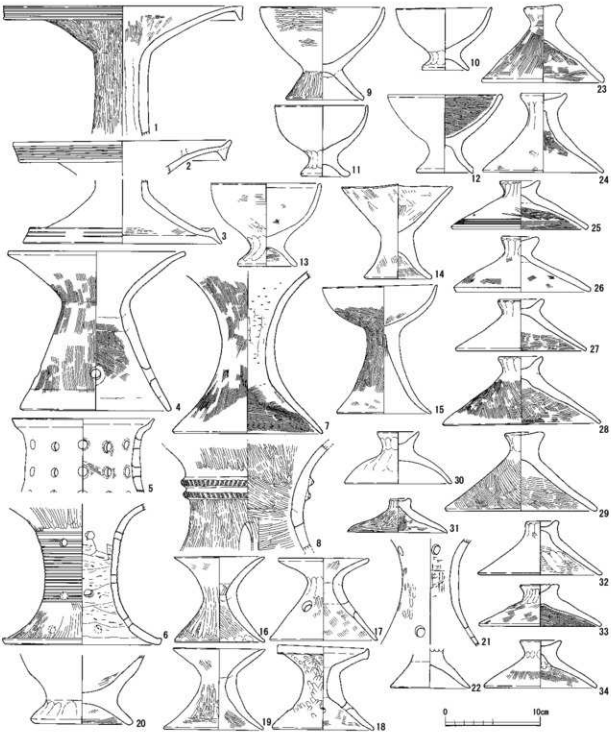
器台は口縁帯が有段になるか、垂下するものが一般的な器形と考えられているが、前者は脚となる部分が、後者についても受け部のみで完形に復元したものはない。受け部は大きく開いた口縁端部が垂下するもの（第 63 図１）と、有段となった口縁部に垂下する部分を加えてより口縁帯を幅広くしたもの（第 63 図２）の２点のみで、口縁帯に擬凹線を施文する。ただし後者には受け部の内面中央に粘土の剥離の痕跡があり、装飾器台となる。その脚の部分と考えられるもの（第 63 図３）は、脚裾の有段にも擬凹線が施文される。器台で唯一完形に図化できたもの（第 63 図４）は、大きく開いた口縁が有段にも垂下もせずにそのまま端部となるもので、受け部との境となる屈曲部も大きく、脚部もそこから脚端部へと直線的に伸びる。同じように脚が有段とならないで、筒部以下が復元したもの（第 63 図７）は、これまでの事例から、受け部が有段になるものと推定される。太い筒部に 20 条以上のヘラ描直線文をめぐらすもの（第 63 図６）も、受け部の口縁部を欠く。その太い筒部の上下に２段、脚部に１段の円孔を入れる。受け部も脚部もなく、その間の筒部のみの復元が２点ある。１点はその上下に入れ子状に円孔があるもの（第 63 図 21）で、脚部は有段とならないが、受け部は有段になると思われる。もう１点は、器台ではなく他の器種となる可能性もあるもの（第 63 図８）で、刺突列点文による刻みを加えた２条の突帯の下に、縦長の楕円形の透かしの一部が残る。小型の器台は４点復元している。上下が同じように開くもの（第 63 図 16・19）、脚部より受け部が小さくなるもの（第 63 図 17）、受け部の口縁端部を小さく立ち上げ面をつくるもの（第 63 図 18）がある。

器台でも、北陸地方から近畿地方北部の日本海側に特有な装飾器台の受け部の口縁部がある（第 63 図５）。立ち上がりに径 1.0 ㎝弱の円孔を３段にめぐらせる。

⑤鉢（第 62 図、第 63 図９～ 14）

鉢は底部からそのまま立ち上がり口縁となる砲弾型の器形の直口鉢と、有段口縁が主体である。直口鉢は、底部を穿孔した有孔鉢とも呼ばれるものが越前地域等の事例では鉢の基本器種であると考えられるが、明らかに底部に孔が残るのは２点（第 62 図１・23）しか図化できなかった。その他は底部を欠損するもの（第 62 図３・５・６・７）、小さいながらも平底を呈するもの（第 62 図４・10・22・24）である。同じような直口鉢の器形がある越前地域では、口縁部に面取り等がなされないために平滑にならず、「雑なつくり」であるもの（第 62 図１・５）が多いとの認識がある。今回図化したものには口縁を僅かではあるが屈曲させたり（第 62 図３・４）、指押さえ等で整えたりするもの（第 62 図 18・19）があり、直口鉢として「雑なつくり」として定型化していないものである。このような状況は曽根田遺跡県道調査区で先に報告した鉢でも同じで、若狭地域では孔をあけない鉢が主体であり、直口の有孔鉢が定型化していない丹後地域の様相に近い可能性がある。

口縁が直口ではなく有段等立ち上がるものは、有段口縁で擬凹線を施文するものと、無文のもの、または有段口縁とは呼ばずに受口状口縁と呼ぶべきものがあり、甕と同じ分類となる。口縁の立ち上がり



第63図　遺物実測図22（縮尺1/4）

が無いもの（第62図12・15・28）は端部に平坦面つくり、立ち上がりの屈曲が明瞭なもの（第62図8・11・13・27）には擬凹線が施文されるものが多い。立ち上がりの屈曲が明瞭では無いものには、比較的小型の3点（第62図9・21・25）がある。受口状口縁を呈するもの（第62図16・26）は、口縁に櫛描刺突列点文、頸部から胴部上半に櫛描直線文・櫛描刺突列点文を施しており、甕の施文と同じとなる。ここでは鉢として分類したが、ミガキ調整を基本とし、口縁がすぼまる無頸壺とも呼べる個体がある。これには台が付くもの（第62図31・32）と平底のもの（第62図29）がある。把手が付くものはタテに

つく（第62図29）。また、これとは異なるが、完全に口縁が開いた鉢にも大きな把手がつくものもある（第62図17）。また有段の頸部に孔があり、蓋が付くと判断されるもの（第63図27）や、このタイプのミニチュアと考えられるもの（第62図２）もある。

鉢でも台付鉢となるものは６点が完形に図化した。いずれも椀状の坏部に脚台がつくもの（第63図９～13）と、坏部が椀状ではなく直線に開くもの（第63図14）の２タイプがある。脚との接合に明瞭な指押さえを残すものが３点ある（第63図10・11・13）。小さな脚（第63図22）も、台付鉢の脚の可能性がある。また脚の大きさ等が異なるが、やや大型となる脚台と想定されるもの（第63図20）も、台付鉢と考えられる。

⑥蓋（第63図23～34）

蓋はつまみの部分も指押さえを残す等、飾りのないものである。「ハ」の字に覆い部分が開く形を基本とする（第63図23～29・31～34）が、台付鉢を反転させた椀状の覆いとなるものが１点（第63図30）ある。

須恵器（第64～66図）

坏蓋は８点（第64図１～５、第65図１・２・４）、杯身は23点（第64図６～11・24～33・50～53、第65図３・７・11）、椀は20点（第64図34～41・44～49・54～57、第65図６・９）、皿は26点（第64図12～23・42・43、第65図５・８・10・12）、壺・瓶類は７点（第66図４～６・８・10～12）、甕は３点（第66図１～３）に、鏡・高坏・刻書土器の各１点（第65図13、第66図７・９）ずつ、合計82点を図化した。以下、器種毎に概説するが、墨書土器等については改めてに一項設けて説明する。

①坏蓋（第64図１～５、第65図１・２・４）

坏蓋は、全体に器高の低い扁平なものが多い。つまみのあるものは２点（第64図１・２）で、明らかにつまみがないものが３点（第64図４、第65図１・２）である。

②無台坏（第64図６～11・24・25）

底部が平坦で安定したもの（第64図９・10）と、やや丸い不安定なもの（第64図６～８）の５点である。また凹凸が若干あるが、安定した平底で丁寧なヨコナデ調整で口縁を立ち上げる１点だけ形が異なるもの（第64図11）がある。

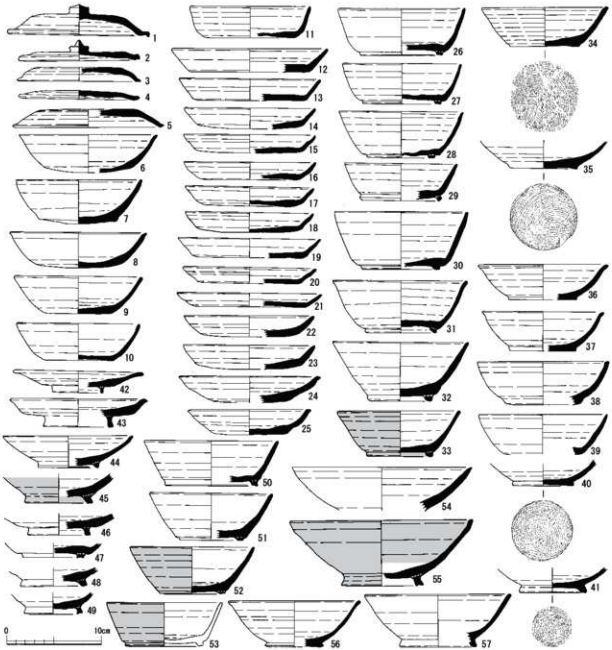
また、皿の形状に近いもの（第64図24・25）も、平底の底部からの立ち上がりが短いものの、皿に分類する口縁とは異なるのでここに分類した。

③有台坏（第64図26～33・50～53、第65図３・７・11）

底部から横に伸びてから口縁へ直線的に立ち上がるもの（第64図26～31）と、横に伸びないでそのまま椀のように「ハ」の字状に開く口縁となるもの（第64図32・33・50～53、第65図３・７）がある。後者は、この後に説明する高台が付く椀との違いを明瞭にできないが、口径が高台付椀より小さく、明らかに無台坏に分類されるもののの口径に近いため、ここに含めた。この中で１点だけ、焼成が不良で土師器のような軟質の胎土のもの（第64図53）がある。

④椀（第64図34～41・44～49・54～57、第65図６・９）

椀は、貼り付けの高台を持つもの（第64図54・55、第65図６・９）と、糸切りの平たいベタ高台のもの（第64図34～37・40・56・57）があり、前者の高台が付く椀が、後者の糸切りの高台の椀より口径が大きいものが多い。また、浅い皿のような坏部のもの（第64図44～49）がある。なお、糸切りの底部に高台を貼り付けるもの（第64図41）が１点だけある。



第64図　遺物実測図23（縮尺1/4）

⑤皿（第64図12～23・42・43、第65図５・８・10・12）

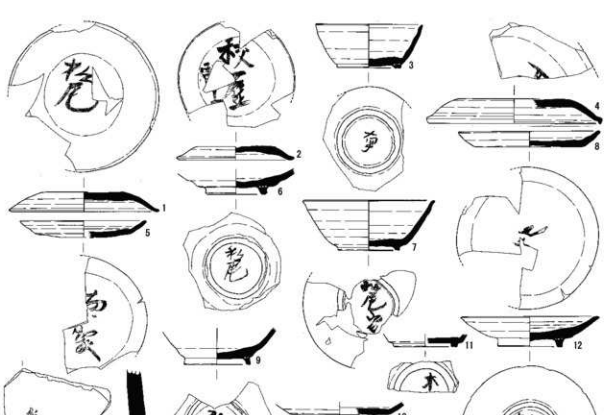
平たい底部から口縁が「ハ」の字に開く扁平なもの（第64図12～23、第65図５・８・10）が主体となり、これに高台が付くもの（第64図42・43、第65図12）が３点ある。

⑥壺・瓶（第66図４～６・８・10～12）

壺・瓶として図化できたのは、口縁が３点（第66図４・５・６）、胴部以下の底部を中心とする部分が３点（第66図10・11・12）である。瓶の耳の部分で図化できたもの（第66図８）は、耳の部分そのものが大きく、ここで図化した瓶等の個体とは異なる。

⑦甕（第66図１～３）

甕は大型の口径で沈線の間に櫛描波状文のあるもの（第66図３）と、文様のないもの（第66図１・２）



第65図　遺物実測図24（縮尺　１～12：1/4、13：1/2）

が２点である。

⑧高坏（第66図９）

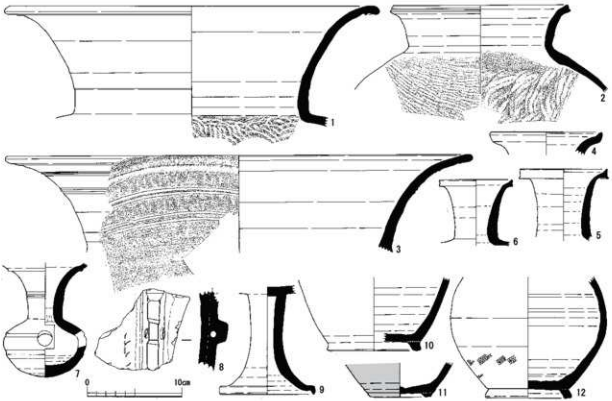
高坏の脚（第66図９）を１点図化したが、長く伸びる脚部であり、SD２出土須恵器の主体となる９世紀代に見られる「高盤」として分類されるものではないだろうか。

⑨その他（第66図７）

口縁の一部を欠く甕（第66図７）は、主体となる須恵器とは時期が合わないので、周囲からの紛れ込みであろう。SD１から出土している甕よりやや古い時期のものである。

⑩墨書土器・刻書土器（第65図１～13）

墨書土器は須恵器全体の点数からするとやや多い12点（第65図１～12）が図化できた。その器種と墨書の部位は、坏蓋の外面３点（第65図１・２・４）、有台坏の底部外面の高台内３点（第65図３・７・11）、椀の底部外面の高台内２点（第65図６・９）、皿の底部外面３点（第65図５・８・10）、高台が付く皿の高台内１点（第65図12）の合計12点である。杯身・椀の高台内に「松尾」の墨書されたものが２点（第65図６・９）、坏蓋の外面には１点（第65図１）、「松尾□」と１字加えたものが１点（第65図７）、「松尾」と「黒田」を併記したものが１点（第65図12）と、「松尾」の墨書が半数近くを占める。他には「□家」（第65図５）や「木」（第65図11）、「衣」（第65図10）、「□屋」・「唐□」を併記したもの（第65図２）等もある。字句が不明なものが３点（第65図３・４・８）ある。なお、ここで坏蓋



第66図　遺物実測図25（縮尺1/4）

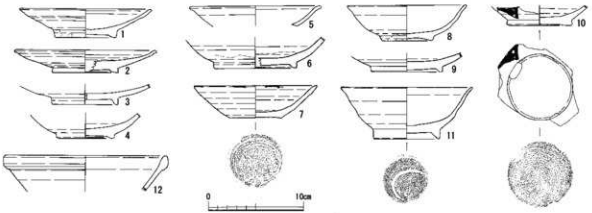
とした３点は、口縁への立ち上がりが非常に緩く、口縁が大きく開くもので、皿である可能性もある。しかし、墨書土器以外の明らかに皿に分類できるものとは口縁の形状が異なるため、坏蓋に分類した。この他に墨書土器ではなく、「□数」のヘラ描の刻書もある（第65図13）が、坏身や坏蓋等とは異なり、明らかに器壁の厚いものである。破片も刻書の周辺のみで器種等は特定できない。

施釉陶器（第67図１～６・８・９・11）

緑釉陶器を７点、灰釉陶器を２点の合計９点（第67図１～６・８・９・11）を図化した。なお、第67図11は表土から出土したものでSD２とは直接係わらないが、他の施釉陶器との比較・検討のため、敢えてここに提示した。

緑釉陶器では高台が付く皿（第67図１～５）と椀（第67図６・８）がある。皿も椀も内湾気味に口縁へと立ち上がり、口縁部は小さく外反する。胎土が非常に堅緻で青味のある色調のものは皿（第67図１）と椀（第67図８）に１点ずつあり、緑釉の発色もやや灰色がかかった深い緑色を呈している。施釉の残りも良い。これに対して、胎土が先のものより全体的に軟質なものでは皿（第67図２～５）と椀（第67図６）があり、緑釉の発色が明るいもの（第67図２・５）と、発色がくすむもの（第67図３・４・６）とに分かれる。施釉の残りはあまりよくなく、剥落している部分がある。高台は削り出しを基本とするが、１点だけ貼り付け高台の可能性があるもの（第67図３）がある。このような特徴から、軟質な胎土のものは隣接する近江地域で生産されたもの、堅緻な胎土のものは丹波篠窯か東海産と考えられるが、地理的な条件から前者の占める割合が高いと考えられる。

灰釉陶器は、底部の高台部分から横へ大きく開くと考えられる皿（第67図９）と、高台部分から丸く内湾しながら口縁となる椀（第67図11）のそれぞれ１点ずつである。前者の高台は削り出しで、後者は底部を回転糸切りののちに高台を貼り付ける。前者には施釉部分が見られないが、須恵器の調整・



第67図　遺物実測図26（縮尺1/4）

胎土には類似せずに施釉陶器に近く、非常に堅緻な胎土であることから、灰釉陶器と判断した。また、後者は施釉陶器特有の薄手のつくりではなく、厚くて重いつくりである。高台の貼り付けも、その痕跡を残す部分がある等、雑なつくりであり、施釉もほとんどが剥がれている。持った実感も灰釉陶器としては非常に重く感じる。更に高台の断面形が接地面を先端とする三角形を呈しており、初期の山茶碗を想起させる特徴を持つ。しかし、山茶碗は灰釉陶器の系譜から出現したとされる現段階の理解のなかでは、その区分については明確にできないし、若狭地域周辺での出土事例もない。類例を重視すると11を山茶碗と特定することはできないと考えたが、その可能性を否定することはできない。２点とも、同じ福井県でも越前地域で出土する東海地方で生産された灰釉陶器とは明らかに異なるものではある。現段階では後者が灰釉陶器か山茶碗であるかの問題も含めて、ここで灰釉陶器とした２点については産地の推定ができないとしておく。

貿易陶磁器（第67図12）

貿易陶磁器として白磁の椀（第67図12）が１点ある。底部を欠き、口縁部付近のみである。口縁が玉縁状を呈する特徴から、大宰府出土の白磁椀Ⅳ類に相当する。

土師器（第67図７・10）

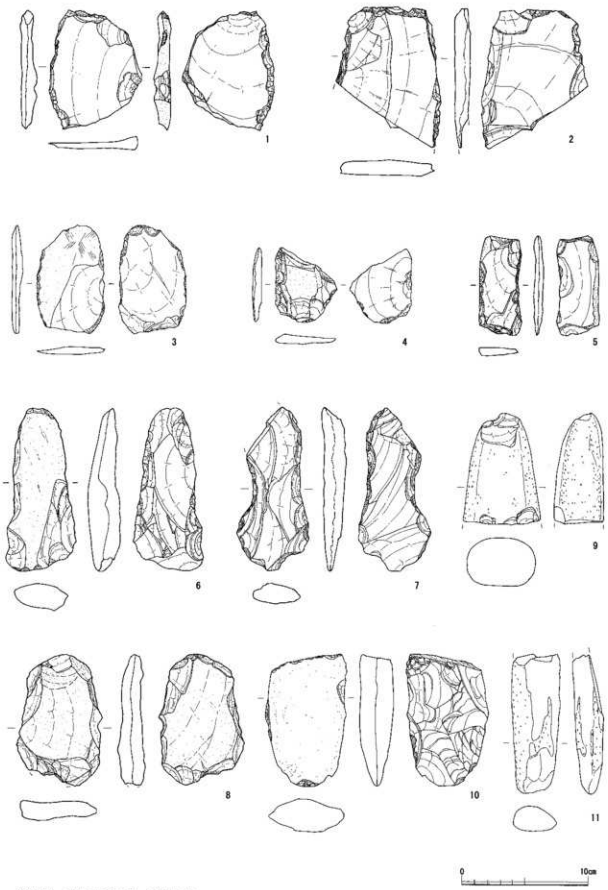
土師器は、糸切り底の椀（第67図７・10）２点を図化した。完形に図化したもの（第67図７）は、糸切りされた平底の底部から立ち上がって口縁部となる。厚みのある底部のもの（第67図10）は、一度立ち上がった底部から口縁へ立ち上がる。体部に墨書が確認できるが、判読できるほど体部は残っていない。ちなみにこの土器のみ胎土が堅緻で、色調が須恵器特有の灰色を呈しており、底部には糸切りの痕跡を残す。10世紀前後に土師器ではあるが須恵器に近い胎土のものに、よく墨書土器が見られることから、ここでは10を焼成状態が非常に良好な土師器の椀であると判断した。

なお、第67図７は表土からの出土であるが、比較・検討のため、ここに提示した。

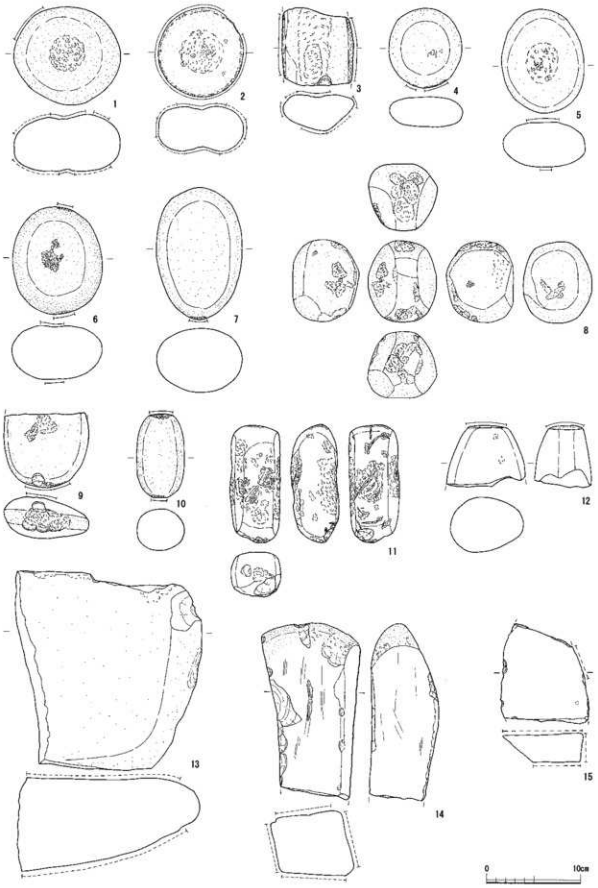
石器（第68～70図）

スクレイパー類４点、二次加工のある剥片１点、打製石斧３点、磨製石斧１点、磨石類11点、石皿類２点、砥石３点、石製品２点が出土した。下層・最下層出土として取り上げたものが多い。出土土器から縄文時代晩期から弥生時代後期の所産と考えられるが、個々の時期比定は困難である。

第68図１・３～５はスクレイパー類である。１は扇形を呈す板状剥片の一側縁を刃部とし、刃部を除く周縁に礫面を残す。刃部は両面調整で、角度のない鋭利な刃縁を作出している。３は明瞭な刃部加工

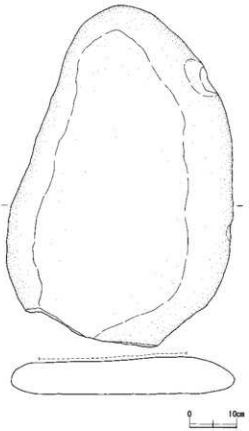


第68図　遺物実測図27（縮尺1/3）



第69図　遺物実測図28（縮尺1/4）

は認められないが、鋭利な縁辺部に刃こぼれ様の剥離痕を観察できる。礫面を広く残す背面は摩耗しており、使用による手ズレ痕と考えられる。4は片面に礫面を残す薄い板状剥片を素材とし、素材剥片の打面側を片面調整により直線的な刃部としている。5は棒状円礫から剥離した板状剥片を素材とする。略長方形を呈し、長辺の一方に礫面を残す。刃部はもう片方の長辺に設け、やや内湾する。第68図2は二次加工のある剥片とした。大形の板状剥片の周縁に、粗い二次加工が認められる。第68図6～8は打製石斧である。いずれも短冊形の範疇で捉えられる。6は円礫の表面から剥離した肉厚の剥片を素材とし、片面に広く礫面を残す。刃部再生を行っているようであり、偏刃をなす。7は節理の発達した石材から得た板状剥片を素材とする。両側辺は垂直方向の打撃によって内湾させている。8は全体的に風化が著しい。第68図9は磨製石斧の基部と考えられる。片主面が平坦面をなす。第68図10は石剣の未成品と考えられる。第68図11は石刀もしくは石剣であり、一端を欠いている。第69図1～12は磨石類である。1・2は扁平な円礫を利用したもので、両主面中央部には敲打の集中による凹みを形成する。敲打痕は周縁にも認められ、2ではほぼ全周にわたって平坦面を形成する。1・2ともに両主面の凹みを取り巻く磨痕を持つ。3は断面が略三角形をなす棒状礫を利用したもの。主面では敲打痕が長軸方向に帯状をなし、凹みも形成する。敲打痕は側辺にも認められ、一部には磨痕も有する。4～12は敲打痕のみ認められるもの。8は多面体を呈し、各面に敲打痕を有す。磨痕は明らかでないが、平坦面は磨っている可能性が高い。11は断面が略方形を呈し、各面に敲打痕や凹みが認められる。凹みには断面V字の溝状をなすものがある。整った形状や他の磨石類にはない緑色で軟質の石材を用いている点からみて、石棒等の石製品を転用した可能性が高い。第69図13、第70図は石皿である。いずれも扁平な自然礫をそのまま利用しており、平坦もしくは使用によって若干凹んだ磨面を持つ。第69図14・15は砥石である。14は角柱状をなし、正裏面および両側面を砥面とする。各砥面は緩やかな凹面をなし、長軸方向の線状痕が認められる。更に正面の中央部には断面V字の溝を形成している。



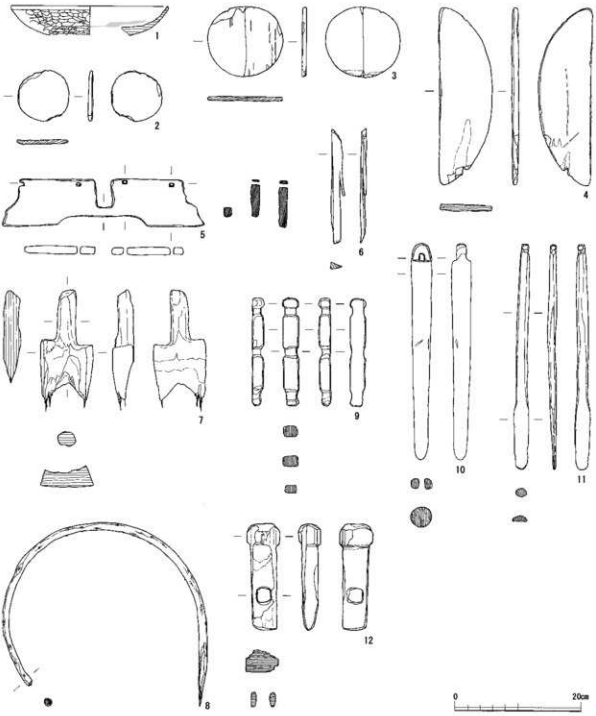
第70図　遺構実測図29（縮尺1/8）

木製品（第71～75図）

木製品については、形状から使用用途を類推して大まかに分類を行った。しかしながら、転用や破損等により本来の形状をとどめず、用途が明確に特定できないものも多数存在する。また、器表面に風蝕がおよんでいるため、加工の痕跡が判読できない資料が大部分を占めている。木製品の時期は、共伴する土器から多くは弥生時代後期に帰属すると推定されるが、一部は古代にまで下る可能性がある。

①容器類（第71図1～5．第72図、第73図1・2）

第71図1は、皿である。口縁部外面に面を形成し、体部外面には細かな横位の削りを施す。内面には、底部を中心に焦痕が認められる。



第71図　遺物実測図30（縮尺1/6）

第72図1～3は、原材を円筒状に刳り貫いた桶の側板である。第71図4のような、円形の底板を底部にはめて使用したものと考えられる。

第72図1は歪みが生じているが、復元径で約30㎝をはかり、器体下端には底板を固定するために径約0.5㎝の目釘穴を穿孔する。目釘穴には目釘の一部が遺存する。第72図2は歪みが生じているが復元径が約28㎝、第72図3は同じく復元径約34㎝をはかる。両者ともに内面下端に底板を固定するための緩やかな段を作り出す。段はあまり明瞭なものではなく、器体下端において器壁内面が緩やかに盛り上がり、下端に向かってすぼまる形状をなす。この段で底板を受けるものと推定される。なお、第72図2

の下端にはどのように機能していたのか不明だが、径約0.5㎝の目釘穴を穿孔する。目釘穴は貫通せずに器壁の中程で止まり、目釘の一部が遺存する。第72図3の上部には握り部が円筒形を呈する把手を作り出す。把手は、容器本体よりも内側に傾いて削り出されている。

第71図2～4は円板であり、桶の底板と推定される。第71図2は径約8.1㎝をはかる小型の底板である。第71図3は上下が僅かに短い楕円形を呈し、長軸約12.0㎝、短軸約11.3㎝をはかる。第71図4は、大型の底板ではあるが一部のみが遺存する。遺存部を基に復元すると、第71図3と同じく楕円形を呈すると考えられ、復元径が長軸約30㎝、短軸約25㎝をはかる。なお、いずれも器体側面には目釘を打ち込むための穿孔が認められない。このため、底板ではなく蓋として使用された可能性もある。

第71図5は台形状を呈する板材で、器体中央には長方形の欠き込みを有する。上端には欠き込みの左右に、長軸約0.5～0.7㎝、短軸約0.6㎝をはかる方形孔を各々2箇所設け、下端の中央部は湾曲しながら浅く削り込む。上端の方形孔は別の部材と結合するためのものと推定され、組み合わせ式の箱状容器（指物）の脚の可能性がある。

第72図4～7、第73図1は、刳物の槽である。第72図4～6は平面形が長方形を呈するが、4・5の内面は浅皿状に浅く凹む。このため、器壁内面の立ち上がりは湾曲して緩やかであり、平面上における内面四隅の仕上げも角を持たず丸味を帯びている。第72図4は底面に脚を削り出す。遺存部から推定して、底面の四隅に設けられていたと考えられる。脚の長軸は器体の長軸に平行しており、長側面の形状は歪な逆台形状を呈する。第72図6は、器壁内面の立ち上がりが底面から明確に折れて直線的である。平面上における内面四隅の仕上げも角を持たせており、全体的に箱状の器形を呈する。第72図7、第73図1は、平面形が舟形状の隅丸長方形を呈する槽である。第72図7は器壁の立ち上がりが、内外面ともに緩やかな浅皿状を呈する。第73図1は、長軸が90㎝をこえる大型品である。底面からの器壁の立ち上がりは外面では外傾しながら直線的に立ち上がるが、内面では湾曲して緩やかに立ち上がる。底部には欠損しているものの脚を削り出しており、恐らく底面の四隅に設けられていたようである。脚は遺存部から判断して、円筒状の脚であったと考えられる。

第73図2は、底面に略長方形を呈する脚を削り出した板材である。破損しているため本来の形状はうかがえないが、脚付きの槽の底部になる可能性がある。脚の長側面の形状は逆台形状を呈する。

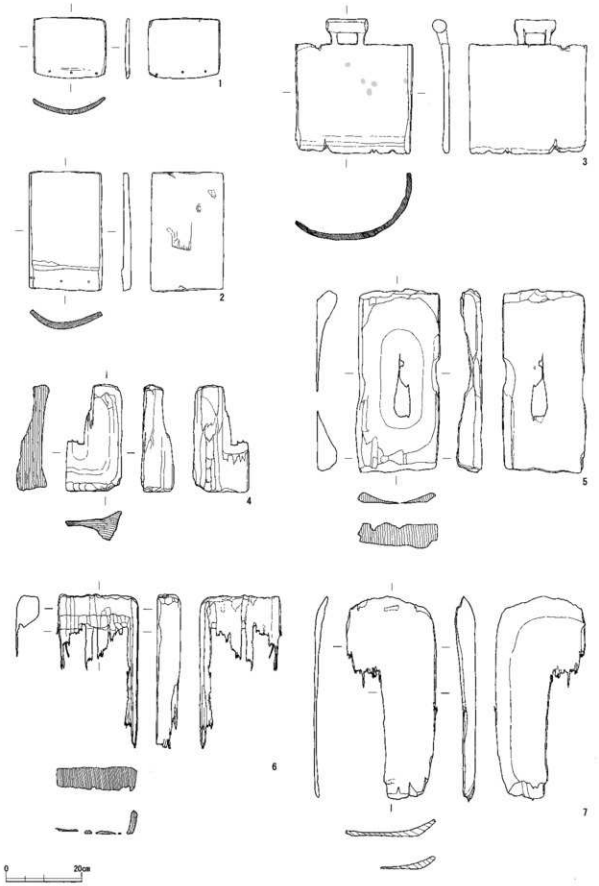
②農工具・漁撈具・狩猟具・接続具・祭祀具・栓材・用途不明品（第71図6～12、第75図7・8）

第71図6は左側縁を欠損するが、右側縁には下方から切り込みを入れて逆棘を作り出す。斎串であろうか。

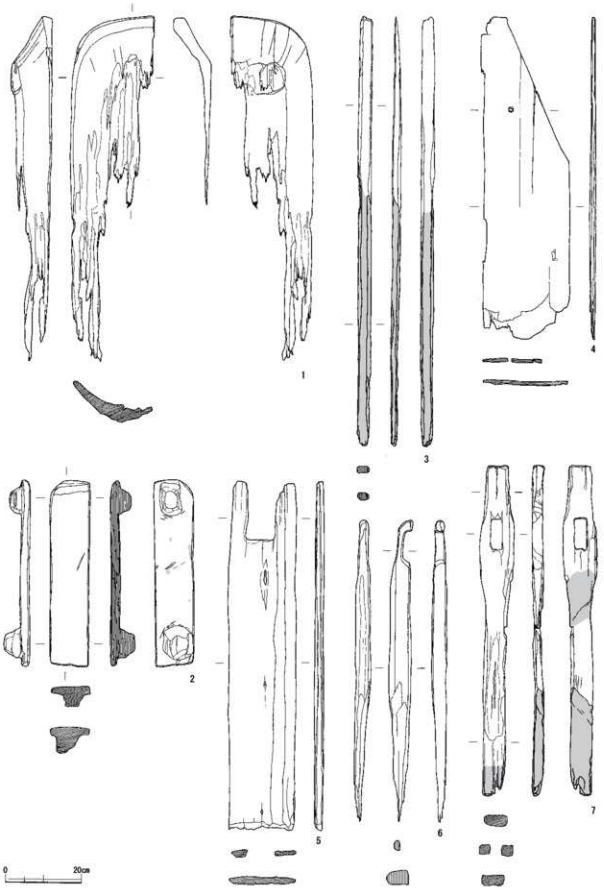
第71図7は、杓状具である。把手は横断面が扁平な楕円形を呈する棒状を呈する。下端の先端部を欠損しているため、身の形状は判然としないが、遺存部は下端に向かってすぼまっていく。身の内面は破損のため明確ではないが浅く削り込んでいるようである。アカトリもしくはモミスクイの類と推定されるが、明確な用途は特定できない。

第71図8は、細い枝材を湾曲させて円形に仕上げる枠材である。器表面の細かい枝を払い、器体の右端を削って鋭く仕上げる。なお、削りは表面の片面のみである。器体の左端は、破損して折れている。玉網もしくは田下駄の枠材と推定される。

第71図9は、両端および器体中央に抉りを設ける板材である。裏面には抉りを設けず平滑に仕上げている。厚みがあるものの、別の二つの部材を固定するための接続具と推定され、抉り部は緊縛用の紐掛けと考えられる。



第72図　遺物実測図31（縮尺1/10）



第73図　遺物実測図32（縮尺1/10）

第 71 図 10 は上端に半円状の削り出しを設け、その中に長軸約 1.2 ㎝、短軸 0.8 ㎝をはかる方形孔を穿つ。器体は下方に向かってすぼまり、下端を丸く仕上げる。上端の半円状突起は別の部材に差し込んで使用するための加工と考えられ、容器等の柄であった可能性がある。

第 71 図 11 は、篦状具である。柄の上端には抉りを入れて突起状に削出しており、器体の下半には平面形が長楕円形を呈する篦状部を持つ。篦状部の裏面は平滑に仕上げており、横断面は扁平な半円形を呈する。

第 71 図 12 は、器体上部に円頭状の突起を作り出し、突起下は長方形を呈する栓材である。器体下部には、長軸約 3.0 ㎝、短軸約 2.4 ㎝をはかる方形孔を設ける。器体の下端は表裏面より削り込まれ、端部が尖り気味となる。形状は宮本分類のＡ型軸受に類似するものの、器体下部に設けられた孔が略方形を呈することから、扉等の軸受ではなく、別の二つの部材を固定するための栓材と推定される。

第 75 図 7 は上端を浅く削り込んで、僅かに鉤状に屈曲する突起を作り出す部材である。用途は不明だが、形状から弓の可能性も考えられる。

第 75 図 8 は、内面を削り込んで樋状に仕上げた部材である。右側面は破損のため遺存しないが、横断面はＵ字状を呈していたと考えられる。内面の底部はやや平滑に仕上げられており、平坦な面を作り出す。器体下部の底面には遺存値で長軸約 6.7 ㎝、短軸約 4.6 ㎝をはかる方形孔を設ける。形状から木樋と推定され、器体下部の方形孔は別材と結合するための仕口と考えられる。

③板材・棒材（第 73 図３～７、第 74 図、第 75 図１～６・９・10）

建築部材を中心とした板状および棒状の部材を一括する。用途が類推できるものも僅かに存在する。

第 74 図１は、長軸が約 141.7 ㎝をはかる大型の板材である。左右両側縁を欠いているが、本来は長方形を呈する一枚板であったと推定される。器体中央の右側縁には長軸約 9.7 ㎝、短軸約 2.7 ㎝をはかる長方形孔を設ける。器表面には、風蝕の影響か木質の一部と推定される細かな繊維が毛羽立っている。形状から扉板と推定され、右側縁の方形孔は別材で作られた把手の差し込み口、もしくはそのまま引手として利用するための仕口と推定される。

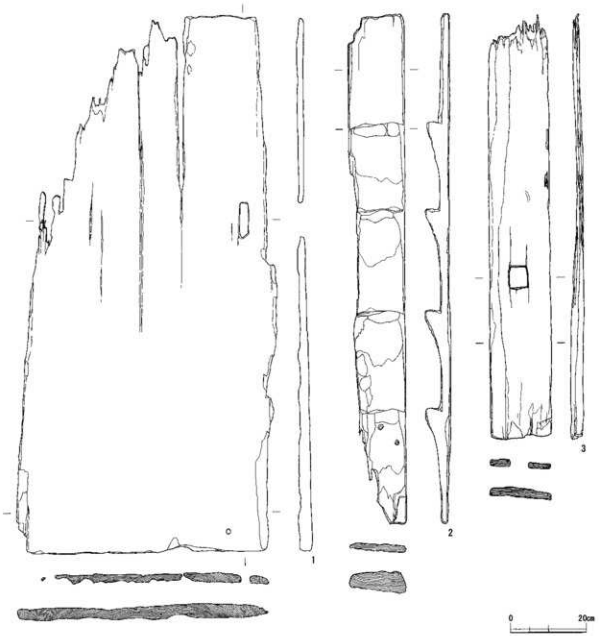
第 74 図２は、刻み梯子である。厚みのある板材の表面を削り込んで階段部を作り出す。このため、器体の縦断面が鋸歯状となる。下端および左側縁を欠くうえに器面の風蝕が著しい。階段部は４段分が遺存し、蹴上の寸法は約 23.0 ～ 26.8 ㎝をはかる。階段部の先端も失われている可能性もあるが、踏面の奥行は遺存値で約 3.5 ～ 4.1 ㎝をはかる。

第 73 図４は大型の板材で、上端の左側から右側縁中央にかけて斜めに切り落とす。器体の左側上部には一辺約 1.0 ㎝をはかる方形孔を設ける。形状から建物の妻板壁として使用された可能性が考えられ、方形孔は壁の構築材と緊縛するための綴り孔と推定される。横位に用いたと仮定すると、多少歪みが生じているものの斜辺の傾斜角は約 23.5°をはかり、４寸５分勾配（約 24.2°）に近い角度となる。

第 73 図５は、器体上端に長方形の欠き込みを有する板材である。破損はしているが、上端の欠き込みは長軸約 15.2 ㎝、短軸約 7.8 ㎝をはかる。建築部材と考えられ、床材もしくは壁材と推定される。

第 73 図６は破損や転用のため本来の形状は明確ではないが、上端に隅丸の方形孔を持つ板材と考えられる。方形孔は、遺存値で長軸 8.2 ㎝、短軸 2.2 ㎝をはかる。摩耗のため不明瞭ではあるが、方形孔を設けた箇所の器体の幅が狭く作られた可能性がある。杭として転用されたのか、器体の下半は下端に向かって削り込まれる。

第 73 図７は、器体の上部に方形孔を有する板材である。方形孔は、長軸約 8.3 ㎝、短軸約 3.4 ㎝を



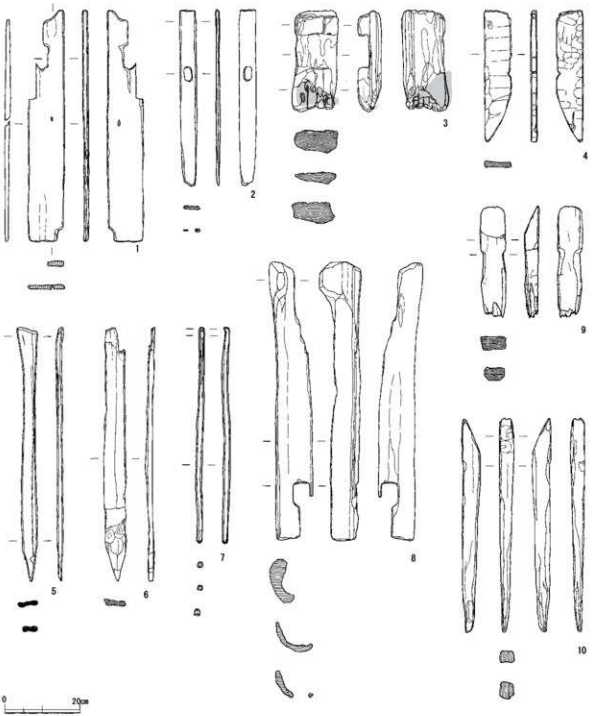
第74図　遺物実測図33（縮尺1/10）

はかる。方形孔を設けた箇所の器体の幅は、広く作られている。また、器体の裏面を中心に焦痕が認められる。

第75図3は、厚みのある器体中央に他の部材を組み合わせる欠き込みを設ける板材である。欠き込みは長さ約9.3㎝、奥行約2.9㎝をはかる。転用されてはいるが、形状から平梁もしくは根太等の横架材の端部と推定される。

第74図3、第75図1・2は、器体に方形孔を有する板材である。第74図3は上端が欠損しているが器体中央の下半寄りに、長軸約6.3㎝、短軸約5.3㎝の方形孔を設ける。第75図1は器体上部に遺存値で長軸5.6㎝、短軸2.8㎝をはかる方形孔を設ける。第75図2は器体中央の上半寄りに、長軸約3.8㎝、短軸約2.7㎝をはかる方形孔を設ける。

第75図4～6は下端が尖る板材である。第75図4は、器表面を平滑に仕上げている。第75図5・

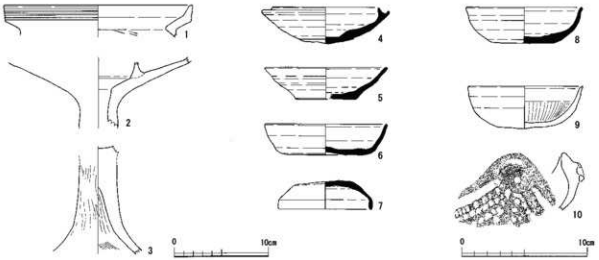


第75図　遺物実測図34（縮尺1/10）

6は側面および表裏面も削っていることから、矢板状に使用していた部材と推定される。

第73図3は横断面が扁平な多角形を呈する棒材である。上下両端を欠く。器表面には器体下半を中心に、焦痕が認められる。

第75図9・10は、断面が略方形を呈する棒材である。両者ともに上端を斜めに切り落とす。9は上端より約11.5㎝下った箇所にて表裏の角を削っており、横断面が歪な八角形を呈する。10は、上端より約11.5㎝下った箇所にて裏面の角を浅く削り込み、段を作り出す。



第76図　遺物実測図35（縮尺　１～９：1/4、10：1/3）

SD ５出土遺物（第 76 図１～３）

甕の口縁部、装飾器台の受け部、高坏の脚部の３点を図化した。第 76 図１は弥生土器の甕である。口縁部は摘み上げるように立ち上がった有段の口縁であり、外面に擬凹線をめぐらせる。頸部は「く」の字に屈曲する。第 76 図２は、装飾器台である。本来は有段となる器台の受け部の下半であるが、開く受け部の中ほどに器壁の立ち上がりが残っており、装飾器台であることは確実である。残された部分のプロポーションから、ここまで貼り付けの位置が中央に近くなるものは、越前地域等の北陸地方に多いタイプではなく、SD ２からも出土しているものと同じく、受け部の口縁帯が斜めに張り付く丹後地域に類例の多いものであろう。第 76 図３の高坏はこれまでのものと同じく、「ハ」の字に開く有段とはならない脚の上半部である。

SD13 出土遺物（第 76 図４）

第 76 図４は、須恵器の坏身である。内面にかえりが立ち上がる、「坏H」とされるものである。

SD15 出土遺物（第 76 図５）

第 76 図５は、須恵器の無台坏である。底部の中央を欠くが、その調整が回転ヘラ切りであることは間違いのないものである。平底の底部から椀のように大きく口縁が開く。また、ロクロ成形の際のヨコナデが強く、その際の段が明瞭に残る。本遺跡ではこのような坏身の出土は他に確認しておらず、周辺でも類例が見当たらない。

SD24 出土遺物（第 76 図６）

第 76 図６は、須恵器の無台坏である。平底の底部から口縁部にかけて、丸味を帯びて立ち上がる。

SD26 出土遺物（第 76 図７）

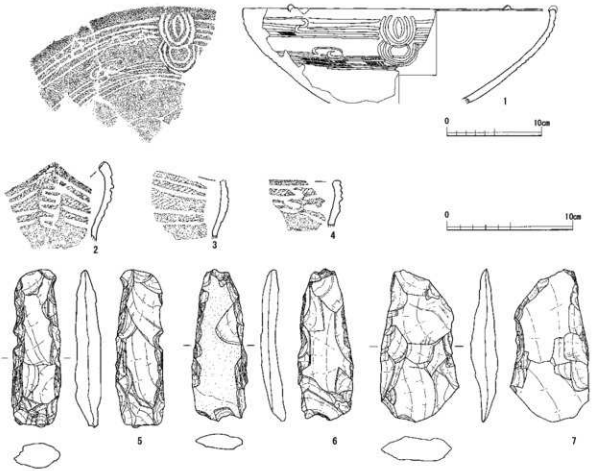
第 76 図７は、須恵器の坏蓋である。口縁部は立ち上がる。SD13 等からも出土している「坏H」等の杯身の蓋である。

SD61 出土遺物（第 76 図８）

第 76 図８は、須恵器の無台坏である。平底の底部から口縁部にかけて、丸味を帯びて立ち上がる。

SD92 出土遺物（第 76 図９・10）

第 76 図９は、土師器の椀である。内面の底部から口縁部に向かって、ヘラ描の暗紋が直線で放射状にのびる。



第77図　遺物実測図36（縮尺　１：1/4、２～７：1/3）

第76図10は、縄文土器である。波状口縁深鉢の波頂部である。波頂直下に円形の突起を配し、中央に刺突を施す。円形突起の両脇から口縁に沿って沈線を引き、その内側に沈線に沿う刺突列を施す。また、円形突起下に垂下する刺突列も認められる。時期は縄文時代後期中葉に位置付けられよう。

第２節　遺構外出土遺物（図版第52・55・56、第77～81図）

１　遺物出土集中地点出土遺物（第77図）

３区N 13では、狭い範囲から縄文土器と打製石斧がまとまって出土しており、遺構には伴わないもののほぼ同時期に属する可能性がある。

第77図１は、内湾気味に開く器形の浅鉢である。口縁端部には小突起を配す。弧線を重ねた８字状の単位文を配し、４条を基調とする横走沈線帯を二段めぐらす。沈線帯には縄文LRを充填する。第77図２～４は同一個体で、波状口縁深鉢である。口縁部は緩く内湾する。波形に合わせた２条の沈線とほぼ水平な２条の沈線により口縁部文様帯を構成する。波頂部下と波底部下では蛇行沈線が垂下し、沈線帯を区切る。口縁部文様帯には縄文RLを充填する。これらの土器は、加曽利Ｂ１式に並行すると考えられ、縄文時代後期中葉に位置付けられる。

第77図５～７は、３点重なって出土した打製石斧である。すべて短冊形を呈す。５は厚手の板状剥片を素材とする。両側辺と刃部を直線的に整形している。６は円礫の表面から剥離した剥片を素材とし、湾曲した側面観を呈す。背面に礫面を広く残す。７は幅広で歪な形状を呈す。調整加工は側辺に集中し

ており、刃部は素材の縁辺をそのまま利用している。

２　遺構外出土遺物（第78～81図）

遺物包含層は削平により遺存していなかったが、表土を中心に僅かに土器類が出土した。完形に近い状態まで復元できたもの、また異なる時代や遺構出土土器で類例の無いものについて図化し、まとめた。

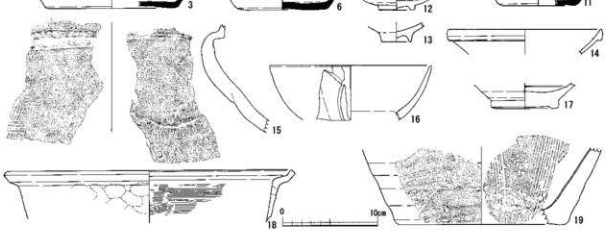
第78図　遺物実測図37（縮尺1/3）

第78図は、縄文土器の浅鉢である。陽刻手法でレンズ状の文様を描出し、結節部に押点文を施す。狭義の浮線文土器である。

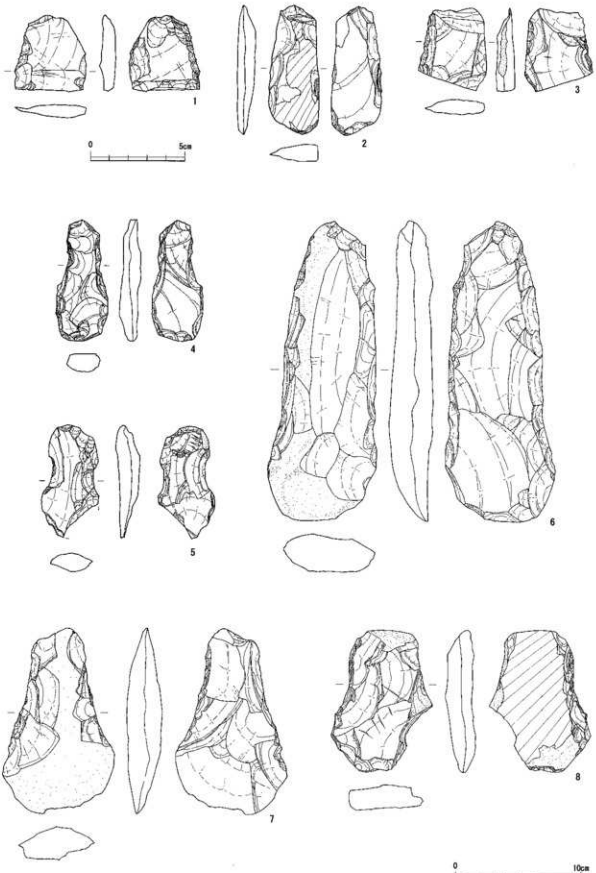
須恵器では、坏蓋・杯身・皿・短頸壺等11点を図化した（第79図１～11）。無台坏は底部のごく一部を欠くもの（第79図５・11）と、口縁部片（第79図２）、口縁部を欠く底部（第79図６）の４点である。また、この無台坏に先行する時期の口縁にかえりのある「坏H」２点（第79図８・10）も、SD１で出土したものと同じタイプで同時期であろう。坏蓋はこの「坏H」とセットになるもので、つまみがあるもの（第79図７）と、つまみが無いもの（第79図９）である。有台坏は完形として図化できた１点（第79図４）のみである。皿は１点（第79図３）で、SD２で出土したものと同じタイプで同時期であろう。壺としては、短頸壺の口縁部付近のみ（第79図１）であるが、このタイプの壺はこれ以外に図化できていない。

貿易陶磁器は、白磁３点、青磁２点が図化できた。白磁は皿の底部（第79図12）と椀の玉縁口縁（第79図14）とがある。第79図14と同一個体かは不明であるが、同タイプの底部（第79図17）が出土している。第79図14・17はSD２出土のものと同様に、大宰府出土の白磁椀Ⅳ類に相当する。青磁は鎬蓮弁文を描出する椀の口縁部片（第79図16）と、底部（第79図13）があるが、大きさ等から両者は別個体であろう。16は、大宰府出土の龍泉窯系青磁椀Ⅰ－５・ｂ類に相当する。

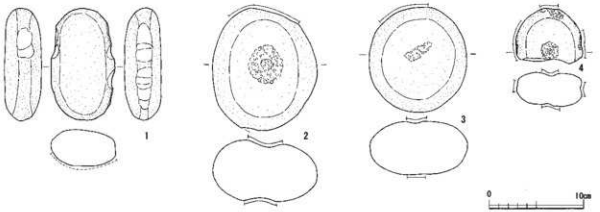
中世の陶器では、越前焼の甕胴部上半片（第79図15）と、擂鉢の底部（第79図19）の１点ずつが図化できた。



第79図　遺物実測図38（縮尺1/4）



第80図　遺物実測図39（縮尺　1：1/2、2～8：1/3）



第81図　遺物実測図40（縮尺1/4）

その他に、中世初頭の瓦質の鍋（第79図18）が１点だけ図化できた。受口状の有段口縁で、頸部周辺に指押さえを顕著に残し、胴部内面をハケ調整とする、この時期にしか見られない鍋である。

その他に、前述したように第67図７・11の土師器椀・灰釉陶器椀も表土から出土である。

同じく遺構外からは、第80・81図の石器が出土している。スクレイパー類２点、楔形石器１点、打製石斧８点、磨石類７点がある。縄文時代から弥生時代の所産と考えられるが、個々の時期比定は困難である。

第80図１・２はスクレイパー類。１は板状剥片の一側縁を刃部とする。２は略長方形を呈し、一方の長辺に粗い剥離により刃部を作出する。もう一方の長辺は節理による平坦面をなしている。第80図３は楔形石器である。対向する二側辺に、階段状剥離が認められる。第80図４～８は打製石斧である。４は凸状の平面形を呈す。５は両側辺中央部に抉りを持つ。６は出土した同器種のなかで最大のもの。円礫の表皮を素材とし、刃部背面には礫面が広く残る。礫面の形状から刃部は片刃状となる。７・８は撥形を呈すもの。７の刃部背面は礫面であり、腹面側も含め、二次加工は行っていない。

第81図は磨石類である。第81図１は扁平な楕円礫を利用したもので、片主面に磨痕が認められる。両側面に指掛けに適した凹部を作出している。第81図２～４は扁平な円礫を利用したもので、いずれも両主面に敲打の集中による凹部を形成する。敲打痕は周縁にも認められ、４では凹部を形成する。

第４表　土器観察表１（縄文土器および弥生時代前期・中期の土器）

挿図番号	時期	器種	地区	グリッド	出土層位	法量（cm）口径	器高	底径	文様／調整 外面	文様／調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
第61図8	縄文後期		3区	N12	SP909				横走平行沈線(多数竹管状工具)／ナデ	ナデ	2.0R/3 にぶい黄色	2.5R/3 にぶい橙色	1mm以下の砂粒 もやや多くごく少	
第61図17	縄文後期		3区	N12	SP909				横走平行沈線(多数竹管状工具)／ナデ		2.5YR/3 浅黄色	2.5YR/3 浅黄色	1mm以下の砂粒 もやや多くごく少	
第61図18	縄文後期	鉢	3区	N12	SP909				横走平行沈線(多数竹管状工具)／ナデ	ナデ	2.5YR/3 浅黄色	2.5YR/3 浅黄色	1mm以下の砂粒 もやや多くごく少	
第61図19	縄文後期	深鉢	3区	N12	SP909				横走平行沈線(多数竹管状工具)／ナデ	ナデ	2.5YR/3 にぶい黄色	2.5YR/3 浅黄色	1mm以下の砂粒 を多量含む	
第61図1	縄文晩期	深鉢	6区		SD1				刻目(刺突)突帯／ナデ	ナデ	2.5YR/4 にぶい橙色	10YR5/3 にぶい黄橙色	1mm以下の砂粒 もやや多くごく少	突帯断面、円形を基手施ら 貝殻の圧痕に手孔状の開孔
第61図2	縄文晩期	深鉢	6区		SD1				刻目(刺突)突帯／ナデ	ナデ　輪積み痕	10YR4/1 褐灰色	10YR5/3 にぶい黄橙色	1mm以下の砂粒 もやや多くごく少	突帯断面
第61図3	縄文晩期	深鉢	6区		SD1				刻目突帯／横沿条痕	ナデ	2.5YR/3 にぶい赤色	2.5YR5/2 灰赤色	2mm以下の砂粒 を多量含む	突帯断面
第61図4	縄文晩期	深鉢	6区		SD1				刻目(刺突)突帯／斜位条痕　突帯上横沿ナデ	横沿ナデ　輪積み痕	5.0YR/1 褐灰色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒 もやや多くごく少	突帯断面
第61図5	縄文晩期	深鉢	6区		SD1				無刻目突帯／横沿条痕ヲ	横沿ナデ	10YR4/2 灰黄褐色	10YR6/3 灰黄褐色	2mm以下の砂粒 もやや多くごく少	
第61図6	縄文晩期	深鉢	6区		SD1				無刻目突帯／ナデヲ	ナデヲ	10YR5/3 にぶい黄橙色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒 もやや多くごく少	胴底部資
第61図7	縄文晩期	深鉢	6区		SD1				刻目突帯(V)／横沿ナデ	ナデ	10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/3 にぶい黄橙色	1mm以下の砂粒 もやや多くごく少 黒色粒多	突帯上方に連続する爪圧痕あり
第61図8	縄文晩期	深鉢	6区		SD1				刻目突帯(D)／横位ケズリ→ナデ	横沿ナデ	10YR4/2 灰黄褐色	10YR7/2 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒 もやや多くごく少 石英多	外面炭化物付着
第61図9	縄文晩期	深鉢	6区		SD1				刻目突帯／横沿条痕ヲ→ナデ	ナデ	2.5YR/2 灰黄色	2.5YR/3 灰黄色	2mm以下の砂粒 を多量含む もや 石英多	突帯剥落
第61図10	縄文晩期	浅鉢	6区		SD1				横走平行沈線　楕円状面工／ナデ	ナデ	10YR6/2 にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	砂粒少	赤彩の痕跡あり
第61図11	縄文晩期	深鉢	6区		SD1				横沿ナデ(粗)	横沿条痕→ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/2 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒 を多量含む 石英・雲母多	外面炭化物付着
第61図12	縄文晩期	深鉢	6区		SD1				横沿条痕	横沿条痕	2.5YR/2 灰黄色	2.5YR/1 黒灰色	2mm以下の砂粒 を多量含む 石英・雲母多	内外面炭化物付着
第61図1	縄文晩期	深鉢	5区	C14	SD2	24.60			刻目突帯(D)２条／隆沿縁ナデ(粗)　隆沿縁ケズリ　突帯に沿ってC字状ナデ　輪積み痕	横位ナデ 縁部沿に先行する横位条痕の痕跡 輪積み痕	10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/2 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒 を多量含む 石英多	内外面炭化物付着
第61図2	縄文晩期	深鉢	5区		SD2				刻目突帯(D)＋CL／横沿ナデ(粗) 突帯上・下端横位ナデ　輪積み痕	ナデ(粗)(口近傍4 cm程、以下横位)、輪積み痕	10YR2/1 黒褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒 もやや多くごく少	外面炭化物付着
第61図3	縄文晩期	深鉢	5区	A15	SD2				刻目突帯(V)／横沿条痕→ナデ　突帯上端横位ナデ	横沿ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/2 にぶい黄橙色	砂粒少	
第61図4	縄文晩期	深鉢	5区	A16	SD2				刻目突帯(G)／ナデ　突帯上端強い横位ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄橙色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒 を多量含む 石英	
第61図5	縄文晩期	深鉢	5区	B15・B16・C15・C16	SD2				刻目突帯(D)／ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	1mm以下の砂粒 もやや多くごく少	突帯断面
第61図6	縄文晩期	深鉢	5区	B15	SD2				刻目突帯(V～D)／ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄橙色	10YR5/3 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒 もやや多くごく少	突帯断面
第61図7	縄文晩期	深鉢	5区	B15・B16	SD2				刻目突帯(V～D)／ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/2 灰黄褐色	砂粒少	
第61図8	縄文晩期	深鉢	5区	A15・A16	SD2				刻目突帯(V)／ナデ　突帯上端ハ横位ナデ(粗)	横沿条痕	10YR4/2 灰黄褐色	2.5Y7/1 灰白色	1mm以下の砂粒 を多量含む	突帯断面
第61図9	縄文晩期	深鉢	5区	C15	SD2				刻目突帯(D)／口縁～突帯まで1周帯下約1 cm以横位ナデ、以下縦位ナデ(粗)　輪積み痕	横沿ナデ　輪積み痕	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒 を多量含む 石英多	口縁直押圧ヲ 外面炭化物付着
第61図10	縄文晩期	深鉢	1区	B17	SD2				刻目突帯(V)／口近傍3 cm以横位ナデ、以下縦位ナデ	横位～斜位条痕→横位ナデ(口近傍2 cm)	10YR4/1 褐灰色	10YR5/3 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒 を多量含む	突帯断面
第61図11	縄文晩期	深鉢	5区	C14	SD2				刻目突帯(V～D)／ナデ	ナデ	10YR5/2 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒 を多量含む	突帯断面 剥離大
第61図12	縄文晩期	深鉢	5区	B15	SD2				刻目(刺突)突帯／ナデ	ナデ　輪積み痕	10YR5/4 にぶい黄橙色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒 を多量含む	突帯断面 胎土は土器が2つに分かれた時点と共による

検出番号	時期	器種	地区	グリッド	出土地点	法量（cm）			文様・調整		色調		胎土	備考
						口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面		
第61図11	縄文晩期	深鉢	5区	A15	⑩2				刻目突帯（V～D）／口縁～突帯上端および突帯下若干2～3cm程ナデ、以下、縦位ナデ（粗）	横位ナデ	7.5YR5/3 にぶい黄橙色	10YR6/2 灰黄褐色	1mm以下の砂粒やや多くごく少	
第61図12	縄文晩期	深鉢	5区	A15・A16・B16	⑩2				刻目（刻突）突帯／横位ナデ	横位ナデ　指頭圧痕	10YR5/2 灰黄褐色	10YR7/2 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒やや多くごく少	突帯低平 刻突は半截竹管状工具による外面炭化物付着
第61図13	縄文晩期	深鉢	5区	A15・B15・B16	⑩2				刻目突帯（D）／ナデ　突帯下に爪状圧痕	ナデ　輪積み痕	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	1mm以下の砂粒やや多くごく少	突帯は粘土紐を二重に張り付けて成形
第61図14	縄文晩期	深鉢	6区	A23	⑩2				刻目突帯（D）／横位ナデ　口縁～突帯上端横ハケ横位ナデ　輪積み痕	ナデ	10YR5/1 褐灰色	10YR6/2 灰黄褐色	1mm以下の砂粒多く含む	
第61図15	縄文晩期	深鉢	5区	D13	⑩2				刻目（刻突）突帯／ナデ	ナデ　口辺約2cm以下は強い横位ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	1mm以下の砂粒多く含む	突帯低平 刻突は工具の当初から斜平
第61図16	縄文晩期	深鉢	5区	B15	⑩2				刻目突帯（D）／ナデ	横位ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒多く含む	
第61図18	縄文晩期	深鉢	5区	B15	⑩2				刻目（刻突）突帯／突帯上横位ナデ、以下、縦位ナデ	ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	砂粒少	
第61図20	縄文晩期	深鉢	5区	A16	⑩2				刻目（刻突）突帯（O）／横位ナデ	口辺約1cm横位ナデ、以下は斜位ナデ　指頭圧痕	10YR5/2 にぶい黄橙色	10YR5/2 灰黄褐色	1mm以下の砂粒多く含む	突帯低平
第61図21	縄文晩期	深鉢	5区	A15・A16	⑩2				刻目突帯（V）／口辺約2cm横位ナデ、以下は縦・斜位ナデ	横位ナデ（粗）	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒やや多くごく少	外面炭化物付着 刻目6条
第61図22	縄文晩期	壺？	5区	C15	⑩2				刻目突帯（D）／口辺約2cm横位ナデ、以下は縦位ナデ（粗）	横位ナデ	10YR5/1 黒褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒多く含む　石含	
第61図23	縄文晩期	深鉢	5区	A15	⑩2				刻目突帯（D）／横位ナデ	ナデ	10YR2/1 黒色	10YR5/6 黄褐色	2mm以下の砂粒多く含む	外面炭化物付着
第61図24	縄文晩期	深鉢	5区	A15・B15	⑩2				刻目突帯（D）／口辺約3cm横位ナデ、以下は縦位ナデ（粗）　輪積み痕	ナデ	10YR5/1 黒褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒多く含む　石含	突帯低平 外面炭化物付着
第61図25	縄文晩期	深鉢	5区	A15	⑩2				刻目突帯（O）／縦位ナデ（粗）	ナデ　指頭圧痕　輪積み痕	2.5YR5/1 黒褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒多く含む　石含	
第61図26	縄文晩期	深鉢	5区	A15・B15・B16	⑩2				刻目突帯（D）／縦位ナデ（粗）　輪積み痕	横位ナデ（粗）	10YR5/2 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒多く含む　石含	外面炭化物付着
第61図27	縄文晩期	深鉢	5区	A15	⑩2				刻目突帯（V）／口辺約2cm横位ナデ、以下は縦位ナデ（粗）	横位ナデ	10YR4/1 褐灰色	10YR5/2 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒多く含む	突帯低平
第61図28	縄文晩期	深鉢	5区	A15	⑩2				刻目突帯（V）／横位ナデ	横位ナデ	10YR5/1 褐灰色	10YR6/2 灰黄褐色	1mm以下の砂粒多く含む	突帯低平
第61図29	縄文晩期	深鉢	5区	A15	⑩2				刻目（刻突）突帯／口辺約1.5cm横位ナデ、以下は斜位ナデ　輪積み痕	横位ナデ　指頭圧痕　輪積み痕	10YR6/2 にぶい黄橙色	10YR6/2 にぶい黄橙色	1mm以下の砂粒やや多くごく少	刻突は管状工具による
第61図30	縄文晩期	深鉢	5区	A15	⑩2				刻目突帯（O）／縦位条痕→ナデ	口辺約4cm横位ナデ（粗）、以下は縦位条痕　輪積み痕	10YR6/2 灰黄褐色	10YR3/2 黒褐色	2mm以下の砂粒多く含む　石含	
第61図31	縄文晩期	深鉢	1区	B28	⑩2				刻目突帯（D）／横位ナデ（粗）	口縁近く指ハケ状痕（浅）／ナデ　指頭圧痕	10YR5/2 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	砂粒少　2mm大の礫を含む	内外面に径2mm以下の黒褐条色あり
第61図32	縄文晩期	深鉢	5区	A16	⑩2				刻目突帯（D）／ナデ	横位ナデ（粗）	7.5YR5/6 明褐色	10YR4/1 褐灰色	1mm以下の砂粒少量含む	外面炭化物付着
第61図33	縄文晩期	深鉢	5区	A15	⑩2				刻目突帯（O）／縦・斜位条痕→突帯近く横位ナデ	横位ナデ（粗）　輪積み痕	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR4/1 褐灰色	2mm以下の砂粒少量含む	内外面炭化物付着
第61図34	縄文晩期	深鉢	5区	A15・A16	⑩2				刻目突帯（V）／横位ナデ（粗）	ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/1 褐灰色	2mm以下の砂粒やや多くごく少　石含	
第61図35	縄文晩期	深鉢	5区	A15・A16・B16	⑩2				刻目突帯（D～O）／横位ナデ	横位ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/3 にぶい黄橙色	1mm以下の砂粒やや多くごく少　石含	外面炭化物付着
第61図36	縄文晩期	深鉢	5区	B15	⑩2				刻目突帯（V）／縦位条痕	ナデ　指頭圧痕	10YR5/1 褐灰色	10YR6/3 にぶい黄橙色	1mm以下の砂粒やや多くごく少	突帯低平 突帯上端に右って細く浅ハケ痕
第61図37	縄文晩期	深鉢	6区	A20	⑩2				刻目突帯（V）／ナデ	ナデ　輪積み痕	10YR6/2 にぶい黄褐色	10YR6/2 褐灰色	2mm以下の砂粒多く含む　石含	刻目工具浅か 内外面に径2mm以下の黒褐あり
第61図38	縄文晩期	深鉢	5区	B15	⑩2				刻目（刻突）突帯／ナデ	ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/3 にぶい黄橙色	1mm以下の砂粒やや多くごく少	
第61図39	縄文晩期	深鉢	5区	A15	⑩2				刻目突帯（D）／ナデ	ナデ　指頭圧痕	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR6/2 灰白色	1mm以下の砂粒多量含む　1～5mm礫含　5%含	
第61図40	縄文晩期	深鉢	5区	A16	⑩2				刻目突帯（D）／横位ナデ　輪積み痕	ナデ　指頭圧痕	10YR6/2 灰黄褐色	7.5YR4/1 褐灰色	2mm以下の砂粒多量含む　石含	内外面炭化物付着

挿図番号	時期	器種	地区	グリッド	法量 (cm) 口径	器高	底径	文様／調整 外面	内面	色調 外面	内面	胎土	備考
第61図16	縄文晩期	深鉢	5区	B14・B15	⑤2			刻目突帯(D～O)／ナデ		10YR7/2 にぶい黄橙色	2.5YR6/4 にぶい橙色	2mm以下の砂粒もやや多くふむ	赤褐顔者
第61図17	縄文晩期 ～ 弥生前期	壺？	5区		⑤2			刻目突帯(D～O)／ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多量ふむ	
第61図18	縄文晩期	深鉢	5区	B14・B15	⑤2			刻目突帯(D)／横位条痕→ナデ	ナデ	10YR5/1 褐灰色	10YR5/2 灰黄褐色	1mm以下の砂粒もやや多くふむ	
第61図19	縄文晩期	深鉢	5区	A16	⑤2			刻目突帯(V～O)	ナデ	10YR3/1 黒褐色	10YR5/3 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多量ふむ　石英含	外面炭化物付着
第61図1	縄文晩期	深鉢	5区	A15・B15・B16	⑤2			無刻目突帯／横位ナデ	横位ナデ	10YR5/3 にぶい黄橙色	10YR5/3 にぶい黄橙色	砂粒少	内外面炭化物付着
第61図2	縄文晩期	深鉢	5区	A15	⑤2			無刻目突帯／横位ナデ	口辺約2cm横位ナデ，以下は斜位ナデ	10YR5/2 にぶい黄橙色	10YR5/2 にぶい黄橙色	砂粒少	外面炭化物付着
第61図3	縄文晩期	深鉢	5区	C14	⑤2			無刻目突帯／ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒もやや多くふむ　石英やや多	
第61図4	縄文晩期	深鉢	5区	B16	⑤2			無刻目突帯／縦位条痕→双帯下ナデ	ナデ	10YR6/1 褐灰色	10YR5/3 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒もやや多くふむ　石英多	
第61図5	縄文晩期	深鉢	5区	B15・B16	⑤2			無刻目突帯／横位ナデ	横位ナデ　編隔ふ痕	10YR4/1 褐灰色	10YR5/2 にぶい黄橙色	砂粒少	
第61図6	縄文晩期	深鉢	5区	A15	⑤2			無刻目突帯／横位ナデ	横～斜位ナデ	10YR6/1 褐灰色	2.5Y7/1 灰白色	2mm以下の砂粒もやや多くふむ　石英多	
第61図7	縄文晩期	深鉢	5区	B14	⑤2			無刻目突帯／ナデ 突帯上下に沿開圧痕	ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多量ふむ　石英多	
第61図8	縄文晩期	深鉢	5区	B15	⑤2			無刻目突帯／ナデ	ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	2.5Y6/2 灰黄色	1mm以下の砂粒を多量ふむ　雲母・石英やや多	
第61図9	縄文晩期	深鉢	5区	A15	⑤2			無刻目突帯／横位ナデ	ナデ	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/3 浅黄色	2mm以下の砂粒をやや多くふむ　雲母・石英やや多	
第61図20	縄文晩期	深鉢	5区	A16	⑤2			無刻目突帯　押圧文／横位ナデ	ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多量ふむ　石英多	外面炭化物付着
第61図11	縄文晩期	深鉢	5区	A15・B15・B16	⑤2			無刻目突帯／縦位ナデ(B)→双帯上下に沿開圧痕 編隔ふ痕	横位ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR5/1 褐灰色	2mm以下の砂粒を多量ふむ　石英多	
第61図12	縄文晩期	深鉢	5区	A15・B15・B16	⑤2			刻目突帯ケ／突帯下約2cm横位ナデ，以下は縦位ナデ　編隔ふ痕	横位ナデ　編隔ふ痕	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒をやや多くふむ　石英やや多	外面炭化物付着
第61図13	縄文晩期	浅鉢	5区	A15	⑤2	24.00		横走平行沈線／ナデ	ナデ	2.5YR5/1 灰白色	2.5YR5/1 灰白色	砂粒少 2mm以下礫混	
第61図14	縄文晩期	浅鉢	5区	B14	⑤2			沈線によるレンズ状意匠／ナデ	ナデ	2.5Y4/1 黒灰色	2.5Y5/1 黒灰色	砂粒少 2mm以下礫混	
第61図15	縄文晩期	浅鉢	5区	A15・A16・B16	⑤2			沈線によるレンズ状意匠／ナデ	横位ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/1 褐灰色	2mm以下の砂粒をやや多くふむ	外面炭化物付着
第61図16	縄文晩期	浅鉢	5区	A16	⑤2			沈線によるレンズ状意匠／ナデ	ナデ	10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/1 褐灰色	2mm以下の砂粒をやや多くふむ	外面炭化物付着
第61図17	縄文晩期	浅鉢	5区	B14	⑤2			沈線によるレンズ状意匠／ナデ	ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多量ふむ	
第61図18	縄文晩期	浅鉢	6区		⑤2			横走平行沈線　円形押圧文／くしがき	くしがき	2.5YR4/1 黒色	2.5YR5/1 黒褐色	1mm以下の砂粒をやや多くふむ	沈線内赤彩の痕跡あり 外面炭化物付着
第61図19	縄文晩期	浅鉢	5区	B15・B16	⑤2			横走平行沈線　列点文／ナデ	横位ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/1 灰白色	砂粒少	外面炭化物付着
第61図20	縄文晩期	鉢	5区	B15	⑤2			口外帯　連続工によるレンズ状意匠 同心円(高杯)文／くしがき	くしがき	10YR5/2 にぶい黄橙色	10YR3/3 暗褐色	2mm以下の砂粒を多量ふむ　石英・角閃石多	赤彩の痕跡あり 口と同一個体
第61図21	縄文晩期	鉢	5区	B15	⑤2			同心円(高杯)文		10YR5/2 灰黄褐色	5YR3/1 黒褐色		赤彩の痕跡あり 口と同一個体
第61図22	縄文晩期		5区	B15	⑤2			横走平行沈線／ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	砂粒少	赤褐顔者
第61図23	縄文晩期	浅鉢	6区	A23	⑤2			沈線／ナデ	ナデ	10YR6/2 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	1mm以下の砂粒を多量ふむ	
第61図24	縄文晩期	浅鉢	5区	A16	⑤2			斜行沈線／ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多量ふむ	

検出番号	時期	遺構	地区	グリッド	法量 (cm) 口径	器高	底径	文様・調整 外面	内面	色調 外面	内面	胎土	備考
第6図25	縄文晩期	溝跡	5K	C-13	10-2			橫走竹管状工具による縄文・櫛状沢痕、列点文／ナデ(板)	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒もやや多く含む 金雲母	
第6図26	縄文晩期	溝跡	5K	C-13・D-13	10-2			橫条平行沈線文／横位ナデ	横位ナデ	7.5YR6/3 にぶい橙色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒もやや多く含む	
第6図27	縄文晩期	溝	5K	A-15・A-16・B-16	10-2			橫条平行沈線／斜位ナデ	横位ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR5/1 黒褐色	2mm以下の砂粒を多く含む	
第6図28	縄文晩期	溝跡	5K	B-14・B-15	10-2			縄目条痕	横位条痕→ナデ	10YR6/1 褐灰色	10YR5/1 褐灰色	2mm以下の砂粒を多く含む 6 粒～雲母多	
第6図29	縄文晩期	溝跡	5K	A-15	10-2			斜位条痕	横位条痕(二次沢)	10YR6/2 にぶい黄橙色	10YR4/1 褐灰色	2mm以下の砂粒を多く含む 6 粒～雲母多	内外面炭化物付着
第6図30	縄文晩期	溝跡	5K		10-2			斜位条痕	横位条痕	10YR4/1 褐灰色	10YR6/3 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒もやや多く含む 6 粒～雲母多	外面炭化物付着
第6図31	縄文晩期	溝跡	5K	I-1K	B-20	10-2		斜位条痕	横位条痕→ナデ	10YR5/3 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒をやや多く含む 6 粒～雲母やや多	内外面炭化物付着
第6図32	縄文晩期	溝跡	5K	A-15・B-15・B-16	10-2			斜位条痕	横位条痕→ナデ	10YR5/3 にぶい黄橙色	10YR5/3 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒をやや多く含む 6 粒～雲母やや多	外面炭化物付着
第6図33	縄文晩期	溝跡	5K	C-14	10-2			斜位条痕→ナデ	横位条痕(二次沢)→ナデ	10YR4/1 褐灰色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多く含む 6 粒～雲母やや多	内面炭化物付着
第6図34	縄文晩期	溝跡	5K	B-14・B-15	10-2			横位条痕→ナデ	横位条痕(二次沢)	10YR6/2 灰白色	10YR6/3 浅黄橙色	2mm以下の砂粒を多く含む 6 粒～雲母多	
第6図35	縄文晩期	溝跡	5K	I-1K	B-20	10-2		斜～斜位条痕	横位条痕(二次沢)	10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/2 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多く含む 6 粒～雲母多	外面炭化物付着
第6図36	縄文晩期	溝跡	6K	A-23	10-2			縄位条痕	ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多く含む 6 粒～雲母多	
第6図37	縄文晩期	溝跡	5K	A-15・B-15・B-16	10-2			口辺約4.0cm横位条痕、以下、縄位条痕	ナデ 稜線3条	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多く含む 6 粒～雲母多	外面炭化物付着
第6図1	縄文晩期	溝跡	5K	A-15・A-16・B-16	10-2			口辺約3.0cm横位ナデ(板)、以下、縄位条痕	斜位ケズリ→ナデ	7.5YR6/6 橙色	10YR6/2 灰黄褐色	1mm以下の砂粒をやや多く含む	
第6図2	縄文晩期	溝跡	5K	B-15・B-16	10-2			斜位条痕	横位条痕	10YR4/1 褐灰色	10YR6/2 灰黄褐色	1mm以下の砂粒をやや多く含む 6～8.5粒やや多	外面炭化物付着 3と同一個体
第6図3	縄文晩期	溝跡	5K	B-15・B-16	10-2			斜位条痕	横位条痕	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/3 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多く含む 6 粒～雲母多	2と同一個体
第6図4	縄文晩期	溝跡	5K	B-15・B-16・C-15・C-16	10-2			縄位条痕	縄位条痕	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/3 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多く含む 6 粒～雲母多	
第6図5	縄文晩期	溝跡	5K	A-15	10-2			斜位条痕	横位ナデ	N3/ 暗灰色	N3/ 暗灰色	砂粒少 雲母多	内外面炭化物付着
第6図6	縄文晩期	溝跡	5K	A-15・B-15・B-16	10-2			横位条痕	横位条痕→ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多く含む 6 粒～雲母多	
第6図7	縄文晩期	溝跡	5K	C-15	10-2			斜位条痕	ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR7/2 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多く含む 6 粒～雲母多	
第6図8	縄文晩期	溝跡	5K	B-15・B-16	10-2			縄位条痕(二次沢)→口辺約1.5cm以下横位ナデ(板)	横位ナデ	10YR6/1 褐灰色	10YR5/1 褐灰色	砂粒少	
第6図9	縄文晩期	溝跡	5K	A-15・B-15・B-16	10-2			口縁部押圧よりやや斜状／縄位条痕→口辺約4.0cm横～斜位ナデ(板)	横～斜位ナデ(板)	2.5Y6/1 黄灰色	10YR7/2 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多く含む	外面炭化物付着
第6図10	縄文晩期	溝跡	5K	C-14	10-2			口辺約6.5cm横位ナデ、以下縄位条痕	横位ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/2 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	外面炭化物付着
第6図11	縄文晩期～弥生前期	溝跡	6K	A-20	10-2			横位条痕	口辺約1.5cm横位ナデ、以下斜位条痕(二次沢)	2.5YR7/1 明灰色	10YR7/2 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多く含む 6 粒～雲母多	外面炭化物付着
第6図12	縄文晩期～弥生前期	溝?	5K	B-15・B-16	10-2			横位条痕→ナデ		2.5YR6/2 灰黄色	10YR6/2 灰黄褐色	1mm以下の砂粒をやや多 6粒やや多	
第6図13	縄文晩期～弥生前期	溝跡	5K	B-15・B-16	10-2			横～斜位条痕→口辺約1.5cmナデ	横位条痕→ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多く含む 6 粒～雲母多	
第6図14	縄文晩期～弥生前期	溝跡	5K	A-15	10-2			粗目口縁 ナデ	ナデ 指頭圧痕	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/3 褐灰色	1mm以下の砂粒を多く含む	
第6図15	縄文晩期～弥生前期	溝跡	5K	A-15・B-15・B-16	10-2			横位条痕→ナデ	横位条痕→ナデ	2.5YR5/3 黒褐色	10YR7/2 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多く含む 6 粒～雲母多	

検出番号	時期	器種	地区	グリッド	出土地	法量（cm）口径	器高	底径	文様・調整 外面	内面	色調 外面	内面	胎土	備考
第6図第1	縄文後期～晩期	深鉢	5区	A15・A16・B16	ⅢⅡ				斜位条痕→縦位条痕	斜～横位ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む　石と同一個体	
第6図第2	縄文後期～晩期	深鉢	5区	A15・B15・B16	ⅢⅡ				横～斜位条痕→縦位条痕	斜位ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む　6と同一個体	
第6図第3	縄文後期～晩期	深鉢	5区	A15・B15・B16	ⅢⅡ				斜位条痕→横位ナデ　幅隆帯	斜～横位ナデ	10YR5/1 黒褐色	10YR7/3 浅黄色	2mm以下の砂粒を多量含む　石と同一個体	
第6図第4	縄文後期～晩期	深鉢	6区	A20	ⅢⅡ				斜位条痕（二枚貝）	斜位条痕→縦位条痕	10YR6/2 灰黄褐色	10YR5/1 褐灰色	2mm以下の砂粒を多量含む　石と同一個体	
第6図第5	縄文後期～晩期	深鉢	5区	A15	ⅢⅡ				縦位ナデ→強凹横位ナデ→一部縦位条痕　幅隆帯	横位ナデ(粗)　幅隆帯	10YR7/2 にぶい黄橙色	7.5YR6/3 灰黄色	3mm以下の砂粒を多量含む　石と同一個体	
第6図第6	縄文後期～晩期	深鉢	5区	A15	ⅢⅡ				縦位条痕	縦位条痕（二枚貝）→斜位ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR6/1 灰褐色	2mm以下の砂粒を多量含む　外面炭化物付着	外面炭化物付着
第6図第7	縄文後期～晩期	深鉢	6区	A20	ⅢⅡ				縦位条痕（二枚貝）	斜位ナデ(粗)	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/2 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多量含む　石と同一個体	
第6図第8	縄文後期～晩期	深鉢	5区	C14	ⅢⅡ				縦位条痕	横位ナデ	10YR4/1 褐灰色	10YR5/1 黒褐色	1mm以下の砂粒を多量含む　内外面炭化物付着	内外面炭化物付着
第6図第9	縄文後期～晩期	深鉢	5区	A15・A16・B16	ⅢⅡ				斜位条痕	縦位・斜位ナデ(粗)　幅隆帯痕	10YR4/1 褐灰色	10YR6/3 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多量含む　石と同一個体	外面炭化物付着 25・26と同一個体
第6図第10	縄文後期～晩期	深鉢	5区	A15・A16・B16	ⅢⅡ				横位・斜位条痕	斜位ナデ　幅隆帯	10YR4/1 褐灰色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む　石と同一個体	外面炭化物付着 21・26と同一個体
第6図第11	縄文後期～晩期	深鉢	5区	A15・B15・B16	ⅢⅡ				斜位条痕	斜～縦位ナデ(粗)　幅隆帯	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む　石と同一個体	外面炭化物付着 21・25と同一個体
第6図第12	縄文後期～晩期	壺	5区	C14	ⅢⅡ				隆・横位条痕（二枚貝） 94・縦位刺突条痕（二枚貝）	ナデ?	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多量含む　石と同一個体	
第6図第13	縄文後期～晩期	深鉢	5区	C14	ⅢⅡ				斜位条痕（二枚貝）	縦位ナデ　強い横位ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多量含む　石と同一個体	
第6図第14	縄文後期～晩期	深鉢	6区	A22	ⅢⅡ				横位条痕（二枚貝）	横位ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多量含む　石と同一個体	
第6図第15	縄文後期～晩期	深鉢	5区	A15	ⅢⅡ				斜位条痕（二枚貝）	斜位ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む　石と同一個体	
第6図第16	縄文後期～晩期	深鉢	5区	A15・A16・B16	ⅢⅡ				縦位条痕	斜位ナデ	10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む　石と同一個体	
第6図第17	縄文後期～晩期	深鉢	5区	A15	ⅢⅡ				ナデ	ナデ　指隆帯痕　幅隆帯痕	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/3 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多量含む　石と同一個体	外面炭化物付着
第6図第1	縄文後期～晩期	壺	6区	B25	ⅢⅡ				押圧突帯／横位条痕（二枚貝）→ナデ	横位条痕→ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	5.YR3/1 黒褐色	2mm以下の砂粒を多量含む　石と同一個体	内外面に煤2mm以下の黒褐色斑あり　2～6と同一個体
第6図第2	縄文後期～晩期	壺	6区	B25	ⅢⅡ				横位条痕（二枚貝）	横位ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	5.YR7/4 浅黄色	2mm以下の砂粒を多量含む　石と同一個体	1・3～6と同一個体
第6図第3	縄文後期～晩期	壺	6区	B25	ⅢⅡ				横位条痕（二枚貝）	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む　石と同一個体	1・2・4～6と同一個体
第6図第4	縄文後期～晩期	壺	6区	B25	ⅢⅡ				横位条痕（二枚貝）	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多量含む　石と同一個体	1～3・5・6と同一個体
第6図第5	縄文後期～晩期	壺	6区	B25	ⅢⅡ				横位条痕（二枚貝）	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多量含む　石と同一個体	1～4・6と同一個体
第6図第6	縄文後期～晩期	壺	6区	B25	ⅢⅡ				横位条痕（二枚貝）	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多量含む　石と同一個体	1～5と同一個体
第6図1	弥生後期	甕	1区		ⅢⅡ				横走平行沈線4条	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多量含む	調整不明瞭
第6図2	弥生後期	壺	5区	C14	ⅢⅡ				刺突突帯ケノ?ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む	調整不明瞭
第6図3	弥生後期	壺	6区	A20	ⅢⅡ				横走沈線　段ノハケ→ナデ	ハケ→ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を中量含む	
第6図4	弥生中期	壺	5区	D14	ⅢⅡ				櫛状直線文	ハケ・指頭圧痕	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	1mm以下の砂粒を中量含む	調整不明瞭
第6図5	弥生後期～中期	無頸壺	5区	C14	ⅢⅡ	11.40			ナデ	ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	2mm以下の砂粒を多量含む　石と同一個体	胴部に円孔2箇所あり　内外面に煤2mm以下の黒褐色斑あり

整理番号	時期	器種	地区	グリッド	法量 (cm) 口径	器高	底径	文様・調整 外面	内面	色調 外面	内面	胎土	備考
第56図11	弥生後期～中期	壺	6区	B-D5	⑤2	24.00		ナデ・突帯	ミガキ	2.5YR/2 暗灰黄色	2.5YR/3 黒褐色	2mm以下の砂粒を中量含む 雲母	突帯は正面西内外面に径2mm以下の黒褐色粒あり
第56図12	縄文後期		5区	A-D15・B-D16	⑤2			丸底	横：縦位ナデ(粗) 底：横位ケズリ→ナデ	ナデ	10YR/2 灰黄褐色	10YR/6 灰黄色	2mm以下の砂粒を多量含む
第56図13	縄文後期～弥生後期	深鉢	5区	A-D15・A-D16	⑤2	8.65		横：縦位条痕→横位ナデ 底：ナデ	ナデ	10YR/1 褐灰色	2.5Y/1 黄灰色	2mm以下の砂粒を中量含む 石英・雲母多	
第56図14	縄文後期～弥生後期	深鉢	5区	C-D4	⑤2	6.40		横：横位ナデ 底：ナデ 指圧痕底面	ナデ	10YR/1 褐灰色	10YR/5 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を中多く含む 雲母・砂粒含む	
第56図15	縄文後期～弥生後期	深鉢	5区	A-D6	⑤2	6.30		横：縦位条痕→横位ナデ 底：ナデ	横：縦位条痕	10YR7/2 にぶい黄橙色	2.5Y/1 灰白色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英・雲母多	
第56図17	縄文後期～弥生後期	深鉢	5区	A-D6	⑤2	5.85		横：縦位ナデ(粗)→横位ナデ 底：ナデ	ナデ	10YR/2 灰黄褐色	10YR/5 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を中多く含む 2mm以下の石含む	
第56図18	縄文後期～弥生後期	深鉢	5区	C-D4	⑤2	6.40		横：縦位条痕→横位ナデ 底：ナデ	ナデ	10YR/3 にぶい黄褐色	10YR/1 褐灰色	2mm以下の砂粒を中多く含む 石英・雲母多	
第56図19	縄文後期～弥生後期	深鉢	5区	A-D6	⑤2	7.60		横：指圧・縦位条痕→ナデ 底：ナデ	ナデ	10YR/2 にぶい黄褐色	10YR/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英・雲母多	
第56図20	縄文後期～弥生後期	深鉢	5区	A-D15・B-D16	⑤2	7.70		横：ナデ 底：ナデ	ナデ	10YR7/1 灰白色	10YR7/2 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英・雲母多	
第56図21	縄文後期～弥生後期	深鉢	5区	B-D6	⑤2	7.00		横：指圧条痕→ナデ 底：ナデ	横：指圧条痕→ナデ	2.5Y/1 黄灰色	2.5Y/2 灰黄色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英・雲母多	
第56図22	縄文後期～弥生後期	深鉢	5区	B-D5	⑤2	6.80		横：横位条痕→ナデ 底：ナデ	ナデ 指圧痕底面	2.5YR/3 暗赤	2.5YR/3 暗褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英多	
第56図23	縄文後期～弥生後期	深鉢	5区	B-D6	⑤2	7.60		横：指圧条痕→横位ナデ 底：ナデ	横：指圧条痕 底：ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙色	2.5Y/2 灰黄色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英・雲母多	
第56図24	縄文後期～弥生後期	壺	6区	A-D2	⑤2	11.00		横：横位ナデ 底：ナデ	ナデ	10YR/3 にぶい黄橙色	10YR/3 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英中多	
第56図25	縄文後期～弥生後期	深鉢	5区	C-D2	⑤2	8.80		横：ナデ 底：ナデ	ナデ	2.5YR/3 にぶい赤色	10YR/3 にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英多	
第56図26	縄文後期～弥生後期	深鉢	5区	A-D6	⑤2	5.20		ナデ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	4mm以下の砂粒を中多く含む 石英中多	底部穿孔,途中
第56図8	縄文後期	深鉢	7区	L-M-D16	⑤90			円形貼付文 沈線 刺突文	ナデ	2.5YR/N 暗赤	2.5YR/6 橙色	2mm以下の砂粒を中多く含む 石英・雲母・砂粒中多	円形貼付文一次剥落
第57図1	縄文後期	浅鉢	3区	N-15	遺物出土量中 他点	35.00		口縁部小突起 同心円(粗)文 横走沈線帯(縄文)&交沈/ナデ ミガキ?		10YR7/2 にぶい黄橙色	2.5Y/2 灰黄色	1mm以下の砂粒を中中多く含む	円形貼付文
第57図2	縄文後期	浅鉢	3区	N-12	遺物出土量中 他点			直線沈線区(垂下?) 垂下鋸状沈線 横走沈線帯(縄文)&交沈/ナデ	ナデ	2.5YR/6 明赤橙色	7.5YR/6 明橙色	1mm以下の砂粒を中中多く含む	外面剥離顕著 コ～ミと同一個体
第57図3	縄文後期	浅鉢	3区	N-15	遺物出土量中 他点			横走沈線帯(縄文)&交沈/ナデ	ナデ	2.5YR/6 明赤橙色	2.5YR/4 暗赤	1mm以下の砂粒を中中多く含む	外面剥離顕著 2・3と同一個体
第57図4	縄文後期	浅鉢	3区	N-12	遺物出土量中 他点			垂下鋸状沈線 横走沈線帯(縄文)&交沈/ナデ	ナデ	2.5YR/6 明赤橙色	2.5YR/4 暗赤	1mm以下の砂粒を中中多く含む	外面剥離顕著 2・3と同一個体
第70図	縄文後期	浅鉢	6区	D-D5	遺構面上			浮線文によるレンズ状意匠	ナデ	5YR/1 黒色	10YR/4 にぶい黄橙色	1mm以下の砂粒を多量含む	鉄錆顕著

第５表　土器観察表２（弥生時代後期以降の土器・陶磁器）

【凡例】底部には、高台部・脚部も含む。なお、高台部は接地面で、平高台は外縁部より計測している。底面の調整は、蓋・高坏・器台以外の、高台を含む底部外面の調整を記載している。
残存率は、12分割した断面行よび蓋部器径を基にて計測している。

検出番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量（cm）				残存率（1/12）	調整・文様			色調		焼成	粘土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第42図1	弥生土器	高坏	6区	C22	SB1	36.00			6.96		ナデ	ナデ		10R7/4 にぶい橙色	2.5YR6/4 にぶい橙色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第42図2	弥生土器	壺	6区	C22	SB2 SP36-10	14.00			6.70		ナデ・ハケ	ナデ		10YR6/2 にぶい黒褐色	7.5YR6/2 にぶい黒褐色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第42図3	弥生土器	壺	6区	C22	SB1・2 SB6	15.00			1.30		ナデ	ナデ		10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第42図4	弥生土器	高坏	6区	C22	SB1・2 SB6						ハケ	シボリ		10R7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第42図5	弥生土器	蓋	6区	C22	SB1・2 SB6						ナデ	ナデ		7.5YR6/3 浅黄橙色	7.5YR6/3 浅黄橙色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第42図7	弥生土器	甕	6区	B19	SB4 SB9	21.00			6.70		櫛描波状沈文・縦突刺点文			2.5Y5/3 黄橙色	5Y6/3 灰オリーブ色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第42図8	弥生土器	甕	6区	B19	SB5 SB6	26.00			6.80		櫛目圧痕			7.5YR6/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第42図9	弥生土器	甕	6区	B16・B19	SB5 SB7	17.00			1.60		ナデ・ハケ・櫛目痕・縦突刺点文	ナデ・ケズリ		10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR6/2 灰白色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第42図10	弥生土器	高坏	6区	B16・B19	SB5 SB7						くびれ	シボリ		7.5YR7/3 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	脚部は円孔を有する 調整不明瞭
第42図11	土師器	甕	2区	M11・M12	SB13 SB65						ナデ・ハケ	ナデ・ハケ		7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/2 にぶい黄橙色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第42図12	土師器	甕	2区	D20	SB7 SP32-2						ハケ			7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第42図13	弥生土器	高坏	2区	D20	SB8 SP33-1									10R6/6 橙色	10R6/6 橙色	小々不良	2mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第42図14	弥生土器	甕	2区	D20	SB8 SP38-4						ナデ・刷み目文	ナデ		10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR6/2 灰白色	小々不良	3mm以下の砂粒を多量に含む	
第42図15	須恵器	壺形	4区	J 3	SB18 SP16-5			8.80		1.40			回転ナデ	N6/ 灰色	2.5Y6/1 黄灰色		3mm以下の砂粒を少量含む	
第42図16	弥生土器	壺	5区	G15	SB23 SP36-41	14.00			1.40		ナデ・ハケ・櫛目痕	ナデ		7.5YR7/3 にぶい橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第42図17	須恵器	蓋	4区	H 7	SB19 SP111-6	11.00	2.80		6.40		回転ハラケズリ・回転ナデ	回転ナデ		N6/ 灰色	N7/ 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第42図18	須恵器	蓋	4区	H 7	SB19 SP111-3						回転ナデ	回転ナデ		N5/ 灰色	N5/ 灰色	小々不良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第42図19	須恵器	壺	4区	H 7	SB19 SP111-1	10.00	4.20	4.60	6.30	2.30	回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ	ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第44図1	土師器	皿	5区	K14	SE1 SP2150	8.00	1.30	6.50	1.00	2.10	マウンナデ	マウンナデ		10R7/4 にぶい橙色	10R7/4 にぶい橙色	小々良	1mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第44図2	土師器	皿	5区	K15	SE1 SP2176	8.00	1.30	6.00	1.00	2.40	マウンナデ	マウンナデ	指頭圧痕	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	小々良	1mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第44図3	土師器	皿	5区	K15	SE1 SP2176	12.00	2.40	8.00	1.30	2.30	マウンナデ	マウンナデ		10R6/3 にぶい黄橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	小々良	1mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第44図4	土師器	皿	5区	K15	SE1 SP2176	12.00	2.70		2.00		マウンナデ	マウンナデ		7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	小々良	2mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第44図5	土師器	皿	5区	K14	SE1 SP2171	12.00	2.30	8.00	1.00	2.00	マウンナデ	マウンナデ		10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	小々良	1mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第44図6	土師器	皿	5区	K15	SE1 SP2176	16.00	2.20	6.00	6.40	3.70	マウンナデ	マウンナデ		7.5YR7/3 にぶい橙色	7.5YR6/3 にぶい橙色	小々良	2mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第44図7	土師器	皿	5区	K15	SE1 SP2176	12.30	3.50	10.00	10.50	12.00	マウンナデ	マウンナデ・指頭圧痕	指頭圧痕	10YR6/4 浅黄橙色	10YR6/3 浅黄橙色	小々良	3mm以下の砂粒を少量含む	

調査番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			残存率 (%)		調整・文様			色調		焼成	粘土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第44図-12	縄文期	外	3区	N10	第1						回転ナデ	回転ナデ		5G/灰色	5Y/灰色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第44図12	土師器	皿	3区	N10	第1	9.00	1.30	6.00	2.60	2.60	マワシナデ	マワシナデ	指圧痕	10YR7/2にぶい黄橙色	10YR6/3にぶい黄橙色	やや良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第44図14	須恵器	壺	3区	O13	第2			7.40		12.00	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	5PB6/1青灰色	5PB6/1青灰色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第44図15	須恵器	壺	3区	O13	第2			11.50		5.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ナデ・ナデ・指圧痕	5G/灰色	5G/灰色	良	10mm以下の砂粒を少量含む	
第44図20	陶磁器	椀	7区	N9	第62	9.60		4.20		12.00	回転ナデ	回転ナデ		鼠版 5G/灰白色 釉薬 5.0Y/灰白色		良	2mm以下の砂粒を少量含む	灰色釉に若干文 広部釉・高台外釉に薄緑を保く
第44図21	土師器	皿	4区	I 7	SP135	12.00	2.10	9.60	3.70	3.50	マワシナデ	マワシナデ	指圧痕	10YR6/2灰黄褐色	10YR5/1褐灰色	やや良	1mm以下の砂粒を少量含む	口縁部に白芯痕跡あり
第44図22	須恵器	平瓶	4区	I 2・M 2	O3.9	6.70			3.90	5.00	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ		5G/灰色	5G/灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第44図23	弥生土器	高杯	4区	I 4	SK13							シボリ・ハケ		7.5YR7/6橙色	7.5YR7/6橙色	やや不良	2mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第44図24	弥生土器	甕	4区	K 4・K 5	O3.0	31.00			5.00		ナデ・ハケ・櫛描直線文・櫛描斜交列点文	ナデ・ケズリ		10YR6/3にぶい黄橙色	10YR6/2灰黄褐色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第44図25	縄紋	甕	4区	I 7	SP135						ナデ・花押状刻目文	ナデ		7.5YR6/2灰黄褐色	10YR5/6黄赤褐色	良	6mm以下の砂粒を少量含む	
第46図1	須恵器	坏蓋	3区	G11・H11	SD1	12.10	3.40		5.50		回転ヘラ切り・回転ナデ・横撫	回転ナデ		10Y/1灰色	5Y/1灰白色	やや良	4mm以下の砂粒を少量含む	蓋裏
第46図2	須恵器	坏蓋	3区	G11・H11	SD1	12.80	3.05		4.20		回転ナデ	回転ナデ		5Y/灰白色	5G/灰色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第46図3	須恵器	坏蓋	3区	G13	SD1	12.80	3.05		6.60		回転ヘラ切り・回転ナデ・横撫	回転ナデ		5G/灰色	5G/灰色	やや良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第46図4	須恵器	坏蓋	3区	G14	SD1	12.00	3.75		5.70		回転ヘラ切り・回転ナデ・横撫	回転ナデ		5PB5/1青灰色	5PB5/1青灰色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	焼き歪みあり
第46図5	須恵器	坏蓋	3区	G12	SD1	11.80	2.60		1.20		回転ヘラ切り・回転ナデ	回転ナデ		5G/灰色	5G/灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第46図6	須恵器	坏蓋	3区	G11・H11	SD1	12.80	2.80		6.20		回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	回転ナデ・ナデ		7.5Y6/1灰色	7.5Y6/1灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第46図7	須恵器	坏蓋	2区	E20	SD1	11.80	3.75		6.20		回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	回転ナデ・ナデ		5G/灰色	5G/灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第46図8	須恵器	坏蓋	3区	G11・H11	SD1	10.50	2.95		6.60		回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	回転ナデ		5Y/灰色	5G/灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第46図9	須恵器	坏蓋	3区	G11	SD1	8.24	2.40		11.50		回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	回転ナデ・ナデ		5Y/灰白色	5G/灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第46図10	須恵器	坏蓋	3区	G11・H11	SD1	10.10	3.30		5.60		回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	回転ナデ		5G/灰色	5G/灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第46図11	須恵器	坏蓋	3区	G11・H11	SD1	10.20	2.90		1.30		回転ヘラ切り・回転ナデ	回転ナデ		5G/灰色	5Y7/灰白色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第46図12	須恵器	坏蓋	3区	G12・H12	SD1	10.00	3.15		5.20		回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	回転ナデ		7.5Y5/1灰色	7.5Y6/1灰色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第46図13	須恵器	坏蓋	3区	G12・H12	SD1	10.30	2.40	3.50	1.80	12.00	回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	回転ナデ	ナデ	7.5Y5/1灰色	7.5Y6/1灰色	やや良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第46図14	須恵器	坏蓋	4区	F 8・G 8	SD1						回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ		10Y/1灰白色	5Y7/1灰白色	不良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第46図15	須恵器	坏蓋	3区	G14	SD1	9.80			4.00		回転ナデ	回転ナデ		10Y/1灰色	10Y/1灰色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第46図16	須恵器	坏蓋	3区	G13	SD1	13.30	2.65	10.80	1.80	3.50	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	7.5Y5/1灰色	7.5Y5/1灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	

挿図番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			残存率(/12)		調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第40図17	須恵器	甕分類	2区	F20	SD 1 a	32.00	3.00	7.60	3.00	7.60	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5BG/1 青灰色	5BG/1 青灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第40図18	須恵器	甕分類	2区	F20・F20	SD 1 a	32.40	3.30	7.50	4.90	6.80	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5BG/1 青灰色	5BG/1 青灰色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第40図19	須恵器	甕分類	3区	G12・H12	SD 1	31.40	3.00	6.60	6.00	7.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	9/6/ 灰色	9/6/ 灰色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第40図20	須恵器	甕分類	2区	F20・F20	SD 1 a	32.40	4.05	7.50	4.00	5.30	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り	5Y/ 灰白色	5Y/ 灰色	かやき良	3mm以下の砂粒を少量含む	焼き歪みあり
第40図21	須恵器	甕分類	3区	G14・H14	SD 1	31.00	3.25	7.50	3.40	12.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5G/ 灰色	5G/ 灰色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	焼き歪みあり
第40図22	須恵器	甕分類	2区	F20	SD 1 a	33.20	3.90	8.00	1.30	12.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ・指頭圧痕	10B/1 灰色	10B/1 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第40図23	須恵器	甕分類	3区	G14	SD 1	32.00	3.60	7.50	3.00	6.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5G/ 灰色	5B/ 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第40図24	須恵器	甕分類	3区	G13・H13	SD 1	32.00	3.90	6.00	4.30	7.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5G/ 灰色	5G/ 灰色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第40図25	須恵器	甕分類	3区	G14・H14	SD 1	33.60	3.70	8.00	2.30	12.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	7.5YR/1 灰色	7.5YR/1 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	焼き歪みあり
第40図26	須恵器	甕分類	2区	F19	SD 1 a	33.00	3.70	7.70	2.60	9.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5G/ 灰色	5B/ 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第40図27	須恵器	甕分類	3区	G14	SD 1	33.00	2.90	6.60	1.30	6.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	9/6/ 灰色	9/6/ 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第40図28	須恵器	甕分類	3区	G14・H14	SD 1	32.60	3.05	7.00	4.40	8.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5G/ 灰色	5G/ 灰色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第40図29	須恵器	甕分類	3区	G14	SD 1	30.00	3.10	6.60	2.60	6.70	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5G/ 灰色	5G/ 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第40図30	須恵器	甕分類	3区	G13	SD 1	31.20			3.70		回転ナデ	回転ナデ		10YR/1 黒灰色	7.5Y/1 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第40図31	須恵器	甕分類	3区	G13	SD 1	9.40	4.00	7.60	4.70	5.40	回転ナデ	回転ナデ	回転ケズリ	5Y/ 明灰色	9/6/ 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第40図32	須恵器	甕分類	3区	G12・H12	SD 1	8.00	3.10	4.60	6.50	5.00	回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5G/ 灰色	5Y/ 灰色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第40図33	須恵器	坏	3区	G12	SD 1	8.20	3.30	5.00	3.00	10.30	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・板目痕	5G/ 灰色	9/6/ 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第40図34	須恵器	坏	3区	G12	SD 1	8.60	3.20	6.00	2.20	12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	9/6/ 灰色	9/6/ 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第40図35	須恵器	坏	1区	E25	SD 1 表土	11.60			5.60		回転ナデ	回転ナデ		5G/ 灰色	5Y/ 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第40図36	須恵器	坏	3区	G12	SD 1	9.00	3.22	4.60	6.30	2.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5G/ 灰色	9/6/ 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第40図37	須恵器	有台坏	3区		SD 1	16.00	5.20	10.20	5.20	6.20	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ	9/6/ 灰色	9/6/ 灰色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第40図38	須恵器	有台坏	3区	G14・H14	SD 1	16.40	4.40	10.70	4.80	1.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	9/6/ 灰色	9/6/ 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第40図39	須恵器	有台坏	3区	G13	SD 1	15.80	4.75	8.70	2.10	3.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	10B/1 灰色	9/6/ 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第40図40	須恵器	有台坏	2区	F20・F20	SD 1 a	16.30	4.25	7.00	6.30	7.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	9/6/ 灰色	N7/ 灰白色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第40図41	須恵器	有台坏	3区	H11	SD 1	16.00	5.60	8.00	3.00	4.00	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	2.5YR/1 黒灰色	5Y/ 灰色	良	6mm以下の砂粒を少量含む	
第40図42	須恵器	有台坏	2区	G19	SD 1 a			9.00		0.50	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ	7.5YR/1 灰色	2.5GY6/1 灰オリーブ色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	

検出番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			残存率(/12)		調整・文様			色調		焼成	粘土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第40図43	縄文器	弥生甕	5区	G11	SD1	13.80	3.80	9.20	2.40	1.10	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ	5G/灰色	5G/灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第40図44	縄文器	弥生甕	5区	G11	SD1	15.00	2.90	9.60	2.90	12.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	5G/灰色	5G/灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第40図45	縄文器	弥生甕	5区	G12	SD1	15.00	4.05	10.00	1.40	5.80	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	5G/灰色	5G/灰色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第40図46	縄文器	弥生甕	2区	F20	SD1 a			10.10		3.90	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ	7.5YR/5 灰白色	7.5YR/1 灰白色	やや不良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第40図47	縄文器	弥生甕	5区	G14・I314	SD1	13.70	3.60	10.20	10.20	11.30	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ケズリ	10G/1 灰色	10G/1 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	底部内面に「十」のヘラ記号
第40図48	縄文器	甕	2区	E20・F20	SD1 a	17.10	3.65			5.30	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・ナデ		9G/灰色	9G/灰色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第40図49	縄文器	甕	5区	G11・I314	SD1	17.10				3.90	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・ナデ		5G/灰色	5Y/灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第40図50	縄文器	甕	5区	G14・I314	SD1	17.80				2.10	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・ナデ		9G/灰色	5Y/灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第40図51	縄文器	甕	2区	F19・G19	SD1 a	17.60				7.30	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ		5G/灰色	5G/灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	強き悪みあり
第40図52	縄文器	甕	2区	E20・F20	SD1 a	17.80	2.60			2.40	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・ナデ		5Y/灰白色	7.5YR/1 灰白色	やや不良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第40図53	縄文器	甕	2区	E20・F20	SD1 a	19.30				11.20	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・ナデ		5PB7/1 明青灰色	5PB6/1 青灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第40図54	縄文器	甕	5区	G13	SD1	15.00	1.05			6.00	回転ヘラ切り・回転ナデ	回転ナデ		9G/灰色	9G/灰色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	天井部外面に墨書「S/L か「墨」か
第40図55	縄文器	弥生甕	5区	I314	SD1	13.00	4.20	7.10	6.30	12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5G/灰色	10G/1 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	底部内面に「ハ」記号あり
第40図56	縄文器	鉢	5区	I313	SD1	14.40	2.90	7.70	2.20	6.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ	5G/灰色	9G/灰色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	底部外面に「鳥居」の墨書
第40図57	縄文器	円筒器	5区	G12・I312	SD1			16.20		6.20	回転ナデ	回転ナデ		9G/灰色	9G/灰色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	高台部の歪から、れを有する。
第41図1	縄文器	鉢蓋	5区	G12	SD1			8.60		11.50	回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ・ナデ		2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y6/1 黄灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	頂部にボタン状の茎を有する
第41図2	縄文器	高杯	5区	G12・I312	SD1	12.40				4.00	回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ		9G/灰色	9G/灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第41図3	縄文器	高杯	5区	G14・I314	SD1	12.80				5.50	回転ナデ	回転ナデ		5G/灰色	9G/灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第41図4	縄文器	高杯	5区	G14・I314	SD1	11.35	7.00	7.60	2.40	2.20	回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ		9G/灰色	2.5Y4/1 黄灰色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	強き悪みあり
第41図5	縄文器	高杯	4区	F7・G7	SD1						回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ		9G/灰色	9G/灰色	やや良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第41図6	縄文器	鉢蓋	2区	E20	SD1 a			8.60			回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	5Y/灰白色	5Y/灰白色	やや不良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第41図7	縄文器	鉢蓋	2区	F19	SD1 a						回転ナデ・カキ目	回転ナデ		9G/灰色	7.5YR5/2 灰褐色		3mm以下の砂粒を少量含む	半欠部分の再編り付け
第41図8	縄文器	鉢	5区	G12・I312	SD1	12.20				2.00	回転ナデ・カキ目・沈線	回転ナデ		10YR/1 灰色	10G/1 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第41図9	縄文器	鉢	5区	G16	SD1				5.20	12.00	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	ハケ	10G/1 青灰色	10G/1 青灰色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第41図10	縄文器	壺	5区	G14	SD1			8.40		3.30	回転ナデ・回転ケズリ・ヨコナデ	回転ナデ	回転ナデ	9G/灰色	9G/灰色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	強き悪みあり
第41図11	縄文器	鉢	5区	G14・I314	SD1	19.80				2.40	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ		9G/灰色	9G/灰色	やや不良	3mm以下の砂粒を少量含む	強き悪みあり

図版番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)				残存率 (1/12)	調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第45図12	須恵器	甕	５区	G13	SD 1	23.20			2.30		回転ナデ・平行タタキ・カキ目・沈線	回転ナデ・同心円文当具痕		2.5Y7/1 灰白色	2.5Y7/1 灰白色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第45図13	須恵器	甕	５区	G14・I14	SD 1	23.40			1.20		回転ナデ・平行タタキ・カキ目・同転ハケメ不ア	回転ナデ・同心円文当具痕		5G/ 灰色	5G/ 灰色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第45図14	須恵器	甕	２区	F19	SD 1 a	19.40			6.50		回転ナデ・平行タタキ・カキ目	回転ナデ・同心円文当具痕		10B/1 青灰色	10B/1 青灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第46図1	須恵器	甕	５区	G14・I14	SD 1	26.00			3.30		回転ナデ・平行タタキ・カキ目	回転ナデ・同心円文当具痕・ナデ		5G/ 灰色	5G/ 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第46図2	須恵器	甕	２区	F19・E20	SD 1 a	42.20			8.00		回転ナデ・平行タタキ・カキ目・櫛描波状文	回転ナデ・同心円文当具痕		7.5YR6/1 灰色	5G/ 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	別個体の須恵器甕の破片
第46図3	須恵器	甕	１区	D20・D21・E20・E21	SD 1	36.00			16.00		回転ナデ・平行タタキ	回転ナデ・同心円文当具痕		7.5Y4/1 灰色	5G/ 灰色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第46図4	須恵器	横瓶	５区	G11・I11	SD 1	11.00			1.90		回転ナデ・平行タタキ・カキ目	回転ナデ・同心円文当具痕		5Z/ 灰色	5Z/ 灰色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第46図5	須恵器	平瓶	５区	I12	SD 1						回転ナデ	回転ナデ		5G/ 灰色	5PG/1 青灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第46図6	須恵器	平瓶	５区	G13・H12・I11	SD 1						回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ		5Z/ 灰白色	5Z/ 灰白色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第46図7	須恵器	壺	４区	F 7・G 7	SD 1 表土	6.50					回転ナデ・回転ヘラケズリ・沈線	回転ナデ		5G/ 灰色	5G/ 灰色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第46図8	須恵器	把手付鉢	５区	G13・I13	SD 1	19.00			4.90		回転ナデ・ヘラ・沈線	回転ナデ・同心円文当具痕		2.5Y7/1 灰白色	2.5Y7/1 灰白色	小々良	1mm以下の砂粒を少量含む	胎土に牛角状の把手を有する蓋
第46図1	土師器	鉢	５区	G12・I12	SD 1	36.00			4.30		ナデ・ケズリ	ナデ・ハケ		10R6/8 橙色	2.5Y7/4 浅黄色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第46図2	土師器	椀	５区	I11	SD 1	14.00			2.30		ナデ・ケズリ	ナデ		10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第46図3	土師器	椀	５区	G12	SD 1	12.80	2.82	5.90	5.70	5.50	回転ナデ・ケズリ	回転ナデ	ケズリ	2.5YR/3 にぶい黄色	10YR6/4 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第46図4	土師器	椀	５区	G13	SD 1	14.40			2.50		回転ナデ・ミガキ	回転ナデ・ミガキ		2.5YR/2 灰黄色	7.5YR/1 黒色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	二箇所外面から穿孔内面にかけて黒色処理を施す
第46図5	土師器	高杯	５区	G12・I12	SD 1	16.30	10.75	11.60	1.30	7.00	回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ		5YR/1 灰色	2.5YR/2 灰白色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	外面外面から脚部内面にかけて黒色処理を施す
第46図6	土師器	椀	５区	G14・I14	SD 1	12.40	4.20	7.00	6.40	11.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5YR/1 灰白色	5YR/1 灰白色	小々良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第46図7	土師器	椀	５区	G12・I12	SD 1	13.40		6.20	3.20	3.00	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第46図8	土師器	高杯	５区	G12・I12	SD 1	16.40			16.00		ナデ・ハケ	ナデ		2.5YR/3 浅黄色	10YR6/3 浅黄橙色	小々良	5mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第46図9	土師器	高杯	６区		SD 1 b			8.65		9.10	ハケ	ナデ・ハケ		10R5/8 明赤褐色	10R5/4 にぶい赤褐色	小々良	1mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第46図10	土師器	甕	５区	G13	SD 1	8.80	2.35	3.60	2.40	6.10	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	2.5YR/3 にぶい黄色	10R5/2 灰黄褐色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	コテ痕石回りか
第46図11	土師器	椀	５区	H12・I11	SD 1			6.10		2.00	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	2.5Y7/4 浅黄色	5Y5/1 黒色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	内黒痕コテ痕石回り
第46図12	土師器	甕	５区	G13・G14・I14	SD 1	20.00			6.70		ナデ	ナデ		7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第46図13	土師器	甕	５区	G13	SD 1	25.80			1.90		回転ナデ・ハケ	回転ナデ・ケズリ		10YR5/6 黄橙色	10YR5/2 灰黄褐色	小々良	1mm以下の砂粒を少量含む	鼎＋口縁
第46図14	土師器	甕	５区	H13・G13	SD 1	27.60			7.60		ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		2.5YR6/8 橙色	2.5YR5/8 明赤褐色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	鼎＋口縁
第46図15	須恵器	甕	５区		SD 1	20.80	2.00	15.20	1.20	1.70	回転ナデ	回転ナデ		7.5YR7/4 にぶい橙色	2.5YR6/4 にぶい橙色	小々良	1mm以下の砂粒を少量含む	生焼け

調査番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)				残存率 (/12)	調整・文様			色調		焼成	粘土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第46図16	土師器	高杯	5区	G13	SI-1	24.00			1.00		回転ナデ	回転ナデ		7.5YR5/6 明赤褐色	2.5YR6/6 橙色	やや良	2mm以下の砂粒を中量含む	
第46図1	製塩土器		5区	G11・H11	SI-1						輪積み痕	ナデ		7.5YR5/4 褐灰色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良	8mm以下の砂粒を中量含む	○縦方の波形が不整形
第46図2	製塩土器		5区	G11・H11	SI-1						輪積み痕	ナデ		7.5YR5/3 褐灰色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	9mm以下の砂粒を中量含む	○縦方の波形が不整形
第46図3	製塩土器		5区	G11	SI-1						輪積み痕	ナデ		5YR6/4 にぶい橙色	5YR7/4 にぶい橙色	良	4mm以下の砂粒を中量含む	
第46図4	製塩土器		5区	G11・H11	SI-1						輪積み痕	ナデ		7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	良	5mm以下の砂粒を中量含む	○縦方の波形が不整形
第46図5	製塩土器		5区	G11・H11	SI-1						輪積み痕	ナデ		7.5YR6/3 にぶい橙色	7.5YR6/6 にぶい橙色	良	6mm以下の砂粒を中量含む	○縦方の波形が不整形
第46図6	製塩土器	鉢B	5区	G13	SI-1	24.00			4.00		ナデ・輪積み痕	ナデ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	不良	1mm以下の砂粒を多量に含む	
第46図7	製塩土器	鉢B	5区	G11	SI-1						ナデ・輪積み痕	ナデ		9G/ 灰色	7.5YR7/1 灰色	良	5mm以下の砂粒を中量含む	黒斑顕著
第46図8	製塩土器		5区	G11	SI-1						輪積み痕	ナデ		7.5YR6/8 橙色	10YR5/2 灰黄褐色	良	8mm以下の砂粒を中量含む	○黒斑顕著
第46図9A	土師器	移動式竈	5区	G13・H13	SI-1	35.20		1.00			ナデ・ハケ	ナデ		10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を中量含む	
第46図9B	土師器	移動式竈	5区	G13	SI-1						ナデ・ハケ	ナデ		2.5Y7/4 浅黄色	10YR6/3 にぶい黄橙色	良	3mm以下の砂粒を中量含む	炭あり
第46図9C	土師器	移動式竈	5区	G13	SI-1						ナデ・ハケ	ナデ		2.5Y7/4 浅黄色	10YR6/3 にぶい黄橙色	良	3mm以下の砂粒を中量含む	
第47図1	弥生土器	壺	6区	B15	SI-2	17.00			4.40		ナデ・ハケ・櫛描波状列点文・櫛描直線文	ナデ・ハケ		7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第47図2	弥生土器	壺	5区	B14・C14	SI-2	16.00			2.40		ナデ・ハケ・櫛描波状列点文・櫛描直線文・櫛描波状文	ナデ・ハケ		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR6/6 明黄褐色	良	3mm以下の砂粒を中量含む	
第47図3	弥生土器	壺	6区	A20	SI-2	16.00	28.30	3.00	6.10	10.40	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第47図4	弥生土器	壺	6区	A20	SI-2	16.40			6.70		ナデ・ハケ・櫛目痕	ナデ・ケズリ		10YR7/2 にぶい黄橙色	7.5YR7/2 にぶい黄橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第47図5	弥生土器	壺	5区	B15・B16	SI-2	17.40			4.00		ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ・指頭圧痕		10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/2 にぶい黄橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第47図6	弥生土器	壺	6区	A20	SI-2	17.00			7.00		ナデ・ハケ・櫛目痕	ナデ・ケズリ		5.YR6/3 にぶい黄色	2.5R/3 にぶい黄色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第47図7	弥生土器	壺	6区	A20	SI-2	15.60			5.70		ナデ・ハケ・櫛目痕	ナデ・ケズリ		5YR6/3 にぶい橙色	5YR6/4 にぶい橙色	良	4mm以下の砂粒を中量含む	
第47図8	弥生土器	壺	6区	A21	SI-2	15.60			4.30		ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		2.5YR4/4 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第47図9	弥生土器	壺	1区	B17	SI-2	17.00	21.65	3.20	8.30	12.00	櫛目痕・ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	ハケ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良	7mm以下の砂粒を中量含む	
第47図10	弥生土器	壺	1区	B18	SI-2	16.40			11.00		ナデ・ハケ・櫛目痕・刺突列点文	ナデ・ケズリ		10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良	4mm以下の砂粒を中量含む	
第47図11	弥生土器	壺	6区	A20	SI-2	16.60			5.50		ナデ・ハケ・櫛目痕・刺突列点文	ナデ・ハケ・ケズリ		5YR6/6 橙色	5YR5/4 にぶい赤褐色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第47図12	弥生土器	壺	6区	A20	SI-2	24.80			4.30		ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第47図13	弥生土器	壺	6区	A20	SI-2	19.00			4.30		ナデ・ハケ	ハケ・ケズリ		10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第47図14	弥生土器	壺	6区	B20	SI-2	16.80			9.70		ナデ・ハケ・刺突列点文	ナデ・ケズリ		10YR6/3 にぶい黄色	10YR6/3 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	

挿図番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			残存率 (/12)	調整・文様			色調		焼成	粘土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第103図15	弥生土器	甕	6区	A25	⑨2	11.70	15.40	8.60	3.00	8.60	ナデ・指押さえ	ナデ・ケズリ・ミガキ		7.5YR6/6 橙色	10R6/6 橙色	良	8mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第104図1	土師器	甕	1区	B27	⑨2	28.20			6.60		ナデ・ハケ・指頭圧痕	ナデ・ハケ		10YR6/4 赤黄橙色	10YR6/4 赤黄橙色	良	4mm以下の砂粒を多量含む	
第104図2	土師器	甕	6区	A22	⑨2	35.00			1.00		ナデ・ハケ・指頭圧痕	ハケ		7.5YR5/4 にぶい黄橙色	7.5YR6/4 にぶい黄橙色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第104図3	土師器	甕	5区	C14	⑨2	13.70			7.40		ハケ	ハケ・ケズリ		7.5YR5/3 黒褐色	7.5YR4/2 灰黄色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第104図4	土師器	甕	1区	B28	⑨2	16.80	17.30	6.50	6.00	12.00	ナデ・ハケ・指頭圧痕	ハケ・ケズリ	ケズリ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10R6/4 にぶい赤橙色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第104図5	土師器	甕	6区	A25	⑨2	17.40	23.50	16.00	6.90	8.00	ハケ・指頭圧痕	ハケ・ケズリ・指頭圧痕	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR5/4 にぶい黄橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第104図6	土師器	甕	6区	A25	⑨2	16.40	21.20	5.00	8.90	1.30	ナデ・ハケ・指頭圧痕	ハケ・ケズリ		10R6/6 橙色	10R6/6 橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第104図7	土師器	甕	6区	A25	⑨2	16.15			6.90		ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		7.5YR7/4 にぶい橙色	10R6/3 にぶい黄橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第104図8	土師器	甕	6区	A24	⑨2	15.20	19.40	1.90	1.30	12.00	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	焼成前に穿孔	10YR5/2 にぶい黄橙色	10R6/3 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第104図9	土師器	甕	6区	A24	⑨2	16.70			7.00		ナデ・ハケ・指頭圧痕	ハケ・ケズリ		10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第104図1	弥生土器	壺	1区	B27	⑨2	15.40	20.30	6.20	11.30	6.90	ナデ・ハケ・ミガキ・指頭圧痕	ミガキ・ケズリ・指頭圧痕	ハケ	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第104図2	弥生土器	壺	5区	B15・C15	⑨2	16.20			2.70		ナデ・ハケ・櫛目痕・扁平文	ハケ・ケズリ		10YR6/4 にぶい黄橙色	7.5YR6/4 にぶい黄橙色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	胎土に扁平文あり
第104図3	弥生土器	壺	6区	B25	⑨2	16.60			11.00		ハケ・ミガキ・櫛目痕	ハケ・ケズリ		7.5YR5/6 橙色	10YR6/6 黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第104図4	弥生土器	壺	5区	C14	⑨2	11.00			3.40		ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・指頭圧痕		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良	6mm以下の砂粒を少量含む	
第104図5	弥生土器	壺	6区	B25	⑨2	11.80			4.50		ナデ・ハケ	ナデ・指頭圧痕		10YR6/3 にぶい黄橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	胎土に円礫を含する
第104図6	弥生土器	壺	5区	C14	⑨2						ハケ・扁平文	ハケ・ケズリ		10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	胎土外面にハケ目あり扁平文あり
第104図7	弥生土器	壺	6区	A20	⑨2	13.90			6.70		ナデ・ハケ・ミガキ・櫛目痕・扁平文	ナデ・ミガキ・ケズリ・指頭圧痕		10YR5/2 にぶい黄橙色	10YR5/3 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	胎土外面の文様内にハケ目あり扁平文あり
第104図8	弥生土器	壺	6区	A20	⑨2	13.40			6.90		ナデ・ハケ・扁平文	ナデ・ケズリ・指頭圧痕		10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR4/1 黒褐色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	胎土と焼成の外面と器形に扁平文あり
第104図9	弥生土器	壺	6区	A20	⑨2	11.00			9.40		ハケ・指頭圧痕	ハケ・ケズリ・扁平文		7.5YR7/4 にぶい橙色	2.5YR5/2 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	口縁部内面に櫛目文あり
第104図10	弥生土器	甕	5区・6区	B25	⑨2	8.40	11.20	6.00	2.70	5.20	ナデ・ハケ・ミガキ・沈線・指頭圧痕	ナデ・ハケ・指頭圧痕		10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第104図11	弥生土器	壺	6区	A25	⑨2	16.30			2.80		ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ・指頭圧痕		7.5YR5/3 にぶい黄橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第104図12	弥生土器	壺	1区	B28	⑨2	10.40			6.00		ナデ・ミガキ	ナデ・ハケ・指頭圧痕		7.5YR5/3 赤黄褐色	10YR6/3 黄橙色	やや不良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第104図13	弥生土器	壺	6区	A21	⑨2	11.80			6.10		ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		7.5YR7/4 にぶい橙色	10R6/6 橙色	やや良	7mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第104図14	弥生土器	壺	5区	A20	⑨2	16.30			16.30		ハケ	ハケ・ケズリ		2.5YR5/6 明赤褐色	10R6/4 橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第104図10	弥生土器	壺	5区	C14	⑨2			5.50		10.40	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/1 にぶい黄褐色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第104図16	弥生土器	壺	5区	C14	⑨2	12.80			3.00		ナデ・ミガキ・櫛目痕	ナデ・ケズリ・ミガキ		10YR5/2 にぶい黄褐色	2.5YR5/2 にぶい黄褐色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	

検出番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量（cm）				残存率（1/12）		調整・文様			色調		焼成	粘土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部		外面	内面	底面	外面	内面			
第16遺17	土師器	甕	5区	C13	⑨2	11.60			8.50			ナデ・ハケ	ナデ・ハケ		7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	やや良	2mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第16遺18	弥生土器	甕	6区	A24・B24	⑨2	16.40			5.10			ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第16遺19	土師器	甕	6区	A25	⑨2		15.40	丸底		12.80	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ・指圧痕底			7.5YR7/4 にぶい黄橙色	10YR5/3 にぶい黄褐色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第16遺20	弥生土器	甕	6区	A26	⑨2			6.90		11.20	ハケ	ナデ		焼成後に穿孔	5YR7/4 にぶい橙色	10YR6/1 褐灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第16遺1	弥生土器	甕	6区	A28	⑨2	16.20			2.80			ナデ・ハケ・櫛目痕	ナデ・ケズリ		7.5YR6/6 橙色	5YR6/4 橙色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第16遺2	弥生土器	甕	6区	A19	⑨2	16.00			3.60			ナデ・ミガキ・櫛目痕	ナデ・ミガキ		10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第16遺3	弥生土器	甕	6区	A22	⑨2	16.00			6.60			ナデ・ハケ・櫛目痕	ナデ・ケズリ		7.5YR6/6 橙色	10YR6/6 明黄褐色	良	6mm以下の砂粒を少量含む	
第16遺4	弥生土器	甕	6区	A23	⑨2	16.00			1.70			ナデ・ミガキ・櫛目痕	ミガキ・ケズリ		10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第16遺5	弥生土器	甕	6区	B25	⑨2	12.40			2.90			ナデ・ハケ・ミガキ・櫛目痕	ナデ・ハケ・ミガキ・ケズリ・指圧痕		5YR5/4 にぶい黄橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第16遺6	弥生土器	甕	6区	A24	⑨2	16.50			9.00			ナデ・ハケ・櫛目痕	ナデ・ケズリ		5YR7/6 橙色	5YR7/4 にぶい橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第16遺7	弥生土器	甕	6区	A25	⑨2	12.90	21.90	4.60	8.30	12.90	ハケ・ハケ・手摘圧痕文	ナデ・ハケ・ケズリ	ケズリ		7.5YR6/4 にぶい橙色	2.5YR6/4 にぶい橙色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第16遺8	弥生土器	甕	6区	A22	⑨2	12.40			6.00			ナデ・ミガキ・櫛状圧痕文	ミガキ		5YR6/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第16遺9	弥生土器	甕	1区	B12・B24	⑨2	30.40			4.20			ミガキ・櫛目痕・円形浮文・竹管文	ハケ		7.5YR5/2 灰黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	外面に赤彩の痕跡あり 赤鉄鉱か
第16遺10	弥生土器	甕	6区	A22	⑨2	16.60			7.70			ナデ・ミガキ・櫛目痕・円形浮文・竹管文	ミガキ		2.5YR5/2 にぶい黄褐色	2.5YR5/3 にぶい黄褐色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第16遺11	弥生土器	甕	6区	A20	⑨2	16.20			6.70			ナデ・ハケ・櫛目痕	ナデ・ケズリ		10YR6/4 浅黄橙色	10YR6/3 浅黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第16遺12	弥生土器	甕	6区	A20	⑨2	16.40			9.70			ナデ・ハケ・櫛目痕	ナデ・ハケ・ミガキ		7.5YR6/3 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第16遺13	弥生土器	甕	6区	B20	⑨2	15.30			8.90			ナデ・櫛目痕	ナデ		7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	胎土に円礫を含む 調整不明瞭
第16遺14	弥生土器	甕	5区	B10・C13	⑨2	16.80			2.00			ナデ・ハケ・ミガキ・円形浮文・竹管文・櫛目痕・指圧痕・櫛状圧痕文	ナデ・ハケ・ミガキ		10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/2 灰黄褐色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第16遺15	弥生土器	甕	6区	A24	⑨2	8.70	14.20	3.10	6.30	12.00	ミガキ・櫛目痕	ミガキ・ナデ	ナデ		10YR7/4 にぶい黄橙色	2.5YR6/2 にぶい黄褐色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	胎土に不純物が多く含む
第16遺16	弥生土器	甕	5区	B15	⑨2	11.20			5.00			ナデ・ハケ・櫛目・刺突列点文	ナデ		10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第16遺17	弥生土器	甕	6区	A20	⑨2	12.40			6.70			ナデ・ハケ・円形浮文・刺突文	ナデ・ケズリ		10YR6/3 浅黄橙色	2.5Y7/4 浅黄色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第16遺18	弥生土器	甕	1区		⑨2	14.60			5.60			ナデ・ハケ・櫛目・直線文・櫛描刺突列点文・指圧痕	ナデ・ハケ		7.5YR6/4 浅黄橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	やや不良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第16遺19	弥生土器	甕	6区	A20	⑨2	12.60			4.60			ナデ・ハケ・指圧痕	ナデ・ハケ・ケズリ		7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第16遺20	弥生土器	甕	6区	A20	⑨2	17.30			12.00	11.10	ナデ・ハケ・ミガキ・縦ヘラ状突帯文	ナデ・ハケ		7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良	6mm以下の砂粒を少量含む	
第16遺21	弥生土器	甕	5区	C14	⑨2	12.60			5.40			ナデ・ハケ・ミガキ・指圧痕	ナデ・ハケ・指圧痕		10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/3 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第16遺1	弥生土器	高杯	5区	C13・D13	⑨2	25.40			6.60			ナデ・ハケ・ミガキ	ナデ・ハケ・ミガキ		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR6/6 明黄褐色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	

神図番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)				残存率（%）		調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部		外面	内面	底面	外面	内面			
第6図2	弥生土器	高杯	6区	B25	⑩2	22.80			3.20			ナデ・ハケ・ミガキ	ナデ・ハケ・ミガキ		7.5YR2/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	物部に円孔を有する
第6図3	弥生土器	高杯	6区	A23	⑩2	24.70			6.50			ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ		10YR2/1 にぶい黒褐色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第6図4	弥生土器	高杯	6区		⑩2	27.00			1.60			ナデ・ハケ	ナデ・ミガキ		7.5YR6/8 橙色	7.5YR6/8 橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6図5	弥生土器	高杯	5区	A16	⑩2			10.80		1.20		ハケ	ナデ・ハケ		7.5YR2/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6図6	弥生土器	高杯	6区	B25	⑩2							ハケ	ナデ・ハケ		2.5YR5/6 明赤褐色	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6図7	弥生土器	高杯	1区	B26	⑩2	31.00			5.00			ナデ・ミガキ	ナデ・ハケ・ミガキ		10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6図8	弥生土器	高杯	6区	A23	⑩2			11.00		3.20		ナデ・ミガキ	シボリ		10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	物部に円孔を有する
第6図9	弥生土器	高杯	6区	A24・B24・D23	⑩2	26.70			5.30			ナデ・ミガキ・縦回転	ナデ・ミガキ		10YR3/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第6図10	弥生土器	高杯	5区	D15	⑩2	26.20			3.60			ナデ・ミガキ・縦回転	ナデ・ミガキ		10YR6/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6図11	弥生土器	高杯	6区	A20	⑩2	24.50	24.00	15.50	3.10	4.30		ナデ・ミガキ・縦回転	ナデ・ミガキ・ハケ・シボリ		7.5YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	良	9mm以下の砂粒を少量含む	
第6図12	弥生土器	高杯	6区	A24	⑩2	25.60			16.70			ナデ・ミガキ・縦回転	ナデ・ミガキ		10YR3/3 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第6図13	弥生土器	高杯	1区	A27	⑩2	21.90			2.50			ナデ・ハケ・ミガキ	ナデ・ミガキ		5YR6/8 橙色	5YR6/6 橙色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第6図14	弥生土器	高杯	6区	A20	⑩2	27.80			16.40			ナデ・ミガキ・縦回転	ナデ・ミガキ		10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6図15	弥生土器	高杯	6区	A20	⑩2	24.15			7.80			ナデ・ミガキ・縦回転	ナデ・ミガキ		10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	やや良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6図16	弥生土器	高杯	6区	A24	⑩2	24.60			7.60			ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ		10YR6/3 浅黄橙色	2.5Y7/4 浅黄色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6図17	弥生土器	高杯	6区	A20・B20	⑩2	24.20			3.00			ナデ	ナデ		10YR6/4 浅黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	やや良	5mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6図18	弥生土器	高杯	6区	B25	⑩2	21.20			2.60			ナデ・ミガキ・縦回転	ナデ・ミガキ		10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/6 明黄褐色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第6図19	弥生土器	高杯	1区	B28・B29	⑩2	25.90			2.90			ナデ・ハケ・ミガキ・装飾	ナデ・ハケ・ミガキ		7.5YR2/4 にぶい褐色	5YR6/6 橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第6図20	弥生土器	高杯	6区	B25	⑩2			12.60		6.10		ハケ・ミガキ	シボリ・ナデ・指圧正底		10YR3/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6図21	弥生土器	高杯	6区	B25	⑩2			13.90		11.50		ナデ・ミガキ	シボリ・ハケ		2.5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6図22	弥生土器	高杯	6区	A24	⑩2			12.80		7.30		ミガキ	シボリ・ナデ		7.5YR3/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6図23	弥生土器	高杯	5区	C14・C15	⑩2	36.40	12.10	9.60	6.80	9.20		ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ミガキ		10YR3/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6図24	弥生土器	器台	6区	A20	⑩2			17.80		4.30		ナデ・ミガキ	シボリ・ミガキ		7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	物部4箇所に円孔を有する
第6図25	弥生土器	高杯	6区	A20	⑩2			21.00		2.70		ミガキ	ナデ・ハケ		10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	物部4箇所に円孔を有する
第6図26	弥生土器	高杯	1区	B26	⑩2	31.20	14.00	11.60	4.00	3.40		ナデ・ハケ・ミガキ	ハケ・ナデ		10YR3/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	物部4箇所に円孔を有する
第6図1	弥生土器	甕形器	6区	A24	⑩2	18.70	18.25	1.60	6.60	9.60		ハケ	ハケ・ケズリ	焼成前に穿孔	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR3/1 黒褐色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	

検出番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量（cm）				残存率（%）	調整・文様			色調		焼成	粘土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第6調3	弥生土器	鉢	5区	D14	第2	5.80	4.30	1.50	5.30	12.00	ハケ・ミガキ	ハケ・ナデ		7.5YR5/6 明赤褐色	7.5YR5/6 明赤褐色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6調4	弥生土器	鉢	6区	A22	第2	16.00			4.60		ハケ	ハケ		10YR7/4 にぶい橙色	10YR7/ にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6調5	弥生土器	鉢	6区	A25	第2	36.00	15.90	3.90	7.60	11.40	ハケ・ミガキ・指頭圧痕	ナデ・ケズリ・指頭圧痕	ハケ	7.5YR7/4 にぶい橙色	2.5YR7/4 にぶい橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6調6	弥生土器	鉢	6区	A24	第2	13.70	14.40	5.70	6.50	2.00	ハケ・指頭圧痕	ナデ・指頭圧痕		7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第6調7	弥生土器	鉢	6区	A26	第2	26.00			3.00		ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		7.5YR6/3 にぶい橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6調8	弥生土器	鉢	6区	A24	第2	16.60	13.35	3.60	1.60	1.60	ハケ	ハケ		7.5YR5/3 にぶい橙色	10YR5/4 にぶい赤褐色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6調9	弥生土器	鉢	1区	B27	第2	16.00			16.70		ナデ・ミガキ・擬回廊	ナデ・ミガキ		7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR6/6 橙色	やや良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第6調10	弥生土器	鉢	5区	C14	第2	16.70			1.10		ナデ・ハケ・擬回廊	ナデ・ケズリ		7.5YR6/6 橙色	2.5YR5/2 灰褐色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6調11	弥生土器	鉢	6区	A24	第2	12.00	9.20	3.80	3.00	12.00	ハケ	ハケ・指頭圧痕		7.5YR7/4 にぶい橙色	2.5YR7/6 橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6調12	弥生土器	鉢	6区	A20	第2	23.00			3.10		ナデ・擬回廊	ナデ・ケズリ		10YR6/2 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第6調13	弥生土器	鉢	1区	B28	第2	22.00	16.20	6.00	5.00	2.70	擬回廊・ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ		2.5YR7/4 にぶい橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	やや良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6調14	弥生土器	鉢	1区	B28	第2	28.00	8.90	3.60	2.00	12.00	ナデ・ミガキ・ハケ・擬回廊	ハケ・ミガキ		10YR6/3 にぶい黄橙色	7.5YR6/4 にぶい黄橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6調15	弥生土器	鉢	1区	B27・B28	第2	16.00			2.90		ナデ・ハケ	ナデ・ミガキ		7.5YR6/6 橙色	10YR6/6 橙色	やや良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6調16	弥生土器	鉢	6区	A26	第2	17.30			6.00		ナデ・ハケ・擬回廊直線文・擬縄痕突出文	ナデ・ハケ		10YR3/2 黒褐色	10YR3/2 黒褐色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第6調17	弥生土器	壺か甕か鉢か	6区	A21	第2	16.40	8.40	4.60	5.70	12.00	ハケ	ミガキ		2.5YR4/2 にぶい黄色	2.5YR4/4 にぶい黄色	良	5mm以下の砂粒が多量に含まれる	胎土に多量の砂粒を有する 調整不明瞭
第6調18	弥生土器	鉢	1区	B27	第2	26.00			3.00		ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ・指押さえ		7.5YR6/3 浅黄橙色	7.5YR6/2 浅黄橙色	やや不良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第6調19	弥生土器	鉢	1区	B27	第2	18.00	12.00	丸底	1.30	12.00	ハケ・指押さえ	ハケ・指押さえ		10YR7/4 にぶい橙色	2.5YR7/4 にぶい橙色	やや良	5mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6調20	弥生土器	鉢	5区	C14	第2	16.60	4.40	2.70	1.60	8.50	ハケ・指圧痕	ハケ	ハケ	7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6調21	弥生土器	鉢	6区	A22・A23	第2	23.00	8.50	1.60	11.00	12.00	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		7.5YR7/4 にぶい橙色	2.5YR7/6 橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6調22	弥生土器	鉢	1区	B28	第2	35.00	8.00	4.60	16.00	8.00	ナデ・ハケ	ナデ		7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR6/6 橙色	やや不良	5mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6調23	弥生土器	壺か鉢か	5区	A16	第2	16.70	11.50	1.10	3.60	12.00	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	焼成前に穿孔	2.5YR6/6 橙色	2.5YR6/6 橙色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第6調24	弥生土器	鉢	6区	A24	第2	8.10	7.90	4.60	5.10	8.50	ナデ・ハケ	ナデ・指押さえ		2.5YR5/6 明赤褐色	2.5YR5/6 明赤褐色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6調25	弥生土器	鉢	5区	C14	第2	6.80	6.30	2.00	3.40	1.80	ナデ	ナデ・ミガキ		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	やや良	3mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6調26	弥生土器	鉢	1区	B28	第2	30.20	9.80	3.80	1.00	12.00	ナデ・ハケ・擬回廊直線文・擬縄痕突出文	ナデ・ハケ・ケズリ		2.5YR3/4 黒褐色	2.5YR4/4 にぶい赤色	やや良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第6調27	弥生土器	鉢	6区	A20	第2	12.80	8.00	3.60	6.20	12.00	ナデ・ハケ・ミガキ・擬回廊	ナデ・ケズリ	ハケ・ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙色	2.5YR5/4 にぶい橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	胎土に円孔を有する

検出番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)				残存率（%）	調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口径/底径	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第6調20	弥生土器	鉢	6区	A24	第2	16.70	8.55	3.00	11.20	12.00	ハケ・刷み目文	ハケ・指頭圧痕	ナデ	7.5YR5/2 灰褐色	10YR6/3 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6調29	弥生土器	壺か甕か	5区	C13	第2	16.90	6.35	4.60	8.90	7.00	ナデ・ミガキ	ナデ・ケズリ・ミガキ	ケズリ	10YR5/6 黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	赤褐色の粒子を含む
第6調30	弥生土器	鉢	5区	C14	第2	12.60			4.30		ミガキ	ミガキ・ケズリ・指頭圧痕		10R6/6 橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6調31	弥生土器	甕か鉢か	5区	C14	第2	8.20			6.40		ハケ・ミガキ	ハケ・シボリ		5YR5/8 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第6調32	弥生土器	甕か鉢か	6区	A20	第2	7.60			2.10		ハケ・ミガキ	ハケ・ナデ		7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	良	6mm以下の砂粒を少量含む	
第6調1	弥生土器	甕か鉢か	6区	A20	第2	25.40			7.00		ナデ・ハケ・ミガキ・擬沉線	ハケ・ミガキ・シボリ		7.5YR6/3 にぶい黄橙色	7.5YR6/3 にぶい黄橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第6調2	弥生土器	器種不明	1区	B17	第2						擬沉線・ナデ	ナデ		10YR6/3 浅黄橙色	10YR6/3 浅黄橙色	やや不良	2mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6調3	弥生土器	甕か	6区	A20	第2			20.80		16.00	ナデ・擬沉線	ナデ・ハケ		2.5YR5/2 灰黒色	10YR6/4 浅黄橙色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第6調4	弥生土器	甕か	5区	C13	第2	18.40	16.80	16.00	1.70		ハケ	ハケ		7.5YR6/4 にぶい黄橙色	7.5YR6/4 にぶい黄橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	胴部に円孔を考える
第6調5	弥生土器	器種不明	5区	C14	第2	14.00			1.60		ナデ	ハケ・ナデ		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	胴部に三角の円孔あり
第6調6	弥生土器	甕か	6区	A22	第2			16.00		2.10	ミガキ・沉線	ナデ・ケズリ		10YR6/2 灰黄褐色	7.5R4/1 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	外底を含めて4箇所の穿孔あり
第6調7	弥生土器	甕か	6区	A24	第2			15.60		6.30	ハケ	ハケ・ケズリ		7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR7/3 にぶい橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第6調8	弥生土器	甕か	6区	A24	第2						ミガキ・刷み目突帯文	ハケ・ミガキ		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	胴部の4箇所にエンマ状の透かし孔あり
第6調9	弥生土器	甕か	6区	A25	第2	12.00	6.80	6.90	2.00	11.30	ミガキ	ナデ・ミガキ		7.5YR6/6 橙色	10R6/6 橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6調10	弥生土器	甕か鉢か	6区	A24	第2	10.00	6.70	5.60	3.90	7.20	ナデ・指押さえ			10R7/3 にぶい橙色	10R7/3 にぶい橙色	やや良	3mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6調11	弥生土器	甕か鉢か	6区	A22・A24	第2	8.80	7.55	6.90	1.40	11.00	ナデ・指押さえ			10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	やや良	5mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6調12	弥生土器	甕か鉢か	6区	B25	第2	12.10	6.20	5.80	6.00	11.00		ハケ		7.5YR7/3 にぶい橙色	2.5YR7/4 にぶい橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6調13	弥生土器	甕か鉢か	6区	A24	第2	11.80	6.80	5.80	4.30	12.00	ハケ・指押さえ	ハケ		10R6/6 橙色	7.5R5/2 灰褐色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6調14	弥生土器	高杯	5区	B16	第2	11.50	16.00	8.60	11.00	7.50	ハケ・ミガキ	ハケ・ミガキ		7.5YR7/3 にぶい橙色	5YR5/6 明赤褐色	やや良	1mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6調15	弥生土器	高杯	6区	B25	第2	22.10	13.70	10.00	5.00	8.10	ナデ・ハケ	ミガキ・シボリ		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第6調16	土師器	器台	6区	A22・A23	第2	8.60	8.00	8.60	1.30	6.00	ナデ・ハケ・ミガキ	ナデ・ハケ・指頭圧痕		10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6調17	土師器	器台	6区	A22・B22	第2	8.40	8.70	11.40	12.00	3.00	ミガキ・ナデ	ミガキ・ハケ		2.5YR5/6 橙赤褐色	2.5YR5/6 橙赤褐色	良	6mm以下の砂粒を少量含む	胴部の3箇所に円孔を穿する
第6調18	土師器	器台	6区	A22	第2	9.50	8.80	10.60	11.00	4.30	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケ		2.5YR5/8 明褐色	2.5YR5/8 明褐色	良	7mm以下の砂粒を少量含む	
第6調19	弥生土器	器台	6区	A25	第2	8.80	8.40	10.60	1.40	5.30	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケ		2.5Y7/2 淡黄色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第6調20	土師器	器台	6区	A26	第2			8.60		10.30	ハケ・指頭圧痕	ハケ		10YR7/3 にぶい黄橙色	7.5YR6/3 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6調21	弥生土器	器台	6区	A24	第2						ナデ・ミガキ	シボリ・ケズリ		10YR7/4 にぶい黄橙色	2.5YR7/4 にぶい橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	上下二段の3箇所に円孔を穿する

検出番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)				残存率 (%)	調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第6図22	弥生土器	鉢か	6区	B25	第2			8.30		2.60	ナデ	ナデ		10YR5/6 黄褐色	10YR5/6 黄褐色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6図23	弥生土器	甕	6区	A20	第2	12.80	6.20		5.30		ハケ	ハケ・指頭圧痕		10BG/1 にぶい緑色	10BG/1 にぶい緑色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第6図24	弥生土器	甕	6区	A20	第2	12.80	6.40		3.70		ナデ・ハケ・指押さえ	ナデ・ハケ		10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	良	7mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6図25	弥生土器	甕	6区	A20	第2	16.10	5.20		5.50		ナデ・ハケ・ミガキ・指押さえ	ハケ		7.5YR4/4 褐色	10YR5/3 にぶい黄橙色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第6図26	弥生土器	甕	6区	A24	第2	16.10	5.90		7.70		ナデ・ハケ・指押さえ	ハケ		10R3/4 にぶい赤褐色	10R6/4 にぶい赤褐色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6図27	弥生土器	甕	6区	A20	第2	13.40	5.50		2.00		ナデ・指押さえ	ナデ・ハケ		7.5YR5/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6図28	弥生土器	甕	6区	A24	第2	16.80	7.20		1.20		ナデ・ハケ・指押さえ	ナデ・ハケ		7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第6図29	弥生土器	甕	6区	A24	第2	15.80	6.30		7.70		ナデ・ハケ・指押さえ	ナデ・ハケ		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6図30	弥生土器	甕	5区	D13	第2	11.10	5.30		7.60		ナデ・指押さえ	ナデ		10YR6/2 にぶい黄橙色	10YR6/2 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6図31	弥生土器	甕	5区	D13	第2	10.50	3.60		7.90		ミガキ・指押さえ	ミガキ		2.5YR5/8 明赤褐色	2.5YR5/8 明赤褐色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第6図32	弥生土器	甕	6区	A25	第2	12.20	5.90		7.70		ナデ・指押さえ	ナデ・ハケ		10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第6図33	弥生土器	甕	6区	A24	第2	12.60	4.40		12.00		ナデ・ハケ・指押さえ	ナデ・ハケ		10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/6 明黄褐色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第6図34	弥生土器	甕	5区	C14	第2	12.00	5.00		1.00		ナデ・ハケ・指頭圧痕	ナデ・ハケ・指頭圧痕		10YR6/6 明黄褐色	10YR6/4 にぶい黄橙色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第6図1	須恵器	坏蓋	5区		第2	14.80	3.20		2.60		回転ヘラ切り・回転ナデ	回転ナデ・ナデ		5G/ 灰色	5G/ 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第6図2	須恵器	坏蓋	5区	D12・D14	第2	12.60	2.15		2.20		回転ヘラ切り・回転ナデ	回転ナデ・ナデ		5G/ 灰色	5G/ 灰色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第6図3	須恵器	坏蓋	5区	C15	第2	12.40	1.45		4.00		回転ヘラ切り・回転ナデ	回転ナデ		5G/ 灰色	5G/ 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第6図4	須恵器	坏蓋	5区	D16	第2	11.80	6.90		2.30		回転ヘラ切り・回転ナデ	回転ナデ		5G/ 灰色	5G/ 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6図5	須恵器	坏蓋	5区	B15・B16	第2	15.20			1.90		回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	回転ナデ		5G/ 灰色	5G/ 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第6図6	須恵器	壺か甕	6区		第2	16.40	4.00	8.60	2.80	5.60	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5YR7/1 灰白色	5YR7/1 灰白色	やや不良	3mm以下の砂粒を少量含む	胴部
第6図7	須恵器	壺か甕	5区	A16	第2	13.20	4.65	8.20	4.30	9.20	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5YR5/1 灰色	5YR5/1 灰色	やや良	8mm以下の砂粒を少量含む	
第6図8	須恵器	壺か甕	2区	A17	第2	14.30	3.75	6.60	8.90	6.90	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5G/ 灰色	5G/ 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	内外面に多数の赤黒い斑点があるが、不明瞭
第6図9	須恵器	壺か甕	5区	A16	第2	11.40	2.95	7.50	6.20	12.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5YR7/1 灰白色	10BG/2 紫黒褐色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6図10	須恵器	壺か甕	5区		第2	12.80	3.90	7.10	6.00	6.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5YR7/1 灰白色	5YR7/1 灰白色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6図11	須恵器	壺か甕	5区	A16	第2	11.70	3.35	9.10	4.00	6.80	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5G/ 灰色	5G/ 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6図12	須恵器	甕	5区	D13・D14	第2	16.40	2.45	12.40	2.30	2.70	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5Y/ 灰白色	5Y/ 灰白色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第6図13	須恵器	甕	5区	D14	第2	15.80	2.40	12.80	1.30	2.70	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5YR7/1 灰白色	5YR7/1 灰白色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	

挿図番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			残存率(/12)	調整・文様				色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第4図16	縄文器	鉢	5区	C15	⑨2	11.80	2.30	10.80	2.50	3.60	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	9/6/ 灰色	9/6/ 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第4図17	縄文器	鉢	5区	B15	⑨2	11.90	1.95	11.00	3.00	7.30	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	9/5/ 灰色	8/2/ 灰白色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第4図18	縄文器	鉢	5区	A16	⑨2	13.90	1.90	10.20	3.50	6.70	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	2.5YR/3 黒灰色	2/2/1 灰白色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	漆付着
第4図19	縄文器	鉢	5区	A16	⑨2	13.50	2.05	10.80	6.00	5.90	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	9/6/ 灰色	9/6/ 灰色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第4図20	縄文器	鉢	5区	C15	⑨2	13.40	2.10	10.60	4.00	9.60	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	9/5/ 灰色	8/5/ 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第4図21	縄文器	鉢	5区	C15	⑨2	13.00	2.00	10.80	6.40	5.80	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	2.5YR/3 黒灰色	2.5YR/2 暗灰黄色	やや不良	5mm以下の砂粒を少量含む	軟質
第4図22	縄文器	鉢	5区		⑨2	13.90	1.65	11.00	4.00	4.20	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	9/6/ 灰色	9/6/ 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第4図23	縄文器	鉢	5区	D13・D14	⑨2	15.20	1.45	11.90	6.60	2.10	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	9/7/ 灰白色	8/7/ 灰白色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第4図24	縄文器	鉢	5区	D13・D14	⑨2	13.70	2.25	10.60	2.90	2.50	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	9/5/ 灰色	7.5YR/1 灰色	やや良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第4図25	縄文器	鉢	5区	B14	⑨2	13.90	2.35	11.00	5.70	5.60	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	2/7/1 灰白色	2.5Y/1 灰白色	やや良	1mm以下の砂粒を少量含む	軟質
第4図26	縄文器	鉢	青竹谷	2区	A17	14.60	2.90	7.60	3.00	5.90	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	2/7/1 灰白色	9/6/ 灰色	やや良	1mm以下の砂粒を少量含む	内外面に煤が付着
第4図27	縄文器	鉢	青竹谷	5区		12.60	2.70	8.00	16.00	12.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	9/5/ 灰色	9/6/ 灰色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第4図28	縄文器	鉢	青竹谷	5区		13.30	4.90	8.50	1.20	10.80	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	9/5/ 灰色	2.5YR/1 黒灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第4図29	縄文器	鉢	青竹谷	5区		12.50	4.25	7.00	4.00	12.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	9/6/ 灰色	9/6/ 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第4図30	縄文器	鉢	青竹谷	5区		13.00	4.90	7.00	2.10	2.40	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	9/5/ 灰色	9/6/ 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第4図31	縄文器	鉢	青竹谷	5区	D13・D14	⑨2	11.90	3.90	8.10	1.70	2.20	回転ナデ	回転ナデ	9/5/ 灰色	9/6/ 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第4図32	縄文器	鉢	青竹谷	5区	A16	⑨2	13.90	6.10	8.10	6.50	6.00	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	9/7/ 灰白色	8/7/ 灰白色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第4図33	縄文器	鉢	青竹谷	5区	A16	⑨2	14.10	5.60	7.60	12.00	11.10	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	7.5YR/5 灰色	7.5YR/4 灰褐色	良	6mm以下の砂粒を少量含む	
第4図34	縄文器	鉢	梅	5区	A16	⑨2	14.40	6.25	6.60	4.00	6.50	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	9/6/ 灰色	8/7/ 灰白色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第4図35	縄文器	鉢	梅	5区	A12・B12・B13	⑨2	12.75	4.90	8.80	10.60	12.60	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ	9/7/ 灰白色	9/6/ 灰色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	外面に数條(2以上)・オリーブ黒色)を混ず
第4図36	縄文器	鉢	梅	2区	A17	⑨2	13.90	4.10	7.60	4.30	11.80	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	10R/3 灰色	10R/3 灰色	やや良	3mm以下の砂粒を少量含む	ロクロ右回り
第4図37	縄文器	鉢	梅	5区	A16	⑨2			7.25		12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	9/6/ 灰色	9/6/ 灰色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	ロクロ右回り
第4図38	縄文器	鉢	梅	5区	C14	⑨2	13.30	3.75	7.10	3.60	2.30	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り・ナデ	9/7/ 灰白色	8/7/ 灰白色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第4図39	縄文器	鉢	梅	5区		⑨2	12.80	4.15	6.90	1.40	4.50	回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ	回転ナデ	9/7/ 灰色	8/7/ 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第4図40	縄文器	鉢	梅	5区	A16	⑨2	13.70	4.50	7.60	4.30	6.00	回転ナデ	回転ナデ		10R/1 灰色	10R/1 灰色	やや良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第4図41	縄文器	鉢	梅	5区	A16	⑨2	13.80			4.00		回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ		10R/1 灰色	2.5R/1 黒灰色	良	2mm以下の砂粒を多量に含む	

図版番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)				残存率(/12)	調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第6図6	縄文器	鉢	2区	A17	第2			6.50		12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	5G/灰色	5G/灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	ロクロ右回り
第6図4	縄文器	鉢	2区	A17	第2			6.60		12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り・ナデ	5G/灰色	5G/灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	ロクロ右回り
第6図2	縄文器	皿	3区	B15・B16	第2	15.30	2.30	5.20	2.30	4.40	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	5G/灰色	5G/灰色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第6図3	縄文器	皿	3区	A16	第2	16.00	3.00	6.00	2.50	6.80	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	回転ナデ	10R/1灰色	2.5R/2灰黄色	やや良	6mm以下の砂粒を少量含む	
第6図10	縄文器	鉢	3区		第2	33.70	5.40	6.20	2.90	3.50	回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ	回転ケズリ・回転ナデ	5G/灰色	5G/灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6図15	縄文器	鉢	2区	A17	第2			6.80		8.50	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	5Y/黄灰色	5YR/1灰色	やや良	2mm以下の砂粒を少量含む	粗質 外面に鉄釉（5G/暗灰色）を施す
第6図16	縄文器	鉢	3区	A16	第2			5.80		7.20	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	5G/灰色	5G/1灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第6図17	縄文器	鉢	3区		第2			6.60		6.40	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	10R/1灰色	10R/1灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第6図18	縄文器	鉢	2区	A17	第2			6.50		8.50	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	5G/灰色	5G/灰色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第6図19	縄文器	鉢	3区		第2			5.00		10.50	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	5G/灰色	5Y/灰白色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6図9	縄文器	弥生土器	3区	B15	第2	14.20	4.75	8.70	5.10	4.20	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	5G/灰色	5G/灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第6図11	縄文器	弥生土器	3区	A16	第2	12.90	5.00	6.50	2.90	3.60	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	5G/灰色	5YR/1灰白色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第6図12	縄文器	弥生土器	3区	B15・B16	第2	13.00	5.00	6.60	3.90	5.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ	5YR/1灰白色	5YR/1灰白色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	外面に鉄釉（5G/黒色）を施す
第6図13	縄文器	弥生土器	3区	A16	第2	12.10	4.60	7.60	1.70	11.20	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	2.5Y2/2灰黄色	2.5Y2/2灰黄色	不良	3mm以下の砂粒を少量含む	外面に鉄釉（5G/黒色）を施す 焼成不良
第6図14	縄文器	鉢	3区		第2	16.90			1.90		回転ナデ	回転ナデ		5Y/灰白色	5Y/灰白色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第6図20	縄文器	鉢	2区	A17	第2	16.30	7.00	7.50	1.40	11.40	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	5G/灰色	5G/灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	内外面に鉄釉（2.5Y/オリーブ黒色）を施す
第6図5	縄文器	鉢	6区	A18	第2	13.60	4.80	5.80	2.30	5.00	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	5G/灰色	5G/灰色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第6図7	縄文器	鉢	1区	A17	第2	15.30	5.55	7.00	1.40	1.60	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	5G/灰色	5G/灰色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第6図1	縄文器	壷類	3区	A16	第2	16.20	2.15			7.20	回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ・櫛目	回転ナデ・ナデ		5G/灰色	5G/灰色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	大井窯外面に櫛目
第6図2	縄文器	壷類	3区		第2	12.65	1.45			5.30	回転ヘラ切り・回転ナデ・板状圧痕	回転ナデ・ナデ		10YR/1灰色	10YR/1灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	大井窯外面に「三箇」・「藤巳」の墨書
第6図3	縄文器	弥生土器	3区		第2	11.20	4.60	5.60	2.20	12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ	5G/灰色	5Y/灰白色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	底部外面に墨書 字句不明
第6図4	縄文器	壷類	3区	B11・B16・C15・C16	第2	16.20	2.60			6.40	回転ヘラ切り・回転ナデ	回転ナデ・ナデ		5G/灰色	5G/灰色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	大井窯外面に墨書 字句不明
第6図5	縄文器	壷	3区	C15	第2	13.00	1.80	10.20	3.60	5.10	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5G/灰色	5Y/灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	底部外面に墨書「三箇」か
第6図6	縄文器	鉢	3区	B15	第2			5.00		12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ	10R/1灰色	5YR/3灰色	良	7mm以下の砂粒を少量含む	底部外面に「和」の墨書
第6図7	縄文器	弥生土器	3区		第2	11.80	5.30	6.10	3.20	4.30	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5G/灰色	5G/灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	底部外面に「和」の墨書 その他は字句不明
第6図8	縄文器	壷	3区	A16	第2	14.70	1.70	11.60	7.20	9.50	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ・櫛状圧痕	5Y/灰色	5Y/灰色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	底部外面に墨書 字句不明 朝日者

神図番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)				残存率（/1）	調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口径部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第61図9	須恵器	椀	2区	A17	⑩2			6.50		7.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ	5G/1 灰色	5G/1 灰色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	底部外面に「包」か「墨」の墨書
第61図10	須恵器	蓋	3区	A16	⑩2			10.60		3.30	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5G/1 灰色	5G/1 灰色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	底部外面に墨書「包」か「墨」か
第61図11	須恵器	有台皿	3区	B15	⑩2			6.60		6.80	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	10G/1 灰色	10G/1 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	底部外面に墨書「包」か「墨」か
第61図12	須恵器	蓋	2区	A17	⑩2	16.80	3.30	6.50	1.00	12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ	10G/1 灰色	10G/1 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	底部外面に「包」・「墨書」の墨書
第61図13	須恵器	椀	6区	A18	⑩2						回転ナデ	回転ナデ		7.5YR/1 灰色	2.5BG/1 黒灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	外面に「己酉」の紀年を有する
第61図1	須恵器	甕	3区	C14	⑩2	38.60			1.10		回転ナデ・沈線	回転ナデ・同心円文当て具痕		10Y/1 灰白色	N7/1 灰白色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第61図2	須恵器	甕	3区	B15	⑩2	18.20			6.70		回転ナデ・平行タタキ・沈線	回転ナデ・同心円文当て具痕		10YR7/3 灰白色	10YR7/1 灰白色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第61図3	須恵器	甕	3区	C14・C15	⑩2	46.00			1.60		回転ナデ・沈線・櫛描波文	回転ナデ		N3/ 暗灰色	N4/ 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第61図4	須恵器	壺	3区		⑩2	11.70			1.30		回転ナデ	回転ナデ		10Y5/2 灰オリーブ色	10Y5/2 灰オリーブ色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第61図5	須恵器	壺	3区	B16・C16	⑩2	8.50			2.50		回転ナデ	回転ナデ		N4/ 灰色	N5/ 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第61図6	須恵器	壺	2区	A17	⑩2	7.70			6.60		回転ナデ	回転ナデ		9G/ 灰色	9G/ 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第61図7	須恵器	蓋	3区	B15・B16	⑩2			3.60		8.00	回転ナデ・回転ケズリ・沈線・円孔	回転ナデ	回転ケズリ	9G/ 灰色	9G/ 灰色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第61図8	須恵器	短頸壺	2区	A17	⑩2						ケズリ・ナデ	ナデ		2.5Y7/1 灰白色	2.5Y7/1 灰白色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	矩辺2箇所の円孔あり
第61図9	須恵器	高坏	1区	B19	⑩2			9.80		5.80	回転ナデ	回転ナデ		2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y7/1 灰白色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第61図10	須恵器	壺	3区	A16	⑩2			8.60		2.80	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y5/1 黄灰色	N5/ 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第61図11	須恵器	壺	2区	A17	⑩2			6.90		8.60	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1 灰白色	2.5Y7/1 灰白色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	外面に墨書（N3/暗灰色）を施す
第61図12	須恵器	壺	3区	A16・B16	⑩2			8.20		6.60	回転ケズリ・平行タタキ・回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	9G/ 灰色	9G/ 灰色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第62図1	緑釉陶器	蓋	6区		⑩2	13.70	3.05	6.60	2.00	12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ケズリ	底部 10Y5/1 灰色 釉部 7.5Y4/2 灰オリーブ色		良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第62図2	緑釉陶器	蓋	3区	A16・B16	⑩2	16.70	3.40	6.60	2.70	4.60	回転ナデ	回転ナデ	回転ケズリ	底部 2.5Y7/3 浅黄色 釉部 10Y5/2 灰オリーブ色		良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第62図3	緑釉陶器	蓋	3区	B16	⑩2			6.90		4.00	回転ケズリ・回転ナデ	回転ナデ	回転ケズリ	底部 2.5Y6/3 浅黄色 釉部 10Y5/2 オリーブ灰色		小々良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第62図4	緑釉陶器	蓋	3区	A16	⑩2			5.90		9.00	回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ	回転ケズリ	底部 2.5Y6/1 灰白色 釉部 2.5Y6/3 灰黄色		小々良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第62図5	緑釉陶器	蓋	3区	A15・B15・B16	⑩2	11.40				6.00	回転ナデ	回転ナデ		底部 2.5Y6/2 灰白色 釉部 10Y5/2 灰オリーブ色		良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第62図6	緑釉陶器	椀	2区	A17	⑩2			8.60		2.10	回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ	回転ケズリ	底部 10YR7/2 にぶい黄橙色 釉部 2.5Y6/3 黄橙色		小々良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第62図7	土師器	椀	1区	C20	表土	11.80	3.90	6.10	1.20	12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り・ナデ	2.5Y7/3 浅黄色	10YR7/2 にぶい黄橙色	小々良	1mm以下の砂粒を少量含む	口縁部に付着痕あり ロクロ左回り
第62図8	緑釉陶器	椀	5区		⑩2	11.40	2.80	6.30	3.00	11.20	回転ナデ	回転ナデ	回転ケズリ	底部 10Y5/1 灰色 釉部 2.5GY6/3 明オリーブ灰色		良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第62図9	灰釉陶器	蓋	2区	A17	⑩2				7.20		4.70	回転ナデ	回転ナデ	回転ケズリ	2.5Y6/2 灰黄色	2.5Y6/2 灰黄色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	

検出番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)				残存率 (%)		調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面				
第6図10	土師器	椀	2区	A17	第2			6.60		10.50	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	2.5YR2/2 灰黒色	2.5YR2/2 灰黒色	中々良	2mm以下の砂粒を少量含む	内面外面に墨書 判読不能 ロクロ右回り	体部外面に墨書 判読不能 ロクロ右回り
第6図11	灰釉陶器	椀	4区		表土	14.00	5.50	7.00	3.00	11.20	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り・回転ナデ	黄褐色 10YR6/1 灰色	10YR6/2 灰オリーブ色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	ロクロ右回り	
第6図12	白磁	椀	3区	C13・C14	第2	17.60			3.60		回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ		黄褐色 10YR7/1 灰白色	10YR7/1 灰白色	良	1mm以下の砂粒を少量含む		
第7図1	弥生土器	壺	1区	C27	第5	26.00			1.30		ナデ・縄目痕	ナデ・ケズリ		7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む		
第7図2	弥生土器	器台 器台	1区	C27・C28	第5									10YR7/4 にぶい黄橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	中々良	5mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭 受け部に透かし孔の痕跡を残す	
第7図3	弥生土器	高坏	1区	B27	第5						ミガキ	シボリ・ハケ		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭	
第7図4	須恵器	坏	2区	J20	第3	13.30	3.90	6.20	4.00	12.00	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N5/ 灰色	N6/ 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む		
第7図5	須恵器	壺か 甕か	2区	C16	第3	11.00	3.40	6.60	6.40	5.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り	N7/ 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	良	2mm以下の砂粒を少量含む		
第7図6	須恵器	壺か 甕か	2区	H16	第4	13.00	3.30	8.10	1.95	1.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ・指頭圧痕	N6/ 灰色	2.5GY6/1 灰オリーブ色	良	1mm以下の砂粒を少量含む		
第7図7	須恵器	坏蓋	3区	L.10・L.11	第8	16.00	2.90		3.00		回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ・板目圧痕	回転ナデ		N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む		
第7図8	須恵器	壺か 甕か	4区	L.2・M.2	第6	12.20	3.90	6.60	4.40	9.50	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む		
第7図9	土師器	椀	7区	L.10・M.10	第2	12.00	4.40	5.60	6.00	11.60	ナデ	ナデ・ミガキ		5YR4/6 赤褐色	2.5YR5/6 明赤褐色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭	
第7図1	須恵器	坏蓋か	2区	C21	排水溝	11.70			2.00		回転ナデ	回転ナデ		7.5Y4/1 灰色	7.5Y4/1 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む		
第7図2	須恵器	壺か 甕か	4区	F.7・G.7	表土	12.80			4.80		回転ナデ	回転ナデ		10Y/1 灰白色	N7/ 灰色	良	5mm以下の砂粒を少量含む		
第7図3	須恵器	蓋	2区	C21	排水溝	17.00	2.25	14.20	3.80	2.20	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	7.5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	良	1mm以下の砂粒を少量含む		
第7図4	須恵器	壺か 甕か	3区		表土	11.40	4.80	6.30	2.30	10.30	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	5mm以下の砂粒を少量含む		
第7図5	須恵器	壺か 甕か	5区	H16	表土	11.80	3.00	6.00	1.50	3.30	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む		
第7図6	須恵器	壺か 甕か	4区		表土			8.60		5.30	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り	10Y/1 灰白色	10Y/1 灰白色	不良	2mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭	
第7図7	須恵器	坏蓋	1区	E27	表土	12.60	4.00		3.00		回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ		10Y/1 灰白色	10Y/1 灰白色	良	2mm以下の砂粒を少量含む		
第7図8	須恵器	坏	1区	D27・E27		16.00	3.55	4.10	4.70	5.00	回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	1mm以下の砂粒を少量含む		
第7図9	須恵器	坏蓋	3区		排水溝	16.60	2.95		6.50		回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	回転ナデ・ナデ		5PB6/1 青灰色	5PB6/1 青灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む		
第7図10	須恵器	坏	4区	G.4・G.5		8.10	3.45	6.00	10.50	12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り	10YR/1 灰色	10Y/1 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む		
第7図11	須恵器	壺か 甕か	4区	F.7・G.7	表土	11.80	3.45	6.40	2.00	4.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む		
第7図12	白磁	蓋	4区	K.4	表土				5.00	12.00	回転ケズリ	回転ナデ	回転ケズリ	黄褐色 2.5Y8/1 灰白色	褐色 2.5Y8/1 灰白色	良	1mm以下の砂粒を少量含む		
第7図13	青磁	椀	5区	G16	撹乱				3.10		6.00	回転ナデ	回転ケズリ	褐色 2.5Y7/2 灰黄色	褐色 5G6/1 オリーブ灰色	良	1mm以下の砂粒を少量含む		
第7図14	白磁	椀	4区		表土	16.20				6.00	回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ		褐色 2.5Y8/1 灰白色	褐色 2.5Y8/1 灰白色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	漬け掛	

調査番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量（cm）			残存率（1/12）		調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第76図15	須恵	甕	5区	K11	表土						回転ナデ・櫛描文	回転ナデ		7.5YR/1 灰色	7.5R/1 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第76図16	青磁	椀	5区	J 16・J 17	表土	16.00			6.20		蓮連弁文			鶯釉 5Y7/2 灰白色 輪鶯 7.5R/3 灰オリーブ色		良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第76図17	石鹸	椀	4区		表土		5.80			11.80	回転ナデ	回転ナデ・撫鉢	回転ナデ	鶯釉 7.5YR/1 灰白色 輪鶯 10YR/1 灰白色		良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第76図18	瓦器	鍋	1区	E26	遺構面上	36.00			1.20		ナデ・指押さえ	ナデ・ハケ		2.5Y2/1 黒白色	2.5Y2/1 黒白色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第76図19	須恵	鍋蓋	5区	K 11・K12			17.60			1.30	回転ナデ・鋸歯状文	回転ナデ・指ケ目		2.5Y7/4 浅黄色	2.5Y7/4 浅黄色	やや良	2mm以下の砂粒を少量含む	

第６表　石器観察表

調査番号	器種	地区	グリッド	出土地	法量（遺存値：cm・g）				遺存状況	石材	備考
					全長	最大幅	最大厚	重量			
第4図6	磨石類	6区	B 26	SB3 SP417	13.5	10.1	5.0	984.0	完形	砂岩	端部に敲打の痕跡　全面摩耗
第4図26	G鉄	4区	I 4	SB3	19.5	5.7	2.0	258.5	完形	ガラス質安山岩	サスカイト　鳥瞰を顕微鏡で分析した結果表材
第5図1	二次加工のある剥片	2区	E 20	SB1a	2.8	6.1	0.7	7.1	残欠	ガラス質安山岩	剥片の一辺に浅い両面調整
第5図2	打製石斧	3区	H14	SB1	12.6	5.5	2.5	160.0	完形	ヂイサイト	刃部摩　偏刃
第5図3	磨石類	3区	G 15	SB1	18.8	7.4	5.5	1157.9	完形	安山岩	両主面摩痕　周縁敲打痕
第5図4	磨石類	5区	H15・H16	SB1	11.8	6.0	2.8	412.4	完形	安山岩	周縁の一部に敲打痕
第5図5	磨石類	6区		SB1	9.1	6.7	3.9	457.7	完形	安山岩	片主面と周縁に敲打痕　周縁には面形成　両主面摩耗
第5図6	磨石類	1区	D 27・E 27	SB1	9.5	6.0	3.8	462.1	完形	安山岩	両主面に敲打痕・凹凹形成　周縁敲打痕・面形成
第5図7	磨石類	5区	G 11	SB1	11.8	10.2	8.0	1007.9	完形	安山岩	両主面・周縁敲打痕
第6図1	ステレイパー類	5区	C 15	SB2	9.8	7.3	1.0	70.3	完形	ガラス質安山岩	片側辺に両面調整で刃部作出
第6図2	二次加工のある剥片	5区	A 15・B 15・A 16	SB2	11.0	6.4	1.2	146.7	残欠?	ガラス質安山岩	元側面?端部欠損なので石材材質（自然面）なのか判断とこない
第6図3	ステレイパー類	6区	A 25	SB2	10.5	6.4	2.0	61.0	完形	頁岩	鋭辺に微細剥離　両面摩耗・長軸面
第6図4	ステレイパー類	5区		SB2	5.9	8.9	8.7	16.5	完形	ガラス質安山岩	素材剥片の打点微電鏡に二次加工
第6図5	ステレイパー類	3区	B 14・B 15	SB2	7.9	3.1	0.6	25.3	完形	結晶質	円礫から他状に剥離した素材　刃部やや内傾　全面摩耗
第6図6	打製石斧	5区	B 15・B 16・C 15・C 16	SB2	12.9	5.6	2.1	163.7	完形	砂岩	刃部摩　偏刃　刃部再生
第6図7	打製石斧	5区	B 15	SB2	13.0	5.7	1.8	126.6	基部～刃欠	片岩	剥分剥所　欠損部は節理面
第6図8	打製石斧	1区	B 29	SB2	10.3	6.8	2.3	181.6	刃部～刃欠	ホルンフェルス	側所　全面著しく風化
第6図9	磨製石斧	5区	C 16	SB2	6.6	6.1	4.0	307.9	刃部欠	安山岩	片主面平坦
第6図10	石剣・石刺	5区	B 16・C 16	SB2	10.4	6.4	2.6	206.5	残欠	頁岩	片面自然面　片面平坦剥離
第6図11	石刀・石刺	5区		SB2	11.0	5.6	2.2	136.7	残欠	頁岩	表面剥落

調査番号	遺構	地区	グリッド	出土地	出土量（遺存値：cm・g）				遺存状況	石材	備考
					全長	最大幅	最大厚	重量			
第6図1	磨石類	6区	B25	SD2	11.2	10.5	6.0	900.0	完形	ザイライト	両主面敲打痕・側面・側縁　周縁敲打痕　側面四敷料
第6図2	磨石類	6区	A29	SD2	8.4	9.0	4.0	600.2	破砕形	砂岩	両主面敲打痕・側面・側縁　周縁敲打痕　被熱により周縁の一部剥落　片主面平坦部に黒化
第6図3	磨石類	6区	A23	SD2	8.3	7.0	3.0	375.4	残欠	砂岩	両主面敲打痕・側面（破面？）　片主面部四　側辺敲打痕
第6図4	磨石類	6区	B25・B26	SD2	8.4	7.7	3.1	296.6	完形	安山岩	端部敲打痕　全面摩耗
第6図5	磨石類	6区	B25	SD2	11.0	9.0	4.7	630.1	完形	安山岩	両主面敲打痕　全面摩耗
第6図6	磨石類	1区	B27	SD2	11.3	9.4	5.7	925.4	完形	閃緑岩	両主面敲打痕・側面　端部敲打痕　全面摩耗
第6図7	磨石類	5区	B16	SD2	13.9	9.0	6.7	1220.2	破砕形	閃緑岩	端部敲打痕　片主面端部剥落　全面摩耗
第6図8	磨石類	5区	A15・B15・A16	SD2	9.6	7.3	7.0	650.0	完形	閃緑岩	各面体　各面敲打痕・側縁？
第6図9	磨石類	6区	A23	SD2	7.9	6.9	4.0	471.1	残欠	安山岩	片主面敲打痕　端部敲打痕　全面摩耗
第6図10	磨石類	1区		SD2	8.8	5.0	4.1	274.6	完形	安山岩	端部敲打痕・面形成
第6図11	磨石類	6区	A29	SD2	12.3	5.3	6.1	570.5	完形	凝灰岩	当初状に成形　各面敲打痕　漂状の凹凸
第6図12	磨石類	5区		SD2	6.6	6.3	5.8	415.1	残欠	ザイライト	端部敲打痕・面形成　黒色付着物　被熱
第6図13	石皿	6区	A24	SD2	20.0	19.0	9.0	5670.0	残欠	安山岩	両面磨痕
第6図14	敲石	5区	A16	SD2	16.5	10.5	7.0	1652.7	残欠	砂岩	当初状に成形　両主面・両側面を敲面とする　敲面は縦やうに強か　長軸方向に敲状痕　片主面に黒変V字の潰形成
第6図15	敲石	6区	A29	SD2	10.7	9.3	3.0	443.7	残欠	砂岩	楕状　両主面・片側面を敲面とする　長軸方向に敲か敲状痕
第7図	石皿	5区		SD2	72.4	47.0	8.1	44010.0	破砕形	安山岩	片主面磨痕　使用面は縦やうに強か　両端部かに欠損
第7図1	打製石斧	3区	N13	遺物出土集中地点	16.5	5.8	2.0	125.6	完形	ザイライト	短冊形
第7図2	打製石斧	3区	N13	遺物出土集中地点	12.4	5.3	1.2	84.3	完形	頁岩	短冊形　刃部摩耗・長軸方向の敲状痕
第7図3	打製石斧	3区	N13	遺物出土集中地点	12.1	6.2	1.9	194.0	完形	砂岩	短冊形
第8図1	スレイパー類	3区	M15	トレンチ	6.1	3.7	6.7	12.6	完形	チャート	石器等の未成品か
第8図2	スレイパー類	4区	H15	表土	10.2	3.9	1.1	66.3	完形	頁岩	片側辺は急傾斜　表面剥落
第8図3	二次加工のある剥片	4区			6.7	5.5	1.1	36.2	完形	頁岩	
第8図4	打製石斧	5区		排土	9.6	4.1	1.1	71.5	完形	安山岩	短冊形　刃部摩耗　側辺つぶれ
第8図5	打製石斧	4区		遺構表土	8.0	4.5	1.7	57.7	刃部欠	頁岩	短分厚形
第8図6	打製石斧	2区	F24	撹乱	23.7	8.9	3.5	800.2	完形	ザイライト	短冊形
第8図7	打製石斧	4区	I 8	表土	14.7	8.6	2.6	297.2	完形	頁岩	撥形

挿図番号	器種	地区	グリッド	出土地	法量（遺存値：cm・g）				遺存状況	石材	備考
					全長	最大幅	最大厚	重量			
第61図8	打製石斧	4区		排土	11.3	6.2	1.0	100.0	刃部・側辺一部欠	頁岩	敲痕 片面剥離
第61図1	磨石類	4区		表土	11.9	6.8	3.7	470.1	完形	ひん岩	片主面磨痕　側面に敲打痕の凹み・潰出
第61図2	磨石類	4区	L7		13.0	11.0	6.4	1336.0	完形	閃緑岩	両主面磨打痕・凹面　端部磨打痕　被熱変化
第61図3	磨石類	3区	M14	トレンチ	11.1	10.2	5.6	902.2	完形	閃緑岩	両主面磨打痕・凹面　端部磨打痕
第61図4	磨石類	4区	I 3		5.9	6.9	3.8	195.5	残欠	安山岩	両主面磨打痕・凹面　周縁磨打痕・凹面　主面擦痕

第７表　木製品観察表

挿図番号	器種	地区	グリッド	出土地	法量（遺存値：cm）				樹種	木取り	備考
					全長	最大幅	最大厚	重量			
第62図1	柱根	2区	D21	SB7 SP116	28.20	16.50	17.60			芯持ち材	底面に加工痕が認められるが、風蝕のため不明瞭
第62図2	柱根	4区	I 7	SB19 SP1109	23.20	13.70	12.30			芯持ち材	底面に加工痕が認められるが、風蝕のため不明瞭
第62図3	礎板	4区	I 7	SB19 SP1109	26.20	17.55	3.15			板目	下端を斜横方向切り落とす
第62図4	柱根	4区	H 7・I 7	SB19 SP1110	34.30	12.10	11.00			芯持ち材	底面に加工痕が認められるが、風蝕のため不明瞭
第62図5	柱根	4区	H 7	SB19 SP1113	30.35	14.50	13.00			芯持ち材	底面に加工痕が認められるが、風蝕のため不明瞭
第62図6	柱根	4区	H 7	SB19 SP1114	33.30	18.80	16.40			芯持ち材	底面に加工痕が認められるが、風蝕のため不明瞭 樹皮面の一部炭化
第62図7	柱根	4区	G 9	SB17 SP980	31.30	22.20	18.20			芯持ち材	底面に加工痕が認められるが、風蝕のため不明瞭 樹脂面観察不能
第62図8	柱根	4区	G 9	SB17 SP984	30.30	27.80	23.60			芯持ち材	底面に加工痕が認められるが、風蝕のため不明瞭
第62図9	柱根	3区	M11	SB15 SP788	22.30	20.60	18.90			芯持ち材	底面に加工痕あり
第62図10	柱根	3区	J 12	SB15 SP808	28.40	24.10	20.20			芯持ち材	底面に加工痕が認められるが、風蝕のため不明瞭 樹脂面観察不能
第62図8	漆器皿	3区	K 16	SA 1 SP2178			6.40	1.20	ハス科ケヤキ属ケヤキ	横木取り	黒漆地に朱漆にて、菊花の型押し（スタンプ）文を施す
第62図9	板材	3区	K 16	SA 1 SP2182	14.20	4.60	1.00			柾目	
第62図10	板材	3区	K 16	SA 1 SP2182	14.30	3.70	2.65			柾目	
第62図11	柱根	3区	L 16	SA 1 SP2240	44.90	15.60	14.30			芯去り材	樹皮面を面取り 樹脂面観察不能
第62図1	下駄	1区	E 27	SD 1	26.10	9.20	1.20	3.20	ヒノキ科ヒバ属	柾目	差歯式の下駄　鼻緒を装着する穴同左有する 最大厚は、歯等中央を計測
第62図2	丸棒状	1区	D 28	SD 1	14.70	2.05	1.45			板目	右端面に使用の痕みを４箇所認める
第62図3	加工棒材	1区		SD 1	62.70	2.15	1.05			板目	下端を削り、尖らせる
第62図4	加工棒材	1区		SD 1	66.25	2.25	1.50			板目	下端を削り、尖らせる
第71図1	盆	6区	A 20	SD 2	口径24.80		1.40	4.20	スギ科スギ属スギ	横木取り	外面に横方向削り を施す 底面内面に黒漆あり

調査番号	器種	地区	グリッド	出土地	法量（遺存値：cm）				樹種	木取り	備考
					全長	最大幅	最大厚	重量			
第71図2	容器底板	S区	C14	SD2	復8.10		0.70			板目	一次大根
第71図3	容器底板	S区	A16	SD2	復11.30～12.60		0.70			板目	一次大根
第71図4	容器底板	S区	B25	SD2	28.80	6.85	1.10			板目	全体の約1/6が遺存
第71図5	加工板材	S区	C14	SD2	32.25	7.60	1.40		スギ科スギ属スギ	板目	器体中央に切り込みを入れ、上端に方形孔を穿する
第71図6	弓弦	I区	B28	SD2	16.30	1.70	1.00			板目	右側縁に切り込みを入れる
第71図7	竹状具	S区	C13	SD2	19.40	6.40	2.30		スギ科スギ属スギ	板目	横皮の突起を穿する 先端欠損
第71図8	棒材	S区	C14	SD2	32.70	1.10	1.30			芯持ち材	細い枝材を利用し、端部の側って尖く仕上げる
第71図9	棒状材	S区	A22	SD2	17.25	2.50	1.00			柾目	器体の上下および中央に、紐掛け用の溝を穿する
第71図10	柄	S区	A20	SD2	24.65	復5.30			スギ科スギ属スギ	板目	上端に半環状の突起を穿する
第71図11	器状具	S区	A23	SD2	36.00	24.00	1.30		スギ科スギ属スギ	柾目	下端を長楕円形の器状を呈し、上端は柄下を浅く削って突起状にしあげる
第71図12	杭材	S区	B25	SD2	17.00	5.30	3.40		スギ科スギ属スギ	板目	上端には円錐状の突起を供出し、器体下部には円孔を穿する
第71図1	柄	I区	A27	SD2		19.05	1.30	16.05	スギ科スギ属スギ	縦本取り	器体下端に目釘有り
第71図2	柄	S区	B14	SD2		19.15	2.50	31.50	スギ科スギ属スギ	縦本取り	器体下端に目釘有り
第71図3	柄	S区	A20	SD2		21.65	1.75	35.70	スギ科スギ属スギ	縦本取り	柱孔あり　内面に一次黒鉛あり
第71図4	櫛	S区	C13	SD2	27.90	14.00	1.25	8.70	スギ科スギ属スギ	横本取り	底部に削り出しの櫛を穿する 最大厚は、器体中央を計測
第71図5	櫛	S区	C14	SD2	46.60	22.20	0.80	6.60	スギ科スギ属スギ	横本取り	最大厚は、器体中央を計測
第71図6	櫛	I区	B27	SD2	46.60	23.60	0.75	6.30	スギ科スギ属スギ	横本取り	手前側が長方形を呈する 最大厚は、器体中央を計測
第71図7	櫛	I区	B27	SD2	53.60	23.30	0.95	5.20	スギ科スギ属スギ	横本取り	最大厚は、器体中央を計測
第71図1	櫛	S区	B25	SD2	91.25	29.60	0.60	11.00	スギ科スギ属スギ	横本取り	底部に削り出しの櫛を穿する 最大厚は、器体中央を計測
第71図2	脚付板材	S区		SD2	46.90	19.50	2.20	6.40	スギ科スギ属スギ	板目	底部に削り出しの脚を穿する 穂孔底部か 最大厚は、器体中央を計測
第71図3	加工棒材	I区		SD2	113.70	3.60	2.30			柾目	器体下半に黒鉛あり
第71図4	加工板材	S区	C14	SD2	85.30	22.60	1.20		スギ科スギ属スギ	板目	器体上端から右側縁にかけて斜めに切り落とす
第71図5	加工板材	I区	B28	SD2	92.60	18.00	2.15		スギ科スギ属スギ	板目	器体上部に長方形の大きな込みを穿する
第71図6	加工板材	S区		SD2	79.70	3.90	4.10			板目	器体上部に方形孔を穿する 下端を削って尖くせ上げる
第71図7	加工板材	I区		SD2	87.25	9.10	2.90		スギ科スギ属スギ	板目	器体上部に方形孔を穿する 裏面を中心に黒鉛を穿する
第71図1	櫂板	S区	D12	SD2	141.70	66.20	3.00		スギ科スギ属スギ	板目	右側縁に方形孔を穿する

挿図番号	器種	地区	グリッド	出土地	法量（遺存値：cm）				樹種	木取り	備考
					全長	最大幅	最大厚	重量			
第7図2	角刃鉋子	５区	Ｃ14	Ⅲ2	134.05	15.05	6.30		スギ科スギ属スギ	板目	4段分の装飾口部が遺存
第7図3	加工板材	６区	Ｂ25	Ⅲ2	112.70	16.20	2.40		スギ科スギ属スギ	板目	器体中央に方形孔を穿する
第7図1	加工板材	６区	Ｈ25	Ⅲ2	62.25	9.60	1.40			柾目	器体上部に方形孔を穿する
第7図2	加工板材	６区		Ⅲ2	67.25	4.50	1.10			板目	器体上部に方形孔を穿する
第7図3	加工板材	６区	Ｂ25	Ⅲ2	27.20	11.65	6.25			板目	大きな入り口を有する 不定の転用材か
第7図4	加工板材	５区	Ｄ13	Ⅲ2	35.40	7.15	1.65			板目	器体下部右側面を斜めに切り落とす
第7図5	加工板材	６区	Ｂ25	Ⅲ2	66.40	3.50	1.50			板目	下端を削って狭く仕上げる
第7図6	加工板材	５区	Ｃ14	Ⅲ2	67.90	6.10	1.60			柾目	下端を削って狭く仕上げる
第7図7	加工棒材	６区	Ａ22	Ⅲ2	36.10	1.80	1.75		スギ科スギ属スギ	板目	器体上端に小さな角状の突起を作り出す ウシか
第7図8	木錐	１区	Ｂ28	Ⅲ2	74.80	10.00	1.70	11.45	スギ科スギ属スギ	板目	器体下端に方形孔を穿する 最大厚は、器体中央を計測
第7図9	加工板材	５区	Ｃ13・Ｃ14・Ｄ13・Ｄ14	Ⅲ2	30.00	6.75	3.70			板目	上端を斜めに切り落とし、その下部の角を削る
第7図10	加工棒材	５区	Ｃ13・Ｄ13	Ⅲ2	37.30	3.80	3.00			柾目	上端を斜めに切り落とし、側面の角の一部を削る